Update Information:

2026/10/11/ 8:22 PM

◆各話へのクイックリンク

設定資料を飛ばして、本編を読まれる方は、クイックリンクを使ってばすことができます。

□第一話
□第二話
□第三話
□第四話
□第五話
□第六話
□第七話
□第八話
□第九話

Copyright@2026 D³S

設定資料

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

夢雄　美侶

Copyright@2026 D³S

タイトル

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

記号等

□第〇幕　サブタイトル

〇場所

補足の情景

▽ト書き

全体あらすじ

工業高校に入学した、超変態女子高校生　夢前　美優の周りで起こる
ドタバタ学園コメディ
中学二年生の時、姉の部屋で偶然見つけた、大人への扉の本。
大人への世界に関心をもち、立派は痴女に成長します。
圧倒的な男子生徒数の工業高校には、男子が好きな男子、男子生徒が好きな男性教師
がいたりと、刺激がいっぱい　危険がいっぱい
変態、痴女、ＢＬ、ＴＬ　ときどき、シリアス　何でもありの　まさに、
エンターティメント。

※本作は高校一年一学期　編となります

Copyright@2026 D³S

シリーズ構成

☆本作
・「私が工業高校に進学した理由　一学期」
・「私が工業高校に進学した理由　二学期」
・「私が工業高校に進学した理由　三学期」

Copyright@2026 D's

全話共通設定

2026.09.30

※全話を通しての設定で

登場人物

◎メインキャスト

※本シリーズを通してのキャストです
（カッコ内）は、一学年四月での年齢

夢前　美優（ゆめさき　みう）（十五歳）
身長１６４センチ
本人は思っていないが、スタイはいい
高校一年生、（増本中学校出身）
成績は普通
ブラスバンド部に入っており、中学ではトランペット、
高校ではクラリネットを担当している
人前ではウヴな振りをしているが、内面は超エロエロ
いつも男子の股間を見ている
ひとつ　ひとよりエロが好き
ふたつ　ふふふ　とスケベ心
みっつ　見たくてたまらない
よっつ　よろけて、わしづかみ
いつつ　いかせてなんぼやねん

Copyright©2026 D³S

高谷　智美（たかたに　ともみ）（十五歳）
身長１６０センチ
高校一年生
野球部マネージャー
三人の中では背も高くおしゃれ
高校のみんなの前では経験済みの振りをしているが、実は経験無しで、
案外純情
ちなみに、中学時代は、嫌われ者で虐められていた
※この中学時代の智美の過去は二学期編で判明

中川　松子（なかがわ　まつこ）（十五歳）
身長１５４センチ
高校一年生（辺富中学校出身）
吉賀に恋する乙女
成績優秀で、クラスでは吉賀と競う
大学へ進学するための費用を貯めるため、カメラ屋でバイトをしている
また、同じ中学校の出身に小島がいる

小村　健一（こむら　けんいち）（十五歳）
高校一年生（増本中学校出身）
身長１７６センチ　スタイルもいい

Copyright@2020 DS

イケメンで、女子にもてる要素をもちながらも、すごく純粋でエロとは皆無。高校一年生になって、オナニーも知らなかったまじめでだが、世間知らずで危なっかしい時がある。

吉賀　達郎（よしが　たつお）（十五歳）
高校一年生
身長　１６０センチ　体重４８キロ　華奢で色白
カリブ海に浮かぶ小国の外交官の息子で金持ち
小村と結婚させようと、祖父が送り込んできている

松村　純（まつむら　じゅん）（十五歳）
高校一年生
身長１６１センチ　体重５２キロ
普段は黒縁メガネをかけている
水泳部に所属しているおり、服を着ている時は、たんなるオタクの雰囲気
服を脱ぐと、見事な筋肉質の肉体を持ち、ボクシング、空手、などを会得しており　喧嘩はかなり強いようだ。
※松村の過去は第三部で判明

〇家族構成
よく登場する家族を紹介

Copyright@2006 D's

■夢前家
郊外の住宅地に住んでいる
二階建ての一軒家　よくある注文住宅
美優、美穂の部屋が二階にある

父　（現時点・無名）
普通のサラリーマン４０代
コンピュータ関係の仕事をしており、ＩＴに長けている

母　（現時点・無名）
専業主婦。二人の娘をもつ母親

姉　美穂（みほ）美優の二歳年上（十七歳）
秀才で成績は常にトップ
※中学までは、それほど成績はよくなく、中学のある出会いから
猛勉強し超難関国立大学に自宅から通っている
そのためか　おしゃれに疎くすっぴんで、服もシンプル

■小村家
郊外の住宅地に住んでいる
二階建ての一軒家　よくある注文住宅

Copyright©2026 D³S

父　浩太郎（こうたろう）（四十四歳）
ごくごく普通の会社でサラリーマンをしているが、裏では絶大な人気を誇るアダルト小説を書いており稼いでいる。家族にはまったく知られていない。

母　明日香（こむら　あすか）（四十歳）
専業主婦
浩太郎を普通のサラリーマンだと信じ切っている

妹　明日美（こむら　あすみ）健一の一つ下（一四歳）

□吉賀家
代々カリブ海に浮かぶ小国の外交官をしている

祖父　吉賀　ＸＸＸ（現時点・無名）
父　吉賀　ＸＸＸ（現時点・無名）
母　吉賀　遥（はるか）

□中川家
祖母　（現時点・無名）
日本海の海岸近くに一人で住む大地主
松子のことを可愛がってくれている

Copyright@2026 ES

□小島家
郊外の住宅地に住んでいる
二階建ての木造建築
小島の部屋二階の和室
隣が姉（優子）の部屋

姉　優子（ゆうこ）小島より二歳年上
年下イケメンがなにより大好き
美優の姉　美穂と同じ大学に通っている
（ただし、小島、美優は知らない）
美優との姉との話は、二年生で登場

○クラスメイト
２組の生徒は、３年間持ち上がりのため、変更はありません。
★主要人物
話の中に頻繁に登場する

☆準主要人物
話の流れに影響がある人物
セリフで、生徒Ａ、生徒Ｂとなっている場所は、誰が話してもいい

出席番号

Copyright©2026 D³S

1 足立（あだち）

2 井口（いぐち）
バレーボール部
喧嘩ぱやい正確をしている

3 池田（いけだ）
サッカー部
小島の仲間

4 石井 盆太（いしい ぼんた）
通称 ボンソワール

5 岩山（いわやま）

6 遠藤（えんどう）

7 太田（おおた）

8 尾方（おがた）

Copyright@2020 D³S

９　柿本（かきもと）

１０　桂川（かつらがわ）

１１　木高（きだか）

☆

１２　小島　智（こじま　とも）

身長１７２センチ　普通体系だが、顔が大きいため振り、しかも、怪獣映画に出てきそうな顔

山岳部

二次元萌えキャラ大好き

好きな色は　ピンク

しかし。二次元キャラに飽き足らず、カワイイ男の子

吉賀、松村のことも狙っている

二年生編では、姉（優子）がおり、美優の姉と同じ大学に通っている事が判明

★

１３　小村　健一（こむら　けんいち）

バスケットボール部

１４　塩屋（しおや）

小島の仲間

Copyright 2026 D³S

１５　柴山（しばやま）

１６　白石　（しらいし）

１７　高石　（たかいし）

☆

１８　滝本　恵（たきもと　めぐみ）

ラグビー部

元々、美優、小村と同じ中学出身

がっちりした体格で、高校ではラクビー部に所属

二部の文化祭で、年上のＡＶ女性に好意を持ち、

クリスマスに関係を持ってしまう。

そしてＡＶ女性が、小村の父親と知り合いであり、

滝本にはバレてしまう

１９　谷田　（たにだ）

クラスではイケメンボーイで　もてる容姿をしている

いつも中林と連んでいる

２０　津世　（つせ）

演芸同好会

Copyright©2026 D³S

２１　手柄（てがら）
２２　豊国（とよくに）
２３　中尾（なかお）
２４　中谷（なかたに）
２５　中野（なかの）
　　バスケットボール部
　　身長が高い
２６　中林（なかばやし）
２７　中山（なかやま）
２８　永江（ながえ）
２９　新田（にった）
３０　沼田（ぬまた）

Copyright©2026 D³S

３１　野村　（のむら）

３２　鼻瀬　（はなせ）

３３　百部　（ひゃくべ）

３４　福井　良樹（ふくい　よしき）
ラグビー部

３５　福山　俊雄　（ふくやま　としお）
山岳部

★

３６　松村　純　（まつむら　じゅん）
水泳部

★

３７　吉賀　達郎（よしが　たつお）
バスケットボール部

★

３８　高谷　智美（たかたに　ともみ）
野球部マネージャー

Copyright©2026 D³S

★　３９　中川　松子（なかがわ　まつこ）

★　４０　夢前　美優（ゆめさき　みう）
　　吹奏楽部　クラリネット担当

〇教師
　工業高校の教師陣

☆　竹田（たけだ）５０代
　クラスの担任で、てっぺんハゲがあることから、入学早々から
　ザビエルとあだ名を付けられる
　見た目と違い、生徒思いの良い先生である

☆　土呂（とろ）４０代
　保健体育担当
　ゲイであり、男子生徒の股間を触るのが生きがい

落合（おちあい）男　五十代
　工業化学科の教員

山田（やまだ）女　四十代

Copyright©2026 D'S

工業化学科の教員

■その他　（出数は少ないが、物語上　重要な役）

〇一学期に登場

マヌカンの店長（名前は未定）推定四十代
吉賀行きつけのアパレルショップ（ディーゼル）の店長
実際は、ディーゼルの日本支社長も兼ねている
当然、男好きで、吉賀が連れてきた小村にちょっかいを出す
スリムで長身の男性。金髪で指には付け爪をしている

〇二学期に登場

川崎　（かわさき）
三年一組　デザイン科　三年では一番のイケメンと言われている
大学受験で、推薦入学をしたく　大倉のいいなりになっている

古屋　豪（ふるや　たけし）推定三十代
※X接点の古屋と同一人物
小村のバイト先に客として登場

Copyright©2026 D³S

男色家である

須賀　小雪（すが　こゆき）推定　三十代
美人、ＡＶ女優をしている
文化祭で滝本と出会い、付き合うようになる

白井　幸子（しらい　さちこ）
智美　中学時代のクラスメートで、智美を虐めていた

〇三学期で登場

花北　大悟（はなきた　だいご）※三学期に出演
露天商で、たこ焼きを焼いている
松村の父を尊敬している

浜田（はまだ）
高校二年生
身長１７０センチ　体重５４キロ　色白で華奢な身体
中学時代は、陸上の長距離をやっていた
美優の一学年上　ブラスバンド部　暫定部長
美優と同じでクラリネットを担当している

Copyright@2026 D³S

二宮（にのみや）通称　ニノ
高校二年生
ブラスバンド部　トランペット担当
浜田に密かに恋をしている

浜野　智恵（はまの　ちえ）
高校三年生
ブラスバンド部の元部長を務める

清瀬（きよせ）
高校三年生　浜野と同じブラスバンド部

大柄な男（通称　すもう取り）推定　五十才
会社の経営者

ふくよかな中年女性（通称　まんじゅう）推定　五十才
会社の経営者

ガリガリの中年女性（通称　カマキリ）推定　五十才
会社の経営者

Copyright@2026 D³S

□背景

話の中で出てく背景設定について

〇学校（主舞台）について

姫磨工業高等高校（ひめまろこうぎょうこうとうがっこう）

美優達が通う高校

県立高校であり

一組・デザイン科

二組・工業化学科

三組・電気科

四組・機械科

五組・溶接科

六組・情報処理科

で構成される。

各科ごとに校舎がわかれており、敷地はかなり広い

シャワー室を備えた部活棟があり、二十五メートルの屋外プールを備える

〇クラブ活動

男子生徒が大半を占めているため、女子はマネージャーとなることが多い

・ブラスバンド部

Copyright@2026 D³S

県内一の実力があり数々の大会で優勝している

・バスケットボール部
・ラグビー部
・サッカー部
・テニス部
・バドミントン部
・山岳部
・野球部
・陸上部
・水泳部
・極真空手部
・Ｅスポーツ部
・鉄道同好会
・クイズ同好会
・演芸同好会

□その他

物語で設定している内容

〇夢前家

若松町と設定

Copyright@2026 D³S

○小村家

○吉賀の住むタワーマンション

新増山（しんますやま　レジデンス）

五十階建ての構想マンション　最上階に吉賀が住んでいる

目次

「私が工業高校に進学した理由　一学期」……エラー！ブックマークが定義されていません。2

「私が工業高校に進学した理由　一学期」……2

タイトル　「私が工業高校に進学した理由　一学期」……3

記号等……3

全体あらすじ……3

シリーズ構成……4

全話共通設定　※全話を通しての設定で……5

◎メインキャスト……5

○家族構成……7

○クラスメイト……10

○教師……16

Copyright©2026 D³S

■その他　（出数は少ないが、物語上　重要な役）……17
○一学期に登場……17
○二学期に登場……17
○三学期で登場……18
□背景……20
○学校（主舞台）について……20
○クラブ活動……20
□その他……21
○夢前家……21
○小村家……22
○吉賀の住むタワーマンション……22
目次……22
第一話……35
サブタイトル「プロローグで紹介するのだ」……36
あらすじ……36
□第一幕　プロローグ……37
○（春の昼過ぎ）通学路……37
□第二幕　中学二年生の美優……39
○（二年前の春の夜）夢前家のリビング……39
○美優の部屋……42
○美穂（姉）の部屋……43

Copyright@2026 D³S

○一階のリビングのソファーで腰掛けている姉……47
○美穂（姉）の部屋……47
○一階のリビング……48
美穂がソファーに座っている……48
○美穂（姉）の部屋……48
○（深夜）美優の部屋……49
□第三幕　中学三年生になった美優……50
○（午前）中学校の運動場……50
○中学校の運動場　バスケットコートの脇……50
○（午後）夢前家　玄関……56
○（同）姉の部屋……56
←#　回想　#←　父のパソコンでアダルトサイトを閲覧していたことが、……60
○（数日前の夜）夢前家……60
→#　現在に戻る　#→……62
□第四幕　漫画喫茶……63
○漫画喫茶の個室ブース……63
□第五幕　小村との出会い……67
○（中学生三年生の夏休みの昼）中学校の運動場の校舎で影ができているところ……67
○（夕方）学校の校庭……67
○運動場に設置されている手洗い場……68
○校門の前……72
▽小村、自転車を止める……73

Copyright©2026 D³S

○キッチンカー横の簡易ベンチ……74
▽小村　美優、自転車に乗っている……76
○（夕方）美優の家の前……81
○美優の部屋……83
□第六幕　工業高校を受験するきっかけ……84
○（数日後の部活終了後）道……84
○（夜）夢前家のリビング……86
第二話……89
サブタイトル「新しい学校生活がはじまるのだ」……90
本話のあらすじ……90
登場人物（本話のみ）……90
■教室のレイアウト……91
□第一幕　新しいクラスメイトたち……92
○（入学式の翌日　朝）一年二組の教室の中……92
○一年二組の教室　ホームルームの時間……95
○（次の）休憩時間……98
□第二幕　謎の美少年〝吉賀〟……101
○（夕方）一年二組の教室　ホームルーム中の教室……103
○（その日の夕方）バスケット部　部室……106
○（部活帰り）学校の自転車置き場……108
○（人気の無い）公園の前　※場所は問わない。……109
□第三幕　吉賀の家……111

Copyright@2026 D³S

○吉賀の家のマンションの前……111
○エレベーターの中……113
○吉賀家の玄関……114
○吉賀家のリビングルーム……116
○吉賀家のバスルームの脱衣場……119
○吉賀家のバスルーム……122
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……124
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……128
←ＥＲＯ　ＭＯＤＥ←……132
→ＥＲＯ　ＭＯＤＥ→……137
□第四幕　翌日の放課後……139
○（翌日の放課後）教室　吉賀の席……139
○（夕方　部活帰りの道）人気の無い公園……139
第三話……143
サブタイトル「授業をがんばるのだ」……144
あらすじ……144
■工業化学科棟　一階のレイアウト……145
■第一実習室のレイアウト……146
□第一幕　はじめての実習時間……147
○（ある日の午前）実習室……147
□第二幕　エロエロ体育教師……155
○女子更衣室女子……155

Copyright@2026 D³S

○運動場……160
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……160
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……172
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……190
○（体育の次の時間）実習室……191
第四話……**197**
サブタイトル　「小島くんは変態なのだ」……198
あらすじ……198
□第一幕　教室で松村が小島にＸＸＸされる……199
○（昼間）一年二組の教室……199
〇（ある日）一年二組の教室　休憩時間……200
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……201
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……205
□第二幕　恋多き女、智美……214
○（朝）一年二組の教室……214
○教室から実習棟までの廊下……214
←＃　回想　＃←　昨日の放課後……216
○（昨日の放課後）運動場……216
→＃　現在に戻る　＃→……218
○廊下……218
←＃　回想　＃←　昨日の野球部の部活動で……219
○運動場……219

Copyright@2026 D³S

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……221
→＃　現在に戻る　＃→……223
□第三幕　小島の罠と松子の宝物……224
○（午前中の休憩時間）一年二組の教室　美優の席周辺……224
○一年二組の教室　保健の時間……227
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……242
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……243
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……248
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……252
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……258
○（その日の夕方）美優の家　美優の姉の部屋……265
第五話……267
サブタイトル　「松子の初恋を応援するのだ」……268
あらすじ……268
□第一幕　松子と吉賀の共通点……269
○（放課後）一年二組の教室……269
○（同）部活棟へ続く道……270
□第二幕　カメラ屋での出会い……273
○（夕方）商店街のカメラ店……273
○（翌日の学校）一年二組の教室……278
□第三幕　松子　吉賀のマンションへ行く……282
○吉賀のマンションの入り口……282

Copyright@2026 D³S

ドアが開くと、吉賀が起っている……283
○吉賀家　リビングルーム……284
○セントポーリアを置いてある部屋……288
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……293
○（同）リビング……294
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……295
○（同）キッチン……298
○（同）リビング……301
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……302
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……303
○（二十一時過ぎ）吉賀のマンションの下……308
第六話……**310**
サブタイトル　「水泳の授業なのだ」……311
あらすじ……311
□第一幕　小島と松村がプールでＸＸＸ……312
○（放課後）学校のプールサイド……312
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……322
□第二幕　プールの時間……323
○（夕方）一年二組の教室……323
□第三幕　プールの授業……328
○（翌日）学校のプールの女子更衣室……328
○学校のプール　プールサイド……329

Copyright@2026 D³S

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……331
○プールの中……336
第七話……**341**
サブタイトル「みんなで試験勉強なのだ」……342
あらすじ……342
登場人物（本話のみ）……342
□第一幕　小村の憂鬱……343
○（放課後）体育館の中……343
□第二幕　吉賀の家でオナニーレッスン……348
○吉賀の家　吉賀の部屋……348
□第三幕　～ハッピーな期末試験～……364
○（土曜日にの昼間）吉賀のマンションのエレベーターの中……364
○吉賀の家の前……365
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……366
○吉賀家のリビング……368
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……374
○（夕方）吉賀のマンションの下で……380
○駅までの道のり……384
○駅の改札……386
○自転車に乗ってる美優と小村……386
第八話……**388**

Copyright@2026 D³S

サブタイトル　「待ちに待った夏休みなのだ」……389
あらすじ……389
□第一幕　～夏休み　前編　～……390
○（休み時間）一年二組教室……390
○（その日の帰宅後）美優の家　玄関……396
○（同）姉の部屋……396
○（夕食）夢前家……397
□第二幕　夏だぜ！海だぜ！　膿だぜ！……400
○電車の中……400
○松子のおばあちゃんの家の前……401
○（同）囲炉裏のある部屋……403
○（同）家の前……405
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……406
○砂浜までの道のり……407
□第三幕（回想）海パンを買うぞ……410
←＃　回想　＃↓　小村と吉賀が海パンを買いにいって……410
○（１週間前の日曜日）メンスファッションのショップの中……410
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……412
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……418
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……420
→＃　現在に戻る　＃→……423
○砂浜までの道のり……423

Copyright@2026 D³S

○砂浜……423
□第四幕　その夜の出来事……431
○（夜）古民家　小村、吉賀、松村の部屋……431
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……434
第九話……**436**
サブタイトル「あぁ夏休みが終わっちゃうのだ」……437
本話について……437
あらすじ……437
□第一幕　夏休み　後編……438
○（朝）松子の祖母の家……438
○海上（吉賀と松村がフロートで浮いている）……440
○砂浜（かなり海に近い場所）……441
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……442
○松子、智美が休んでいるレジャーシート……444
○海上（吉賀と松村がフロートで浮いている）……445
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……445
←　ＥＲＯ　ＭＯＤＥ　←……451
○砂浜に置いたフロートの上……452
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……453
→　ＥＲＯ　ＭＯＤＥ　→……457
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……457
○美優、智美、松子　小村のいる　砂浜……458

Copyright@2026 D³S

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……464
○美優と小村がいるレジャーシート……466
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……470
○松子と吉賀のレジャーシート……472
（＃ＡＩによるイメージ画像＃）……480
□第二幕　最後の夜……486
○（夜）　松子の祖母の家の庭……486
○（次の日の朝）松子の祖母の家の玄関……487
○帰りの電車の中……491
□第三幕　夏休みの部活の帰り道……494
○（夏休み部活の帰り）道……494
○（同）通学路……495
○キッチンカーの前……496
□第四幕　吉賀の帰省……504
○吉賀の実家……504
▽吉賀、大きな扉を開けて、リビングに入る……504
おわり……**508**

Copyright@2026 D³S

Copyright@2026 D³S

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

第一話

夢雄　美侶

Copyright©2026 D³S

サブタイトル「プロローグで紹介するのだ」

あらすじ

美優が何故　工業高校への進学を決めたのか。中学二年生のころから遡り紹介しています。

中学二年生の美優が、偶然　姉の部屋で見つけた、エロ雑誌はじめて見る　大人の世界にトキメキを感じます

そして中学三年生になり、小村健一と出会い、工業高校に進む決心をするのでした

Copyright@2020 D³S

□第一幕　プロローグ

〇（春の昼過ぎ）通学路
　入学シーズンとなり、美優は、母、父と共に高校のも高校の入学式に
　向かっている

▽美優、美優の母、美優の父が歩いている

▽女子高生（夢前美優）が、高校に登校するシーン

私の名前は、夢前　美優（ゆめさき　みう）十五歳
今日は、県立の工業高校の入学式
合格までの長い道のりの話は、つまらないのおいておいて
なんで女の子が工業高校なのかって

それはね
中学で神童と呼ばれる秀才の姉を持つ者の悲劇だったわ

ふたつ上の姉は国内有名私立女子高校の推薦入学を蹴散らし、
県内で一番の公立高校にみごとトップでみごと合格。
そして現在、姉は高校三年生。
相変わらず、全国模試で２桁以内に入る成績で、

（美優）

Copyright©2026 D³S

某有名国公立大学に向け猛勉強中
でも、そんな秀才の姉が、なぜ、公立高校に行ったのかは謎だったわ
この謎は、やがて判るの
それは、さておいて
私が、まだ中学二年生になったばかりの頃

Copyright@2026 D's

□第二幕　中学二年生の美優

〇（二年前の春の夜）夢前家のリビング
　夢前家は、一般的な一戸建て住宅であり、
　一階にリビング、ダイニング、父の部屋　父、母の寝室
　二階は、美優と姉（美穂）の部屋となっている

▽美優、風呂上がり　ソファーに座りスマートフォンをいじっている

▽美穂（姉）、風呂上がり　タオルで髪を乾かしながらリビングにやってくる
　美穂は、花柄のパジャマを着ている

▽美穂（姉）、美優をちらっと見る

▽美優、美穂をちらっと見る

（相変わらず、可愛くねぇパジャマを着てるなぁ。
まぁ、おしゃれ脳が１ｇも無い奴だからしょうがねぇか）

▽美穂（姉）、美優の隣に座り、麦茶を飲む

▽美穂（姉）、美優の顔を見る

（美優）

Copyright©2026 D³S

美穂（姉）　▽美穂（姉）、美優に話しかける

　「美優さぁ、あんた来年高校受験だよ。一体どこを受けるつもりなの？」

（美優）　（え？　なに？急に）

美優　「そんなのまだまだ先のことなん考えてないよ」

美穂（姉）　「なに言ってるの！　あんた　アホなんだから、今からでも
　遅いくらいよ。塾にでも 行きなさいよ」

　▽美優、姉のシャンプーの香りが気になる

（美優）　（あぁまたメントール臭　漂わせてる。父さんのトニックシャンプーを
　使ったね。ちょっとは　おしゃれに関心持ちなよ

美優　「部活終わって、塾なんて行ってたら何時に帰れるんだよ。
　夜遅くなって　カワイイ妹が、痴漢に襲われたら、どうすんの？」

美穂（姉）　「そりゃ、痴漢に同情するわね。だいたい近所の、おばさんたちが、なんて
　言ってるか知ってるの？」

Copyright©2026 D³S

美優　「そんなの知らないわよ」

美穂（姉）　「夢前さん家の妹の方、病院で取り違えたのかしらってね」

美優　「何それ？　いつの時代のドラマなの。暇なおばさん連中だね」

（美優）　（何年前のギャグなんだよぉ。相変わらず姉貴は　頭が昭和してんなぁ）

美穂（姉）　「とりあえず、ちょっとは勉強しなさいよ。せめて、中の上くらいのところは合格してよね」

美優　「はいはい」

（美優）　（あぁ、うるせぇな。避難だ　避難だ。私は説教が大嫌いなんだよ）

▽美優、姉の説教から避難するため、立ち上がり部屋を出て行こうとする

▽美穂（姉）、振り向き美優に声をかける

美穂（姉）　「ちょっと、どこいくの」

Copyright@2026 D³S

美優　「宿題すんの」

美穂（姉）　「まじめにするのよ」

美優　「へいへい」

▽美優、リビングから出て行く

○美優の部屋

ベッド、勉強机、本箱　一般的な子供部屋である。
美穂の部屋も同じ構成となっている

▽美優、自分の部屋に入り、勉強机に座る

「あぁ～宿題かぁ、かったるいなぁ。
しかーし、今　下に降りると、ガリ勉ダーのハート・ブレイク・タイフーンにやられてしまうし。明日の歴史の古田は性格悪いからな。、
しょうがない、宿題をするか」

▽美優、カバンから筆箱を取り出し、筆箱のファスナーを開ける

▽美優、筆箱の中に蛍光ペンが無いことに気付く

Copyright©2026 D³S

美優　「おっと　いけない、蛍光ペンを、どっかにおいてきちゃった。学校の机かな？　いや？　今日は、使った覚えがないけど」

▽美優、机を見回すが、蛍光ペンはない

美優　「しょうがない、姉貴の借りちゃお。私って、なんて前向きな女なの」

○美穂（姉）の部屋
美優の部屋と廊下を挟んで反対側にある
部屋の明かりは消えているので暗い

▽美優、姉の部屋のドアを開けて入って行く

美優　「ごめんなんしょ」

▽美優、ドアの横に電気のスイッチを押す

＃部屋の明かりが点く＃

▽美優、姉の部屋に入り、姉の机に向かう

Copyright©2026 D's

美優

▽美優、姉の机の上を見る
　机の上には、教科書、参考書が散乱している

美優

「汚ぇー。いくら勉強できるからって、これは無いよ
姉貴の担任にに見せてやりたいよ。
内申書に、勉強できるが、部屋と、腹は　汚いってね書いてもらわねば」

美優

▽美優、机の上に置いてあった、ペン立てから蛍光ペンを取り、
　出て行こうと向きを代える

「やばい、やばい、ガリ勉トロンで汚染された区域から
すみやかに脱出だ」

▽美優、ふと姉のベッドに目がいく
　ベットの上に置いてある一冊の雑誌に目が行く
　表紙には、爽やかなイケメンの写真

「お？　いい男。姉貴が好きなタレントかな？
姉貴ってば、男には興味が無い振りしていながら、
実は、結構、気にしてんのかな」

▽美優、雑誌を手に取り表紙を見る

Copyright©2026 D's

美優　「なになに」

▽美優、雑誌の見出しを読む

美優　”男の喜ばせ方　特集”

美優　「男の喜ばせ方って？　何言ってるの
男も女も金だよ金。姉貴　無駄な雑誌を買ってな
こんなの読んでも時間の無駄無駄」

▽美優、ページをめくる

美優　「どっかに　いい男の写真載ってないかな」

▽美優、ページをめくるのを止める

▽美優、雑誌の写真を見る
上半身裸のパンツだけの男性がうつ伏せで寝かされ、上に下着姿の女が
跨がり、女は男のパンツの下に手を入れている写真。

美優　「えええええええええ。なにこれ」

Copyright@2026 D³S

美優　「彼を仰向けに寝かせて、太ももからそっとトランクスの
中に手を入れて、モニョモニョモニョ　しましょう　だって」

美優　「なに、なに、なに」

▽美優、さらにページをめくる
男のパンツのドアップ写真

美優　「えええええ！　なんで、この人、パンツの前が膨らんでるの」

美優　「お、お、お、男って、こんなことになるんだ」

美優　「おお、こっちはマンガだ。
え？　ち・ち・ち・痴女？　ちじょって、なんだ？」

美優　「うわわわわ、握ってるよ」

美優　「〝シュッ、シュッ、シュッ〟　って何をしてる音なんだ？」

美優　「うわわわわわ　今、飛び散ったの何？」

Copyright@2026 D's

美優　「わぁ、舐めてる。信じられない」

（ナレーション）　父の薄給で買った、建売住宅の壁は薄かった。
二階からの美優の声で、一階にいる姉が気がついた。

〇一階のリビングのソファーで腰掛けている姉
　二階から美優の声が聞こえてくる

▽美穂、二階を見上げる

美穂（姉）　「ちょっと、美優、私の部屋にいるの？　何やってるの？」

〇美穂（姉）の部屋
　美優が興奮状態で雑誌を見ている

▽美優　姉の声で慌てる

美優　「な・な・な・なんでもないよ、蛍光ペン借りにきただけ」

〇リビング
　美穂が二階を見上げている

Copyright@2020

美穂　「いいけど、十一（といち）だよ。ちゃんと返しておいてよね」

▽美優、二階の姉の部屋から返事をする

美優　「オッケー」

○一階のリビング
　美穂がソファーに座っている

美穂（姉）　「あれ？　十一って言ったのに、やけに素直だな。
それとも、アホ過ぎて　かけ算も忘れたか？」

▽美穂、再び、テレビを見始める

○美穂（姉）の部屋
　美優が、立ち尽くして雑誌を読んでいる

美優　「あぁびっくりした」

「姉貴って、こんな　すごい本読んでたんだ。大人だな」

▽美優、ページをめくり雑誌を読む

Copyright©2026 D³S

○（深夜）美優の部屋

▽美優、ベットの中にいる　なかなか眠れない

美穂　「あああ、あの雑誌が気になって寝れない」

美優　「男子のズボンの前が膨れているのは、そういうことだったのね」

美優　「は！何？　この何とも言えない興奮」

美優　「いやだ、私って、そんなエッチじゃないのに」

（ナレーション）

（美優、中学2年生、思春期の始まりであった）

Copyright@2026 D³S

□第三幕　中学三年生になった美優

（あれから一年後の春）

〇（午前）中学校の運動場

さらに、一年経ち　美優は中学三年生となっていた
今日は、学校行事の球技大会の日
試合が行われる場所に、気の合う女子同士が固まり、
男子の応援をしていた

▽生徒達　球技大会のため、運動場、体育館で競技を競っている
　男子体操服は　半袖と濃紺の短パン
　女子体操服は　半袖と臙脂色のブルマーである

〇中学校の運動場　バスケットコートの脇
　バスケットコートの中では、男子による組対抗による試合をしている
　美優、友達（桜子と茜）がいる

▽美優、男子の短パンを見ている

桜子

「ねぇ、美優って　気になる男子っている？」

（ナレーション）

Copyright@2026 D³S

美優　▽美優、慌てる

桜子　「え、何」

美優　「聞いてないの」

（美優）　「ごめん、バスケに夢中になってて」

桜子　（男子の股間みてたら、時間たつの早いわ）

美優　「もう、美優ったら。男子で気になる子いるって聞いたの」

桜子　「うちのクラスで？」

美優　「別に　同じクラスじゃなくてもいいけどさぁ」

桜子　「うーん・別に男子に興味ないしなぁ」

美優　「え？　そうなの？　それとも 自分がシャイなのをアピしてる？」

桜子　「うーん。本当に、まだ、気にならないだって、

Copyright@2026 D³S

茜　部活が結構忙しいしさ、それに、結婚なんて　まだまだ先でしょ」

▽茜　桜子、吹き出す

美優「美優、なんでそんなに短路的なの。結婚なんて考えてないわよ」

「だって付き合うってことは、結婚するってことじゃないの？」

▽茜、美優の肩をたたく

茜「いつの時代のことを言ってるのよ。
今時、付き合って、すぐ結婚ってことなんて、ないない。
そりゃ、好きになった人だからわからないけど、
今は、一緒にいるだけでいいの」

桜子「ちょちょ茜、それが美優のいいところなんだから、それでいいのだ」

茜「そうね。ほんと、美優はピュアね
そういう、桜子は誰か気になる男の子がいるの？」

桜子「私？　私は、前までは小村君がいいなぁって思ったけど、
今は、滝本君ね。なんたって　男らしいしさ、守ってくれそうだもん」

Copyright@2026 D³S

茜　「滝本君かぁ。顔はまぁ上の下ってとこだけど確かに男らしいわ
筋肉質で、あの太い腕で、壁ドン　されたら　たまらないわね」

桜子　「で、茜は？」

茜　「私？私は、林田君かな。」

▽　（インサート）イケメン男子　林がおしゃれして道を歩いている

茜　「この前、駅でちらっと見たんだけど、
すごくおしゃれなの。ほかの男子生徒と違って大人っぽくって
そこら辺の大人よりかっこいいわ」

桜子　「ねぇ美優も、少しは男の子のこと考えてみてみたら」

美優　「ええ、まだいいわよ」

桜子　「そうね。そのうち、興味がわくわよ」

▽美優　茜、桜子、男子バスケット試合を見ている

Copyright@2026 D's

桜子　「しっかし、うちの学校の体操服は、古くさいわね」

美優　「何で？」

桜子　「今時、女子がブルマなんて学校ないよ」

美優　「そうなの？」

茜　「そうよ」

美優　「そうかな？　私は、動き易くていいと思うんだけど」

茜　「美優は、男子より先に　まずは　オシャレの勉強が必要よね」

茜　「ほら、男子だって　短い短パンだよ。今時の学校なら、ハーパン　膝上だよ」

美優　「それが　なんで　ダメなの」

茜　「ほら、あそこにいる（男子Ａ）君見てみてみなよ。」

▽美優　茜　桜子、（男子Ａ）の方を見る

バスケットコートの横で体育座りしている（男子Ａ）を見る

Copyright©2026 D³S

茜　体育座りで、短パンの裾から白いものが見えている

桜子　「短パンの裾から、白のブリーフ見えてるし。
今時、白のブリーフを穿くのは　マザコンぐらいよ」

茜　「ええ、（男子Ａ）君てマザコンなの。秀才でちょっといいなぁって
思ってたのに」

▽茜、バスケットの試合に出ている（男子Ｂ）を見る

茜　「それに、（男子Ｂ）君なんか、体操ズボンの前がすごく膨らんでるの丸分かり
じゃん。キモイよね。何を興奮して膨らんでいるのやら」

美優　「興奮したら、前が膨らむの？」

茜　「えー、美優、それマジで言ってる？」

美優　「うん。わかんないわ」

桜子　「そっか、美優には、一度、保健体育の特別講義をしてあげなきゃね」

Copyright©2026 D³S

○（午後）夢前家　玄関
　球技大会の為、昼過ぎには家に帰ってきた美優
▽美優、ドアを開けて玄関に入ってくる
美優　「ただいま」
＃シーンとしている＃
美優　「返事が無いな。パートに出かけてるな。よしよし」
▽美優、急いで、階段を駆け上がる
▽美優、自分の部屋で着替えて、一階に降りる
▽美優、お茶とテーブルの上の菓子を袋を掴み、再び階段を上がる
▽美優、自分の部屋に入らず、姉の部屋入る
○（同）姉の部屋
▽美優、姉のベットのマットレスの隙間から雑誌を取り出す

Copyright@2026 D's

美優　「あったあった、最新号。毎月の楽しみだね。
姉貴が、予備校に励んでいるおかげで、今日も、隅々まで読んであげれるよ」

▽美優、姉のベットに横になり、雑誌のページをめくる

美優　「しかし、あいつら、何が男らしいよ。なにがオシャレよ。
男の価値がわかってないわね。純情な振りをするのも大変だわ」

美優　「男子の短パン。ハミパン　いいじゃん。モッコリが変？何いってるの、
いいじゃない、いいじゃない。目の保養だよ」

美優　「そんなことより、読むことの集中しなきゃな。
まずは、巻頭特集」

▽美優、雑誌のカラーページを見る

美優　「なになに、彼のどんな仕草に興奮するかって？
そりゃ、金くれる時に決まってんだろ。
相変わらず、くだらない質問やってんな」

▽美優、さらに雑誌のページをめくる

Copyright©2026 D's

美優

「どれどれ、
”イクのを我慢している時の顔”
”イク寸前の顔”
”イク瞬間の顔”
”イった後の　はにかんだ顔”
イクってなんだ」

美優

「行く？　遊園地か？　なんだかんだ言っても男は子供だよな
いや、待てよ　遊園地じゃないかもしれない。
なにか、大人の階段の先に、すばらしいものがあるのかも
後で漫画喫茶に調べに行っとくか。
この前なんて、ローションと　どっかのコンビニを　間違えてたりしたからな。
どうりで、コンビニで、ヌルヌルって　おかしいと思ったよ」

（一時間経過）

Copyright@2026 D³S

▽美優、雑誌を読み終わる

▽美優、雑誌を閉じる

美優　「さぁ、読んだ読んだ。そうだ、さっきの“イク”ってどういう意味だ」

▽美優、時計を見る

美優　「夕飯までに時間はまだあるな
私は、好奇心を抑えることができない人間なのだ。
しょうがないから、今から調べに行くか」

▽美優、玄関で靴を履く
自転車に跨がり、隣町までこぎだす

▽美優、しばらく　自転車を走らせ
自転車を一旦止め、カバンから、サングラスと帽子、マスクをする

美優　「ふふふ。家のパソコンで調べると、パソコンオタクの
パパ上にばれるからな。私って、頭い～い」

（ナレーション）
なぜ美優はスマートフォンで、調べないのか？

Copyright©2026 D³S

ＩＴオタクの美優の父親は、夢前家のスマートフォンを管理しており、
アダルトサイトに繋がらないのだ。
もし、繋がったとしても、履歴を見られてしまうので
ヤバイ検索は、一切できないのであった
ＩＴオタクの血を引く美優は、漫画喫茶からのアクセスが一番足が付きにくい
ということを、本能で知っているのである

←＃　回想　＃←　父のパソコンでアダルトサイトを閲覧していたことが、
ばれそうになった時

〇（数日前の夜）夢前家
美優、姉が、ソファーでくつろいでる

▽父、美優と美穂やってくる

父　「おい、誰か父さんのパソコンを使ったか」

美穂　「今時パソコンなんか使わないわよ。なんでそんなこと聞くの」

父　「いや、ちょっと、アダルトサイトを検索した形跡があったんだ」

▽美優、ドキッとする

Copyright@2026

美穂　「もう、そんなの見るわけないじゃない」

▽父、美優の顔を見る

父　「美優じゃないよな」

美優　「わ、わ、私。そんなの見るわけないじゃない」

美穂　「そうよ。この子が、そんなもの見るわけないでしょ。初潮だってまだなんだから」

父　「じゃ、誰なんだ？」

▽美穂、父を腕でつつく

美穂　「ねぇ、お父さん、最近お母さんとは、どうなの？　ね？　ね？」

父　「え？　そういえば・・・・」

美穂　「じゃ、決まりね。お母さんだわ？　欲求不満なのよ」

Copyright@2026 D's

父

美優

「そっか。わかったよ」

▽父、リビングから出て行く

→＃　現在に戻る　＃→

「なんて事があったもんね。」

▽美優、変装し終わっている

Copyright@2026 D³S

□第四幕　漫画喫茶

〇（夕方）漫画喫茶入口

▽美優、漫画喫茶の自動ドアから入ってくる

イケメン店員　「いらっしゃいませ」

〇漫画喫茶の個室ブース

美優は漫画喫茶に到着し、個室ブースに入っている

▽美優、パソコンを操作

美優　「検索、検索　”いく”　”男”　でと検索結果をクリック」

▽美優、パソコンを操作

美優　「おっ、動画も　あるじゃないか」

「これをクリック」

＃男が射精している動画が再生される＃

Copyright@2026 D³S

美優　▽美優、吹き出す

「これ、これが、男がいく　ってことだったのか。

美優　▽美優、興奮してうなり声

「うぉぉぉぉぉ」

美優　「他には」

▽美優、さらに動画を再生

美優　「うぉおおぉぉぉ」

▽イケメン店員、美優の声に気づく

店員は、大学生男子のアルバイト　それなりにイケメンである

美優のブースに近づき　扉をノック

イケメン店員　「お客様」

▽美優、店員の声は聞こえず、興奮し　うなり声

Copyright@2026 D³S

美優　「おおおおお」

イケメン店員　「お客様　どうされました」

イケメン店員　▽美優、無視

イケメン店員　「お客様　失礼します」

イケメン店員　▽店員、を開ける

「お客様、大きな音を出されどうされ・・・・」

▽店員、パソコンの画面に映っている　痴女に男がパンツを握られ扱かれている動画を見てしまう

（店員）　（なんだ、この少女は？変態か？注意していいのか？
そんなことをしたら、俺が、こいつらみたいにされてしまうのか？
だめだ、ここは、見て見ぬふりだ）

イケメン店員　「失礼しました、思う存分お楽しみください」

Copyright@2026 D³S

▽店員、優の場所から離れる

▽美優、員がいたことなど気づかず　パソコン画面をガン見

「なに、男のイク瞬間の顔。
ステキだわ。今までで最高の興奮だわ」

（美優　さらにバージョンアップ）

美優

（ナレーション）

Copyright@2026 D³S

□第五幕　小村との出会い

○（中学生三年生の夏休みの昼）中学校の運動場の校舎で影ができているところ
　運動場には夏季練習きている生徒たちがいる

▽美優、運動場の端で、トランペットの練習中
　※美優はブラスバンド部に所属してトランペットを担当

美優「やっぱ、外で思いっきり吹けるのっていいわ」

▽美優、周りを見渡し、目をつぶる

▽美優、トランペットのマウスピースを咥えてみる

▽美優、マウスピースのヒンヤリとして固い感触を感じる

▽美優、マウスピースを口から離し眺める

美優「ちがう。男のアソコがこんなに固いわけないわ」

○（夕方）学校の校庭

Copyright@2020 D's

＃部活が終わった生徒らが帰宅しようとしている

〇運動場に設置されている手洗い場

▽美優、運動場の水道でマウスピースを洗っている
　トランペットは、手洗い場の狭い縁においてある

▽小村、部活帰りの小村が水を飲みに学生服姿でやってくる

小村「よ！　夢前　練習お疲れ！」

美優「あ、小村君。お疲れ」

▽美優、うつむき加減でマウスピースを洗っている

小村「夢前も部活終わったのか」

美優「そうよ」

小村「夢前って、この角度でみると、かわいい顔してるよな」

美優「何言ってるの。そんなお世辞言っても無駄無駄」

Copyright@2026 D3S

小村　「そうかな？　体育祭の行進の時、先頭でトランペット吹きながら行進してるだろ。いさましい女だなと思っていたんだけどな」

美優　「ちょっと　それって、私が女らしくないとでも？」

▽美優、顔を上げる
腕が水道の上に置いてあったトランペットに当たった。
トランペットが落下する

美優　「あ」

小村　「危ない！」

▽小村、体と手を伸ばし、落下しかけていたトランペットをキャッチ
＃水道水が小村の股間にかかる＃

小村　「わ、冷てえぇ」

▽小村、体制を整える

Copyright@2026 D's

美優　▽美優、小村の前にくる

「大丈夫」

▽小村、トランペットを美優に渡す

▽美優、トランペットを受けとる

美優　「ありがとう」

小村　「ああ、平気」

▽小村、濡れたズボンを見る

小村　「あちゃ～」

美優　「ごめんなさい」

▽美優　ポケットからハンカチを取り出し、小村のズボンを拭きだす

小村　「いいよ。いいよ。もう帰るところだったし。

Copyright@2026 D³S

美優　しかし、このままだど、気持ち悪いな。」

「本当にごめんなさい」

▽美優、悲しそうな顔をする

▽小村、美優の表情を見て　なんとかしないとと考える

小村「そうだ、部活のユニフォームに着替えればいいんだ。それで解決」

美優「本当に大丈夫」

小村「本当に、本当　大丈夫だって。そうだ、夢前も部活が終わったんだろ一緒に帰ろうぜ」

美優「え？」

小村「嫌か？」

美優「嫌じゃないけど」

（美優）（学生服を濡らせてしたから断れないじゃない）

Copyright@2026 D³S

小村　「じゃ、着替えてくるから、校門の前で待ち合わせな」

▽小村、バスケ部の部室に走っていく

○校門の前

▽小村、自転車に跨がり美優を待つ
　バスケ部のユニフォーム上下を着て、上にジャケットを羽織っている

▽美優、校門の所に来る

美優　「ごめん、待ったでしょ」

小村　「俺も今来たとこだから、後ろに乗りなよ」

美優　「二人乗りは禁止よ」

小村　「堅いこと言うなって」

▽美優、小村の自転車の後ろに座る

Copyright@2026 D's

小村　「家は、若松町の方だったよな。近くなったら案内してくれよ」

美優　「うん」

▽小村、自転車を漕ぐ

小村　「そういえば、こうやって夢前と二人で帰るのって初めてだよな」

美優　「そういえば、そうね」

（美優）（ちょっと、怪しい雰囲気じゃん）

小村　「同じクラスになって、半年になるのにな」

美優　「でも普通　男女ってそんなもんじゃない？」

小村　「そっか。俺は、もっと　男女と関係なく話してみたいけどな」

美優　「私は、ちょっと男子と話すの恥ずかしいわ」

▽小村、自転車を止める

Copyright@2026 D³S

美優　「どうしたの？」

▽小村、後ろを振り向き美優の顔を見る

小村　「ねぇなんか腹　減ってない？」

美優　「別に大丈夫だけど」

小村　「俺さ、あそこのクレープ一度食べて見たかったんだよな
でも、男ひとりだと買いにくくて」

▽小村、キッチンカーのクレープ屋を見る

（美優）（おぉぉこいつ、金銭　要求してきたぞぉ。どうしよう）

（数分後）

○キッチンカー横の簡易ベンチ
小村がベンチに座っている

▽美優、キッチンカーからクレープを受けとる

Copyright@2026 D³S

▽美優、小村の側に近づいて小村にクレープを一つ渡す

美優　「はい。チョコレートクレープ。お金はいいわ。トランペットの修理代からみたら全然安いもの」

小村　「サンキュー。やっぱ練習の後に甘いものはいいなぁ」

美優　「うん、ホットするわね」

小村　「それって、洒落かい？」

美優　「は？」

小村　「だって、温かいクレープ食べて、ホットするんだろ？」

美優　「いや、あのぉ、ぜんぜん、洒落じゃないから」

小村　「そうか？　俺なら、座布団、持っていくぜ」

美優　「座布団持っていくなら、やっぱ、洒落になってないってことでしょ」

（美優）　（小村くんって、こんなに面白い人だったんだ。

Copyright@2026 D³S

小村　クラスでは友達は多い見たいだけと温和しいイメージしかなかったわ）

美優

〇街中

▽小村　美優、自転車に乗っている

小村「なぁ夢前って、付き合ってる人いる？」

美優「なんで？急に　そんな事聞くの？」

小村「別に。なんもないけど。夢前って、結構かわいいし、付き合っている人が　いても不思議じゃないからな。それに、ブラバンの後輩からも人気あるだろ」

美優「いないわよ。後輩だって単にカワイイ、弟と妹よ」

小村「そっか」

美優「そうよ。小村君こそ、どうなの？クラスで結構イケメンって言われてるわよ」

小村「俺がイケメン」

Copyright@2026 D'S

美優　「そうよ。クラスの女の子の中に、小村くんがカッコイイって言う子だっているのよ」

小村　「もしかして夢前もそう思ってくれてたりして」

美優　「そうね。クラスの中ではね」

小村　「なんだ？　その限定した範囲は」

〇横断歩道　赤信号になっている

▽小村、赤信号に気づき、急ブレーキをかける

美優　「キャッ」

▽美優、はずみで手が一旦はなれ、美優の手は小村の股間の上に移動

小村　「ごめん、大丈夫　話に夢中で赤信気が付かなかった」

美優　「大丈夫よ。でも　ちゃんと前を向いて運転してよね」

Copyright@2026 D's

小村　「ごめん、ごめん、気をつけるよ」

▽小村、再び自転車を漕ぐ

小村　「じゃ、レッツゴー」

▽美優、小村の股間をおさえている美優の両手
　美優は、異様な手の感触に気づく

（美優）（え、ちょっと、ちょっと、、この感触はなに?もしかして、男の人あれ）

▽小村、下を向き、美優の手が、自分の股間を掴んでいるのに気づく

（美優）（や、やばい、どうしよう。小村君、気がついているのかな
でも、今、手をどけると、余計にバレそうだし、ここは知らん顔しておくのが
得策だわ）

▽小村、股間の方を見る
　意識すればするほど、硬く大きくなっていく

（小村）（やべぇ。でかくなってる）

Copyright@2026 D³S

▽美優　小村の股間が硬くなっていることに気づく

（美優）　（やだ、さっきより固くなってる）

（美優）　（ああ、これがあれなのね。もう少し　触っていたいわ）

▽小村、再び　自転車、ブレーキをかけ止まる。

（美優）　「キャ」

▽美優、どさくさに紛れ　小村のバスパンの上からっぎゅっと陰茎を握る

（美優）　（わ、太くなってる）

▽小村、自分の股間を掴んでいる美優の手を見る

小村　「夢前さん、ちょっと言いにくい事なんだけど、俺の大事なところに手が当たってるようなんだ」

美優　「え、え、え」

▽美優、慌てた振りをして、手を小村の股間から話し、荷台を持ち直す

Copyright©2026 D³S

（美優）　（ち、ばれたか）

美優　「え？　ご、ごめんなさい。自転車のサドル、そうサドルだと思ってたの」

（美優）　（なんてね）

小村　「いや、ごめん。悪いのは俺の運転が下手くそだから、夢前さんが悪いんじゃないよ。変なものに　さわらせてしまって　ごめんね」

美優　「え？　変なものって？」

小村　「えっと、男の大事なところ」

美優　「ち、ちっとも変じゃないわよ。本当にごめんなさい。先が丸くて固いから　てっきり自転車のサドルだと勘違いした私が悪いの」

小村　「先が丸くて、固い？」

（美優）　（ヤバ）

美優　「ええ、サドルよサドル」

Copyright@2026 D³S

小村　「ぞっか、実はさっき、ズボンが濡れた時、中のパンツも
濡れてしまってて、バスパンの下は、何も穿いてないんだ」

（美優）　（ノーパンなのか。どうりで、ダイレクトに感触が
伝わってきたわ）

小村　「でも、誤解しないでほしんだ
バスパンと大事なところが、自転車漕いでいると擦れてしまって
固くなってただけだから。あ、俺、何言ってんだ」

美優　「なんの事かわかんないけど、濡らしてしまったのは
私のせいだし。固くなったって、どういうことなの」

小村　「男ってさ、エッチなことを考えると、固くなるんだって
でも、俺、夢前さんと　ちっとも　そんなこと考えてないから」

美優　「へぇ、はじめて知ったわ。大丈夫。小村君は真面目なこを知ってるもん」

〇（夕方）美優の家の前

▽美優、小村の自転車から下りる

Copyright@2026 D's

美優　「送ってくれてありがとう」

小村　「俺も楽しかったよ。自転車に女の子を乗せるなんて初めてだよ
これからも、部活の帰り時間が合えば、一緒に帰ってくれるかい？」

美優　「えぇ、いいわよ。私も　一人で帰るの寂しいし」

小村　「じゃ、俺、帰るね。クレープ　ゴチ！」

美優　「うん。また明日学校でね」

▽美優、小村を見送る

▽美優、小村の姿が見えなくなり家に入る

〇夢前家　玄関

▽美優、玄関のドアを開けて家に入る

美優　「ただいま」

Copyright@2026 D³S

母
美優
美優

▽母、玄関に出てくる

「お帰り、美優。着替えたらすぐにご飯食べにいらっしゃい」

「はーい」

▽美優、急いで、自室への階段を駆け上がった。
部屋に入り、部屋のドアを閉めた。

○美優の部屋

▽美優、手の平をみつめる

「あの感触・・・
柔らかいものが、だんだん大きく堅く。なんてイヤらしいの。
でも、なんて、神秘的なの。あんなに柔らかかったものが、固くなるなんて
それに、小村君　パンツが擦れてたなんて。焦っていい訳するなんて、
カワイイわ。私の手で大きくなったのよ。
ああ、小村君って、どんな顔してイクのかしら？
わたし、絶対、小村君をこの手で　いかせてみる。
そうよ！　これが、私に与えられた使命なのよ」

Copyright@2016 D³S

□第六幕　工業高校を受験するきっかけ

○（数日後の部活終了後）道
　あれ以降、小村と美優は、下校時間が合えば、一緒に帰るようになっていた

▽小村、自転車を押して歩いている

▽美優、小村の横を歩いている

小村「夢前さんは、志望校は決めた？」

美優「私？　私は、真ん中あたりの普通科かな」

（美優）（実は下から数えて二番目の学校だけど）

小村「やっぱり女の子は普通科だよね」

美優「小村君は」

小村「俺は、姫磨（ひめまろ）工業高校に決めてるんだ」

Copyright@2026 D³S

美優　「姫磨工業高校？ってどこ」

小村　「結構近場なんだけどなぁ。やっぱ工業高校ってマイナーなんだよな」

美優　「男子校ってイメージだから、全然マークしてなかったわ」

小村　「デザイン科だったら女子の方が多いんだけど」

美優　「そうなの？」

（美優）（まぁ美術　“2”　の私には関係ないわな）

小村　「その中の、工業化学科に行くんだ」

美優　「科学？　って、星とか？　生き物とかの？」

小村　「ははは、そうじゃないよ。化け学の化学だよ。
今って、安全な食べ物ってないだろ。肥満薬で太らされた肉や
殺虫剤が掛かった野菜。そんなの食べてるんだぜ。
だから、俺は、万能な農薬や肥料を
開発して、安全な食材で世界中の餓えを無くすのさ」

Copyright©2026 D³S

美優　「すごい。将来の事も考えてるんだ」

小村　「うん。人間、生きていくのに食べなくちゃならないからね」

美優　「がんばってね」

○（夜）夢前家のリビング

美優　ソファーでくつろいでいる

▽父、リビングに来て、美優の近くにくる

父　「美優、母さんから聞いたぞ、進学先は工業高校にするんだって」

美優　「そうしたいんだけど　お母さんも、お姉ちゃんにも反対されて困ってるの」

父　「そうか！　でも大丈夫、父さんは見方だ」

美優　「え？　本当！　お母さんは、女の子が男ばっかりいる学校に行くのは反対だって言うのよ。」

父　「何を言ってる。今の社会、女だって手に職をつけるべきだ。特に、美優のような器量の無い場合は、結婚できる可能性が宝くじで

Copyright@2026 D³S

一等当てるより難しいだろう。
そんな時、手に職をもっていろ、一人で生きていけるぞ」

美優　「そうよ。お父さん、わかってるじゃない」

（美優）（アホ親父め。玉の輿に乗っても、絶対面倒みてやんねぇぞ）

美優　「お姉ちゃんは、男子校に行って、襲われたらどうするのだって」

父　「お姉ちゃんに言ってやりなさい。美優は襲われるわけないから心配無用と」

（美優）（お前の葬式の時、鼻に線香さしてやる）

父　「だいたい、お姉ちゃんも　お母さんは、心配しすぎだよ」

美優　「そうよ。そうよ。私だって、もう十七才よ」

父　「痴漢だって襲う相手を選ぶぞ。
そうだ！　外灯をもっと増やそう。明るくなれば、痴漢だって、
間違えなくて済むはずだ」

（美優）（墓石に　呪　って描いてやる・・我慢我慢、ここは父を味方にしておかねば）

Copyright@2026 DS

美優　「ありがとう、お父さん」

父　「母さん達の説得は、ワシに任しておけ」

Copyright@2026 D³S

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

第二話

Copyright © 2026 D³S

夢雄　美侶

サブタイトル「新しい学校生活がはじまるのだ」

本話のあらすじ

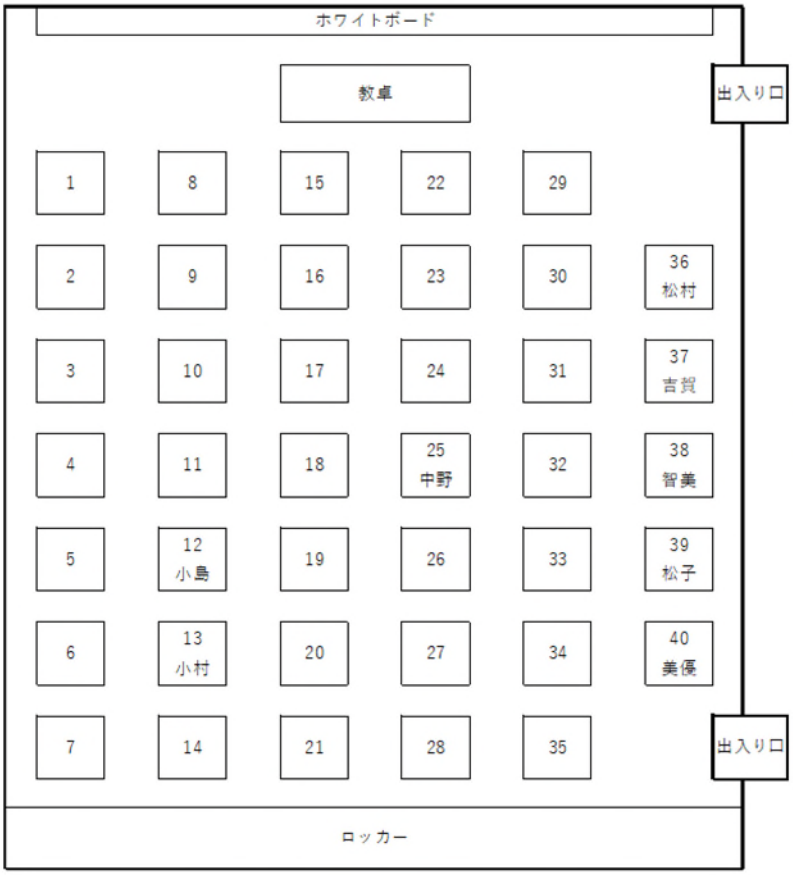
工業高校での学校生活が始まります
まずは、帰国子女で超金持ちの吉賀の生活がわかり、吉賀は小村に好意をもっていることが判ります。

登場人物（本話のみ）

（特になし）

Copyright@2026 D³S

■教室のレイアウト



Co S

□第一幕　新しいクラスメイトたち

〇姫磨工業高校の入学式の風景

（ナレーション）

そして春、美優は　小村のイク顔をみるために猛勉強し、見事、小村と同じ志望校に合格したのであった。
めでたし、めでたし。

〇（入学式の翌日　朝）一年二組の教室の中

▽美優、学校の廊下を歩いている

▽美優、教室の扉を開けて入る

〇一年二組の教室　智美が後ろを向いて、智美と会話している
座席は出席番号順に窓側から割り振られている
女子は、男子の次にくるため、男子の最後　吉賀の次が
智美（高谷）、松子（中川）、美優（夢前）となる、

▽松子、教室に入ってきた美優を見つける

Copyright@2026 D³S

松子　▽松子、美優に向かって手招きをする

智美　「きた、きた」

「こっち、こっち」

美優　▽美優、急いで、松子、智美の場所（自分の席）に行く

松子　「おはよう」

智美　「おはよう」

「昨日ぶり」

美優　「うんうん。昨日は、緊張して話しできなかったもんね。えっと、高谷さん」

智美　「智美でいいわよ」

美優　「じゃ、私は、美優で」

智美　「よろしくね。美優。じゃ、中川さんは　なんて呼べばいいかしら」

Copyright@2026 D³S

松子　「わたし。じゃ、私も　松子　でいいわ」

美優　「松子　って」

松子　「やっぱり変よね。昔から　この名前でからかわれて嫌なのよ」

智美　「そうかしら？松って、日本の代表って感じでいいじゃん」

美優　「そうよ、そうよ。それに、芸能人にも居そうじゃない」

松子　「ふふ　ありがとう、じゃ、松子って呼んで」

美優　「おっけー松子。ね、みんなは、どこの学校から来たの？
私は、増本（ますもと）中学から来たの」

松子　「私は、辺富（へんとみ）中学からよ」
松子　背は低く、可愛い系。いかにも勉強できますのような感じ

智美　「私、湖日（こにち）中学よ」よろしくね」
智美は、背は高く、スラッとしたでプロポーションの美人系の女子

▽美優　松子、智美を見る

Copyright©2026 D³S

（美優）

（智美・松子）

松子

（ナレーション）

（こいつ、処女でないな）

▽松子　智美、美優を見る

（色気ない子ね）

「よろしくね」

県立工業高校の工業化学科　生徒四〇名のうち女子は三人だけであった。
これから卒業までの三年間、この四〇名と過ごすことになる。

（数分後）

〇一年二組の教室　ホームルームの時間

▽担任（竹田）、教壇で話をしている

少し、頭のてっぺんが薄いので、早速“ザビエル”とあだ名が付けられてしまった。

Copyright@2026 D³S

竹田　「吉賀君、ちょっと前にきてくれるかな」

吉賀　「はい」

▽吉賀　席を立ち　教壇の方に向かう
吉賀達郎（よしが　たつお）髪は茶髪、色白の小顔
身長は１６０センチ　体重４８キロで　華奢体つき

▽智美　後ろを向き、松子に話しかける

智美　「何かしら」

松子　「さぁ」

▽吉賀、竹田の横に立つ

竹田　「吉賀君だが、実は帰国子女で、つい先日　日本に帰国したばかりなんだ。
お父さんの仕事でずっと海外で暮らしていて、まだ日本に慣れてないそうだから
みんなで助けてあげてほしい」

男子Ａ　「え、帰国子女てなんだ」

Copyright@2020 D³S

男子Ｂ　「どこの国から来たの」

＃　教室　騒がしくなる

竹田　「静にしろ。そんなことは、あとで、直接本人に聞いてくれ。じゃ、吉賀　何かみんなに一言あれば」

吉賀　「吉賀達郎（よしがたつお）です。海外といっても、父も母も日本人ですので日本語での話はできますが、たまに分からない言葉もありますみなさん教えてください」

男子Ｄ　「おっけーおっけー」

▽吉賀、席に戻る

▽智美、吉賀に声をかける

智美　「ねぇねぇ、どこの国から来たの？」

▽吉賀、後ろを向く

吉賀　「カリブ海の小国からだよ」

Copyright@2026 D³S

智美　「すごーいカリブ海かぁ、行ってみたいわ」

吉賀　「うん、海は世界一綺麗なところだからね」

▽竹田、しゃっべている智美と吉賀に注意

竹田　「こらこら、ホームルームだぞ」

智美　「すいません」

〇（次の）休憩時間

▽生徒Ａ、数人が吉賀のところに来て、いろいろ質問をしている

生徒Ａ　「ねぇ、英語ペラペラなの」

吉賀　「まぁ普通に話せるかな」

生徒Ａ　「すげぇ」

▽美優　智美　松子、美優の場所に集まり会話している

Copyright@2026 D's

松子　「すごい、帰国子女だって」

智美　「しかも　美形だし」

美優　「私は、自分より身長高い方がいいわね」

松子　「そうなの。じゃ、私にはピッタリね」

智美　「もう、松子たら気が早い」

松子　「両親とも日本人って言ってたけど、きっと美男美女なのね」
　　ねぇ美優はどう思う」

美優　「え、私？わたしは、そんなの気にしてないわよ」

▽松子　智美、顔を見合わせる

▽美優、少し離れた席に座っている　小村を見ている
　　松子と智美はの話題は、吉賀一色

（美優）

（小村君、私たち、これから三年間一緒なのね。

Copyright@2026 D³S

卒業までに、絶対、小村君を私の手で、いかせてあげるわね）

Copyright@2026 D³S

□第二幕　謎の美少年　〝吉賀〟

吉賀がカツアゲされたということで、竹田から誰かと一緒に帰るようにそこで、小村と一緒に帰ることになるのだが

○（翌日の朝）　一年二組の教室

▽美優　松子　智美、美優の周りに集まり、しゃべっている

美優が、最後尾となるため、後ろが広く　基本、三人は美優の周りか、智美は、美優と松子の間に来て会話することとなる

智美「ねぇ。他に同じ中学校の子っているの？　美優は？」

美優「私は、ここから近いからなのか、2人いるわよ」

智美「誰？　誰？」

美優「滝本君と、小村君」

智美「どっちも、イケメンね。うらやましいわ」

美優「そう？　で、智美たちは」

Copyright©2016 D'S

智美　「私の中学からは私一人だけなの」

美優　「そうなの。それも淋しいわね。松子」

松子　「私は、一人の方がよかったわ」

智美　「いったい誰」

松子　「あそこよ」

▽松子、小島の方を見る

▽美優　智美、小島の方を見る

美優　「それって最悪ぅ。悪夢が3年間つづくのね」

智美　「視力、だだ下がりよ」

松子　「言えてる～」

＃　数時間後　＃

Copyright@2026 D³S

○（夕方）一年二組の教室　ホームルーム中の教室

▽竹田、教壇に立ち連絡事項を話している

竹田「昨日、吉賀がカツアゲにあった。幸い何も取られずに済んだが、相手は、どこかの高校生だと思われる。おまえらも十分注意して、危ないと思ったら走って逃げるか、どこかの店に飛び込んで助けを呼ぶんだぞ」

井口「逃げるなんて、情けないよな。やっちまえよ」

竹田「おい！　井口、ケンカになって退学にでもなったらどうするんだ」

井口「でも、カツアゲだろ。正当防衛だって」

竹田「とにかく、ケンカはだめだ。吉賀がまた同じ目に遭うかもしれないな。誰か吉賀と同じ方向の奴はいないか？」

○美優　松子　智美の席

松子「吉賀君、カツアゲにあったんだ」

Copyright@2020 D³S

智美　「無理もないわね。あの見た目じゃ、鴨がネギしょってるっていうよりも、カモが松阪牛しょってるようなもんよね」

美優　「言えてる～」

▽竹田、教壇から話をする

竹田　「おい、誰か吉賀と方向が一緒の奴はいないのか？」

小村　「あの、俺～」

▽小村、手を上げる

▽竹田、小村に気づく

竹田　「どうした　小村」

小村　「たぶん、同じ方向なんだけど、俺、部活があるんで、帰りが遅いけど、いいのかなぁ？」

竹田　「そうか、部活があるよな。吉賀は、何か部活に入ったのか」

Copyright@2026 D's

吉賀　「まだですけど、じゃ、僕が小村君と同じ、クラブに 入ればいいんですよね」

竹田　「そうだな、それで解決だ・・・・ん？　小村が何部か聞いてからの方がいいんじゃないか？」

小村　「俺、バスケだけど、吉賀くん大丈夫？」

吉賀　「僕、バスケ大好きです」

小島　「いくら好きでも、あの身長だとレギュラーは無理じゃね」

（美優）（私は、身長より、チン長重視しよ）

小村　「じゃあさ、早速、今日行ってみるか」

吉賀　「うん」

美優　「あ~あー、ショック！」

松子　「どうしたの美優」

美優　「私も、バスケ部のマネージャーになる！」

Copyright@2026 D³S

松子　「何言ってるの、あんたは昨日、クラリネットするんだってブラスバンド部に入部届を出してたじゃない」

智美　「ね、ね、もしかして、美優って小村君のこと」

▽美優、慌てる

美優　「ない、ない、ないって」

智美　「その慌てよう……ますます怪しい。だいたい、二人とも同じ中学でしょ」

美優　「だから、何にも無いって」

○（その日の夕方）バスケット部　部室
　部活が終わり、小村と吉賀が着替えている

▽小村、バスケのユニフォームから制服へ着替えている

▽吉賀、ユニフォームがないから、自前のTシャツに、先輩がおいていったバスパンを穿いている

Copyright©2026 D's

小村　「いきなり、今日から出なくてよかったのに」

吉賀　「いいんだ。家に帰っても暇だから」

小村　「でも丁度、去年卒業した先輩のユニフォームがあってよかったよ」

吉賀　「うん。すぐにユニフォーム買うから、これは返すようにするよ」

小村　「しかし、吉賀君、バスケのセンスあるよな」

吉賀　「そうかな」

小村　「だって、初めての割に、人を避けるの上手いし、ジャンプだって高いじゃないか」

吉賀　「まぁ、身長が低い分、体が軽いからね」

小村　「よし、二人で頑張っていこうな」

吉賀　「そうだね」

Copyright@2026 D³S

○（部活帰り）学校の自転車置き場

小村「吉賀君は、どうやって通学してるの」

吉賀「僕は、歩きで来てるんだ。学校から半径２キロ以内は、自転車通学禁止なんだって」

小村「そんな校則は守らなくていいよ」

吉賀「校則は　守るためにあるんだよ」

小村「固いこというなよ。じゃ、後ろに乗りなよ」

吉賀「二人乗りも禁止だよ」

小村「そう言うなって。俺が帰るの遅くなるだと」

吉賀「そうだね。じゃ」

▽吉賀、小村の自転車の後ろにのる

▽小村、自転車をこぎ出す

Copyright@2026 D³S

（数分後）

〇（人気の無い）公園の前　※場所は問わない。

▽吉賀　小村、小村の漕ぐ自転車に二人乗り中

▽少年Ａ、突然、小村の漕ぐ、自転車の前に立ちはだかる

少年Ａ「おっと、危ない」

▽小村、慌てて自転車を急ブレーキをかけ停める

小村「危ないじゃないか」

少年Ａ「ごめん、ごめん」

▽少年Ａ、後ろに座っている吉賀の顔を見る

少年Ａ「お！　昨日の奴じゃん。わざわざ金を持ってきてくれたのか？」

小村「お前らか。俺の友達にちょっかい出したの。いい加減にしろよ」

Copyright@2026 D's

少年Ａ　「あん？　今日は仲間連れてきたのかよ。
それとも、スポンサーさん　かい？」

小村　「吉賀行くぞ！」

▽小村、思いっきり自転車を漕ぐ

少年Ａ　「おい、まてよ」

▽小村、転車で猛ダッシュし、道を滑走させる

小村　「どうだ、バスケで鍛えた足を見ろってんだ」

Copyright©2026 D's

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

小村

□第三幕　吉賀の家

（数分後）

○吉賀の家のマンションの前
　ここら辺では一番高い建物で、俗にいうタワマン

「ここだよ」

▽小村、転車を停め、マンションを見上げる

「吉賀の家って、ここなの」

「うん。そうだよ」

▽吉賀、自転車から降りる

「すげーところに住んでるんだな」

「そうでもないけどね」

「はぁ。しかし、全速力で漕いだから疲れたよ。吉賀君、大丈夫か？」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「うん僕は、乗せてもらってるから大丈夫。小村君の方は」

小村　「あぁ。普段から鍛えているから。と言いたいけど、さすがに二人乗りではきついな」

吉賀　「ごめん、小村君」

小村　「いいよ、いいよ」

吉賀　「そうだ、僕の家で休んでってよ」

小村　「もう、遅いし　帰るよ」

吉賀　「そっか、もう、遅いよね。ごめんね。僕、今、独りで住んでいるからつい、引き留めてしまって」

小村　「一人って」

吉賀　「両親とも海外に出張してて、しばらく帰ってこないんだ」

▽吉賀、悲しそうな顔をする

Copyright@2026 D's

（小村）

小村　（吉賀君、日本に来たばかりで不安なんだな）

「オッケー、少し、休ませてもらうよ」

吉賀　▽吉賀、笑顔になる

「うん」

〇エレベーターの中

▽吉賀　小村、エレベーターに乗る

▽吉賀、カードを取り出し、エレベーターのスキャナーにタッチ

〇エレベーターが動き出す

小村　「え？　何？」

吉賀　「僕の家の階に行くには、このカードキーが必要なんだ」

小村　「さらっと言ってるけど、それって、すごくない？」

Copyright@2026 D's

吉賀　「そうかな？　結構不便だよ。他の人が乗ってたら、家に入れないもん」

小村　「なんだ　そりゃ」

〇エレベーターが止まる。

▽吉賀、エレベーターの階数ボタンをランダムに数個押す

〇エレベーターの扉が開く
　目の前には、両開きのドアが現れる

〇吉賀家の玄関

▽吉賀、ドアの横にある、指紋認証機に指をタッチする

＃「カッチ」（鍵の開く音）＃

▽吉賀、ドアノブに軽くタッチ
　ドアが開く

Copyright@2026 D's

▽小村、吉賀の家の玄関を見る

▽小村、玄関の広さに圧倒される

小村「なんて広い玄関なんだ」

吉賀「二十人くらいの人が来るときあるからね」

小村「に、二十人。俺の家だと入りきらない人数だ」

吉賀「客室も二室あるから、いつでも泊めてあげるよ」

小村「泊まりはしないけど、すげぇ家だな」

▽吉賀　小村、玄関で靴を脱ぐ

▽吉賀　小村、家に上がり廊下を進む

吉賀「誰もいないから、気兼ねはいらないよ」

小村「誰もいないって、生活できてるのか」

Copyright©2026 D³S

吉賀　「うん。なんとかなってる」

▽吉賀、ドアを開ける

〇吉賀家のリビングルーム
　百畳くらいの部屋、大型テレビ、ソファー、ガラステーブルが置いてある。

吉賀　「ソファーに座って休んでいて」

▽小村、ソファーに座る

小村　「すごいな。ここだけで俺の家より広いよ」

吉賀　「そんなことないよ」

小村　「まじだって」

吉賀　「でもさ、学校から帰って、一人でこんな家にいたら、どう？
　話し相手　いないしさ」

小村　「そっか、俺だったら耐えられないかもな」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「両親とも外交官だから、殆ど、海外出張で日本にいないんだよ。たまに帰ってきても、すぐに、またどこかに行ってしまう」

小村　「じゃ、飯の支度は？」

吉賀　「平日の午前中に、お手伝いさんが来て、洗濯、掃除して、ご飯を作って帰ってくれるんだ」

小村　「そっか」

吉賀　「お腹空いてるなら、何か食べる」

小村　「大丈夫だよ」

▽吉賀、ズボンを脱ぎ、カッターシャツのボタンを外し出す

吉賀　「学校の制服は息苦しいから、着替えるね」

▽吉賀、黒のボクサーブリーフだけの姿になる

吉賀　「僕だけごめん。小村君も制服脱いでいいよ」

Copyright@2026 D's

小村　「俺は、いいよ」

吉賀　「遠慮しなくていいよ。それに、僕は、汗臭いのいやなんだ」

▽小村、自分の体臭を匂ってみる

吉賀　「ごめん。小村君のこと言ったんじゃないから」

小村　「いや、確かに臭うよな」

吉賀　「着替えだしてあげるから、シャワー浴びる」

小村　「さすがにそれは、悪いよ」

▽吉賀、悲しい顔をする

吉賀　「そうだよね」

小村　「やっぱ、借りようかな」

吉賀　「うん」

Copyright@2026 D³S

小村　「どんな風呂か見てみたくなったよ」
　＃小村、言い訳してる＃
吉賀　「どうぞどうぞ、狭いお風呂だけど、シャワールームに案内するよ」
　▽小村、立ち上がる
吉賀　「じゃ、着いてきて」
　▽吉賀、部屋を出る
　▽小村、吉賀に着いていく
　○吉賀家のバスルームの脱衣場
　　かなり広い。洗面台が複数ならび、反対側には引き出しや扉がならんでいる
　▽吉賀、扉を開ける
　　バスローブがハンガーに釣ってある
　▽吉賀、脱衣場の引き出しを開ける
　　バスタオルと、着替えが入った手提げカバンが入っている

Copyright@2026 D°S

吉賀　「サイズはLでいいよね」

▽吉賀、手提げ鞄を取り出す

▽吉賀、村に手提げカバンを渡す

吉賀　「はい、小村君　これにタオルと着替えが入っているから」

小村　「タオルだけでいいよ」

吉賀　「せっかくシャワー浴びて、汗流すんだよ。着替えなよ
どうせ、お客用に揃えているのだから、気にしないで」

小村　「そっか。じゃ」

▽小村、提げを受け取り、中からタオルを取り出す

▽小村、次に黒のボクサーパンツを取り出す

小村　「おれ、ボクサーパンツってはじめて」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「そうなの？じゃ、トランクス派かな」

小村　「そう」

▽小村、脱衣場で服を脱ぎ始める

▽吉賀、ボクサーブリーフを脱ぐ

▽小村、吉賀の尻を見てしまう

▽小村、目をそらす

▽小村、トランクスを脱ぐ

▽小村、タオルで前を隠している

▽吉賀、自分の脱いだ物を広い、カゴになげこむ

▽吉賀、小村の脱いだトランクスとシャツを、カゴに投げ込む

小村　「どうしたの」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「あそこに入れておけば、明日、お手伝いさんが選択してくれるんだ」

小村　「俺のも」

吉賀　「だって、僕一人だと、洗濯物が少なすぎるでしょ」

小村　「そりゃそうだけど」

吉賀　「今度、寄ったときに渡すよ」

小村　「なんか、悪いな」

吉賀　「さっきから、そればっかり。本当に気にしないでね」

▽吉賀、バスルームの扉を開ける

○吉賀家のバスルーム

入ると直ぐ　シャワーブースが並んでいる

小村　「これが風呂？　やっぱ、フロだけでも、俺の家並みじゃん」

吉賀　「さすがに、それは無いでしょ」

Copyright@2026 D³S

小村
吉賀

「絶対、あるって」

「それはシャワーの後でゆっくり話そう。取りあえ汗を流そう」

▽吉賀、蛇口をひねり、シャワーを浴び出す

▽小村、吉賀のを見て　自分もシャワーを浴び出す

▽シャワー浴びている二人

▽小村、タオルに石けんを付けて体を洗いだす

Copyright@2026 D³S

小村　「汗を掻いたあとの、シャワーは最高だよな。で。その後は、キュッっと」

吉賀　「小村君って、飲むの？」

小村　「なんて、冗談だよ。ジュースでもあれば最高だな」

吉賀　「残念、本気にしちゃった。一緒にキュッと！　したかったのに」



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

Copyright@2026 D's

小村　「え？」

吉賀　「冗談だって」

▽吉賀、シャワーを止める

吉賀　「小村君、背中を洗ってあげるよ？」

小村　「え？　いいよ」

吉賀　「いいから遠慮しないで」

▽吉賀、手にもっているタオルで、小村の背中を洗い出す

小村　「人に洗ってもらうって、気持ちいいよな」

吉賀　「わかる、わかる。美容院でシャンプーしてもらう時は至福だよね」

小村　「吉賀　美容院に行ってるんだ」

吉賀　「昔からそうだよ」

Copyright@2026 D³S

小村　「美容院て、女の人が行くところじゃないのか」

吉賀　「何言ってるの。おしゃれ男子は美容院だよ。小村君も行ってみたら」

小村　「いや、遠慮しておくよ、高そうだし」

吉賀　「高いかどうかは　わからないけど、リラックスできるんだけどな」

小村　「いや、俺はストレスになりそうだ」

▽吉賀、小村の背中を洗っていた手を止める

吉賀　「はい、じゃ、次はこっち向いて」

小村　「え」

吉賀　「いいから、こっち向いて」

小村　「さすがに前に向くのは」

吉賀　「いいから」

Copyright©2026 D³S

吉賀　▽小村、手で股間を隠し、吉賀の方に向く

小村　「手をどけないと洗えないよ」

吉賀　「マジではずかしいんだけど」

「男同士だよ。気にしない、気にしない」

▽小村、手をどける

▽吉賀、小村の股間を見る

吉賀　「立派じゃない」

小村　「こんなところに立派ってあんのか」

▽吉賀、小村の胸のあたりからタオルでこする

Copyright@2026 D³S

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



吉賀　「小村君、かっこいいよね」

小村　「そんなこと言われると照れるだろ」

▽吉賀、しゃがむ
　目の前に小村の陰茎

吉賀　「まだ、皮がついてる」

小村　「皮って」

Copyright@2

小村　▽吉賀、小村の陰茎の皮をひっぱる

吉賀　「ちょっと、ちょっと、痛いよ」

　　「ごめんごめん。これが皮」

吉賀　▽吉賀、立ち上がり、自分の陰茎を見せる

小村　「ほら、僕はもう剥けてるんだ」

吉賀　「ほんとだ。中身が出てる」

小村　「中身って、面白い言い方だね」

吉賀　「何で言えばいいんだよ」

小村　「ここは、亀の頭って書いて、亀頭って言うんだよ」

吉賀　「亀頭か。確かにそう見えるよ」

小村　「で、なんで亀頭が出てるといいの」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「うーん。一般的に剥けてる方が、いいことになってるの」

小村　「そっか、吉賀も知らないんじゃんないか」

吉賀　「日本人は、二十歳くらいまでは剥けてない人が多いっていうからね」

小村　「俺さ、たまに大きくなった時に、亀頭とやらが出てきてて、そしたら、痛いんだよね」

吉賀　「たぶん、慣れてないから擦れていたいんだね」

小村　「慣れか。別に痛い思いするなら、このままでもいいかな」

吉賀　「いや、やっぱり剥けてる方がいいよ。ちょっと練習してみよっか」

小村　「練習って」

吉賀　「いいから　まかせて」

▽吉賀、小村の陰茎を手にのせ、やさしく擦りだす

小村　「ちょっと、ちょっとまった」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「大きくしないと、剥けないでしょ」

小村　「いやでも」

吉賀　「大丈夫、痛くしないから」

▽吉賀、小村の陰茎をさすっている

小村　「やべ、大きくなってきたよ」

吉賀　「うんうん。小村君の大きいね。もう少しで、出てきそうだ」

吉賀　「あ、出てきた」

小村　「ちょっと痛いかも」

吉賀　「そっか。小村君の場合、皮が小さいんだね。それで締め付けられるから痛いんじゃないかな」

小村　「そうなのか」

Copyright@2026 D's

吉賀　「何度かしていると、皮が伸びて、痛くなくなるよ」

小村　「そんなもんなのか」

吉賀　「じゃ、優しく洗ってあげるね」

小村　「吉賀が触ってると、ぜんぜん元にもどらないよ」

吉賀　「そっか」

❤️←❤️　ＥＲＯ　ＭＯＤＥ　❤️←❤️

吉賀　「じゃ、どうしたら、元に戻るか、教えてあげる」

小村　「そんなこと　知ってるのか。授業中に急に大きくなって、困るときがあるんだ教えてくれよ」

吉賀　「じゃ」

▽吉賀、小村の陰茎を握し、ゆっくりと扱きだす

小村　「なに　何するんの」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「いいから　小さくする方法を知りたいんでしょ」

▽吉賀、小村の陰茎を激しく扱きだす

小村　「あん、あ、あ、あ、あ、あ」

▽小村、膝をがくつかせる

吉賀　「感じてきてるね」

小村　「ちょっと気持ちいいかも」

▽吉賀、立ち上がる

▽吉賀、小村の背後に回る

　背後から、両手を腰から回し、小村の陰茎を握る

小村　「え、なに」

吉賀　「僕に任せて」

Copyright@2026 D's

小村　▽吉賀、小村の陰茎を真っ直ぐに扱きだす

小村　「あ、やめて、やめて」

吉賀　「あ、ああぅ。うっ、ああ、あ、ん」

　「もう少し我慢したら、気持ちよくなるよ」

　▽吉賀　もう片方の手を　小村の胸にあて　指先を乳首へ
　　爪で、小村の乳首の先をなぞる

小村　「あ、だめ、やばい、ションベン行きたくなってきた」

吉賀　「出していいよ」

　▽吉賀、背後から表側に回る

　▽吉賀、小村の前に立ち小村の乳首の周りを舐めはじめる

小村　「ちょっと、ちょっと、まじで　ションベン出そう」

吉賀　「しっ」

Copyright@2026 D³S

小村　▽小村、上を向く

▽吉賀、自分の人差し指を小村の口に入れ、小村の舌の上をさする
小村は、話せなくなる

▽小村、足がガクガクし、吉賀の手の動きに合わせて、腰を振り出す

小村　「あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ」

▽吉賀、小村の口から指を出し、指で小村の乳首をいじりだす

吉賀　「あ、もう、だめ、やばい、小便が出る、で、で、で、出る」

小村　「このまま出していいよ」

「いや、マジでやばい、トイレに」

▽吉賀、小村の陰茎を激しく扱く

小村　「あ、もう、だめ　間に合わない」

Copyright©2026 D³S

▽小村、大きく足ががたつく

（シャワー室の壁に、小村の精液が飛び散る）

▽小村、息が荒い

小村　「あーっ」

（数秒後）

▽小村、射精する

　シャワールームの床に精液が落ちる

▽吉賀、小村の勃起した陰茎をゆっくりと扱く

　絞られるたびに、シャワールームの床に小村の精液がポタポタと落ちる

小村　「漏らしちゃったじゃないか」

吉賀　「だね」

小村　「こういう時って、こんなネバネバした小便が出るんだよな」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「これは、小便じゃないんだけどね」

小村　「じゃ、一体なんなの」

吉賀　「ザーメン」

小村　「え？」

▽吉賀　小村の　萎んだ陰茎を手で持つ

吉賀　「ほら、しぼんできたよ」

▽小村　下を向いて自分の陰茎を見る

小村　「でも俺、さすがに小便漏らすなんて、できないよ」

❤️→❤️　ＥＲＯ　ＭＯＤＥ　❤️→❤️

▽吉賀　自分のシャワーブースに戻る

▽シャワーから出る二人

Copyright@2026 D's

吉賀
小村
（吉賀）
吉賀
吉賀
小村
吉賀

○吉賀家の脱衣場
　吉賀と、小村がタオルで身体を拭いている
「どう、すっきりした」
「シャワー浴びて、すっきりしたよ」
（すっきりしたのは、そこじゃないんだけどね）
「僕も」
▽小村　ボクサーブリーフを穿く
▽吉賀　小村を見る
「サイズは　どう」
「ちょうど　いいよ」
「よかった」

Copyright@2026 D³S

□第四幕　翌日の放課後

〇（翌日の放課後）教室　吉賀の席

▽小村、吉賀の席にやってくる。

小村　「吉賀ごめん、今日は俺、用事があって部活を休むんだ」

吉賀　「そうなの？残念だな」

小村　「ごめん、一人で帰れるかい？」

吉賀　「大丈夫だよ。まさか、昨日の今日だし」

小村　「そうだよな。じゃ、そういうわけで、部長にも言っておいて」

吉賀　「了解」

▽小村、急いで教室を出る

〇（夕方　部活帰りの道）人気の無い公園

Copyright@2026 D³S

少年Ａ
吉賀
少年Ａ
吉賀
少年Ｂ
吉賀
少年Ａ

▽吉賀、道を歩いている
▽少年Ａ、吉賀を見つけ、吉賀の前に立ちはだかる
「おいおい、また会ったな。俺ら、よっぽど縁があるよな」
「また、貴様らか。ひつこいね」
「おおっ、今日は、えらい強気だな。昨日の白馬の王子様はどうした？一人で大丈夫か？」
「いい加減に消えろよ。僕は君らみたいに暇じゃないんだ」
「暇じゃないなら　さっさ出す物出して、いきな」
「あいにく、捨てる金は有っても、お前らに　やる金はないね」
「痛い目に遭わないとわかんないようだな」
▽少年Ａ、吉賀に殴りかかる、
▽吉賀、手のひらで相手の拳を掴み、ぐっと握りしめる

Copyright@2026 D³S

少年Ａ　「いて～」

▽吉賀、少年Ａの手をひねり出す。

少年Ａ　「離せ、離せ、こいつ?」

少年Ｂ　「こいつ、ふざけやがって」

▽少年Ｂ、吉賀になぐりかかる

▽吉賀、足で少年Ｂの腹にけりを入れる

▽少年Ｂ、転ける

少年Ｂ　「う、う、う」

▽吉賀、少年Ａを引き寄せる

吉賀　「これ以上、僕を怒らせるな」

▽吉賀、少年Ａを体ごと突き放す

Copyright@2026 D³S

吉賀

▽少年Ａ　転んでいた少年Ｂの上に転ぶ手をつきはなす

「次、会った時は、容赦しない」

▽吉賀　去っていく

Copyright@2026 D'S

第三話

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

夢雄　美侶

Copyright © 2025 D³S

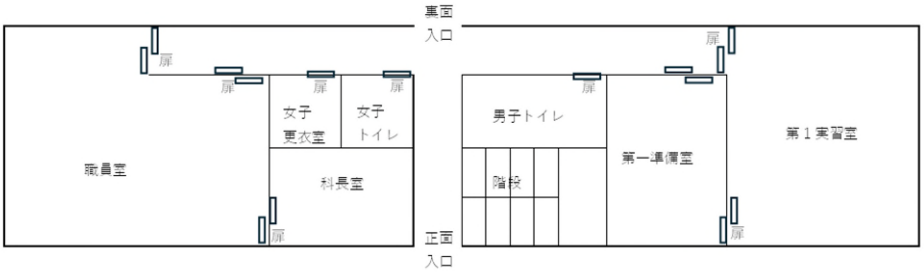
サブタイトル「授業をがんばるのだ」

あらすじ

県立姫磨工業高校の教師の中で、超インパクトのある　土呂　が登場
土呂は、イケメン男子高校生が大好物。そんな土呂は、美少年の吉賀に
さっそく狙いを定めます

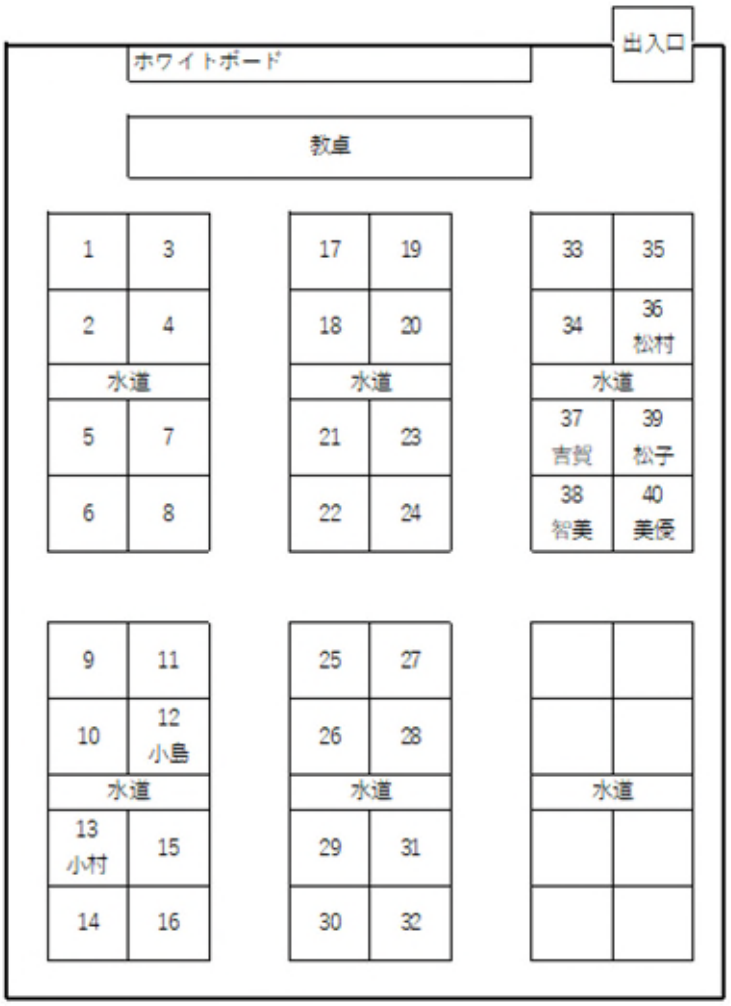
Copyright@2026 D³S

■工業化学科棟　一階のレイアウト



Copyright@2026 D³S

■第一実習室のレイアウト



Co D3S

（ナレーション）

□第一幕　はじめての実習時間

工業高校のカリキュラムは普通科高校と違い、授業の半数は専門教科になっている。
そのうち、いくつかは実習を伴うことがあり、実習の時は四人で一つのグループに分かれて行う。
グループの分け方は出席簿順となり、このクラスでは男子最後の吉賀は必然的に女子三人のグループに入ることとなる

○（ある日の午前）実習室
　まだ休憩時間なので、実習室には全員入っていない

▽美優　智美　松子　吉賀、一グループなり、左側前方のテーブルに座っている

▽男子Ａ、実習室入ってすぐの吉賀のグループに近づき、
　椅子に座っている吉賀に話しかける

男子Ａ　「いいなぁ吉賀は」

吉賀　「どうして」

Copyright@2026 D's

男子Ａ　「実習時間も女子と一緒じゃん」

吉賀　「そうかな？別にいいとは思ってもないけどね」

男子Ａ　「代わってやりたいよ」

▽美優、吉賀に話かける

美優　「ちょっと、吉賀くん、今なんて？こんな美人達と実習できて、うれしいと思わないの」

吉賀　「美人かどうかはおいておいて、面白いとは思うけどね」

美優　「面白いって、私達芸人じゃないわよ。ねぇ智美」

智美　「そうよね」

吉賀　「ごめん、ごめん」

松子　「まぁ美優は芸人のいきに達してる気もするから、あながち嘘じゃないわね」

美優　「もう、松子たら」

Copyright@2026 D³S

男子Ａ　「相変わらず夢前はおもしろいな。じゃ、あとでな」

吉賀　「うん」

▽男子Ａ、去って行く

▽小村、実習室に入ってきて、やはり吉賀の席にくる

小村　「吉賀の席、ここなんだ」

吉賀　「出席番号順のようだよ。ホワイトボード見てみて」

▽小村、ホワイトボードを見る
　ホワイトボードにテーブルのレイアウトに、出席番号が振られている絵が書かれてある

小村　「ラッキー。俺は、一番後ろの席だ」

吉賀　「そっか離れちゃうね」

▽美優、小村と吉賀の会話に割って入る

Copyright@2026 D'S

美優　「ちょっと小村君、聞いてくれる。吉賀君たら、ひどいの。女子に囲まれて、幸せでしょって聞いたら、違うんだって」

吉賀　「違うよ。夢前さんが、美人でしょ　って聞くから」

小村　「なんだ、吉賀。、もしかして、夢前にいじめられてるのか。こいつが何かしたら、俺が摂関してやるから　いつでも言えよ」

美優　「ちょっと小村君、何言うのよ。私は何もしないわよ。されるのは、私の方なんだから」

小村　「どうみても、夢前の方が悪代官にしか見えないけどな」

美優　「もう、いいから、早く、席に戻って」

小村　「はいはい」

＃始業のチャイムが鳴る＃

小村　「じゃ、吉賀　また後で」

Copyright@2026 DBS

吉賀　「うん」

▽小村、自分の席の方へ移動

松子　「実習って、なんだかワクワクしない」

美優　「うんうん。講義だと睡くなるから、助かるわ」

智美　「美優の場合は　そこなのね」

▽教師（山田（女）　落合（男））、実習室に入ってくる

落合　「えっと、実習を担当する私が落合で、こちらが山田先生だ。よろしく」

程なく、授業が始まった。
初めての実習は、器具の洗い方だった。
実習卓の横に添え付けられている流しで、試験管やスポイトを洗っていった。

▽美優、試験管を洗っている　試験管を見つめて

（美優）　（こんな太さじゃ満足しないわね・・・

Copyright©2026 D³S

松子　いかん　いかん、神聖な授業時間になんてこと考えているんだ）

▽松子、吉賀が向かい合わせに、試験管を洗っている

吉賀「ねぇねぇ、吉賀君は、どこに住んでいるの？」

松子「新増山だよ」

吉賀「新増山って、再開発地区で、今、タワマンがいっぱい建ってるとこでしょ」

松子「そうだよ。一応、僕もそのタワマンの一つに住んでいるんだ」

吉賀「すご～い、吉賀君ちってお金持ちなのね」

松子「そんなことないよ」

美優「いいなぁ、一度でいいから高い場所から街の景色を見てみたいわ」

松子「でも松子、タワマンって言っても、部屋が何階にあるかだよ」

吉賀「ねぇ吉賀くん家は、何階なの」

Copyright©2026 D³S

吉賀　「一応、最上階五十階かな」

松子　「え、最上階。すごい。ね、美優　すごいじゃない」

美優　「うんうん。うちにこんな金持ちがいたのが、すごいよ」

松子　「ねぇ今度、遊びに行ってもいい？」

吉賀　「いいよ」

智美　「ちょっと松子、さっきから何言ってるの。女の子が男の子の家にいくなんて」

松子　「え、そうなの。私　一度、高いところから自分たちの住んでいる景色が見たいと思ってたのよ」

智美　「そうじゃなくって。男子の家に女子が一人で行くってのは」

松子　「行くってのは　何」

智美　「まぁ、いいわ」

吉賀　「景色でよければいつでも来てくれて構わないよ」

Copyright©2026 D³S

松子　「え、いいの」

吉賀　「夜になると、海のほうまで夜景が広がって綺麗だよ」

松子　「え、是非みたいわ」

智美　「夜に行くなんて、ますますダメよ」

Copyright@2026 D³S

松子

□第二幕　エロエロ体育教師

★　☆　★　参考　★　☆　★

これから出てくるランニングパンツですが、

”asics　XT1524”　の白色です。

★　☆　★　参考　★　☆　★

そして今日は、高校生になっての初めての保健体育の授業

○女子更衣室女子

美優、松子、智美は体操服に着替えていた。

ちなみに男子は、教室で着替えを行う

女子の体操服は夏は半袖と7分丈　冬は長袖　長ズボンのジャージ

男子は、冬は　長袖　長ズボンのジャージだが、

夏は、白のランニングシャツとランニングパンツである。

▽美優　松子　智美、着替えながら会話している

▽松子、着替えている智美を見る

「智美の胸が大きいの知ってるけど、体操服だと一段と目立つわね」

Copyright©2026 D³S

智美　「ふふふ、そりゃ、毎日、彼氏に揉んでもらってるもん」

松子　「えーそれって、問題発言！」

智美　「冗談よ、冗談。松子だって、そこそこじゃん」

（美優）▽美優、自分の胸をみる

（女は、胸ではない。テクニックだ）

智美　「そうそう、知ってる？　体育教師の土呂（とろ）ってゲイらしいわよ」

松子　「え？　まじ？　キモッ！」

美優　「えっと　ゲイってつまり、男の人が男の人をを好きってこと？」

（美優）（なに、それ。最高じゃん）

（美優）（イケメン教師と、イケメン男子高校生が抱き合っているシーンを想像中）

Copyright@2026 D's

智美　「そうそう、それも、よりによって、若い男の子」

松子　「えぇ～最悪じゃん」

美優　「それって、マジでやばいんじゃないの」

智美　「そうよ」

智美　「それに、うちの男子の体操服って見たことある？」

美優　「どんなのだっけ？」

智美　「白のランニングシャツに白のランニングパンツよ」

美優　「え？　ランニングシャツ、ランニングパンツ？ってどんなの？」

智美　「テレビで　箱根駅伝って見たことある？正月にやってるやつ。
その選手が着ているやつよ」

美優　「あぁ、それだったら、分かるわ。部活の時間に、穿いている人いるわね。
とても走りやすそうだし、それがなんでダメなの」

Copyright@2026 D³S

（美優）　（なに、あ、あの合法的　男のもっこりが見れる番組）

松子　「走りやすいのは確かね

美優　「紫でかっこいいし」

智美　「紫は、陸上部のユニフォームね。男子の体操服は白なの」

美優　「じゃ、なんで、ダメなの？」

智美　「美優、後で、ちゃんと男子を見ておきなよ」

美優　「うん、わかった。見てみる」

（美優）　（ふふふ。生地に穴があくくらい見てやるわ）

智美　「で、それを体操服に指定したのが、土呂ってわけ」

松子　「わぁヤダ」

美優　「でもさ、そんな奴が、よく体育教師やってられるわね」

Copyright©2026 D³S

智美「何言ってるの。だから学校も安心できるんじゃない」

美優「へっ？　なんで？」

智美「女好きのエロ教師が、女子生徒をやらしい目つきで見てたらどうなる？」

松子「そりゃ、クレームの嵐だわね」

智美「でも、男好きの男教師が、露出の高い男子生徒を舐め回すように見ていたら？」

美優「そりゃ、目の保養よね」

松子「え？」

美優「あ、違う違う」

松子「なるほど。私たちは安心ってわけね」

智美「そういうこと」

Copyright@2026 D3S

○運動場
　工業高校の運動場は、比較的広い
男子生徒らは、朝礼台の付近で、しゃべり混んでいる。

▽美優　智美　松子、運動場に出て、男子生徒を見る



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

▽美優、ランニングパンツの股間部分が、もっこりしている姿を見る

（わっ。何、ここはパラダイスなの？ヘブンなの？）

智美　「どう？うちの体操服。結構、目立つでしょ」

（美優）

Copyright@2026 D's

美優　「ええ、確かに、短いけど　やっぱり動きやすそうじゃん」

松子　「まだ　言う」

○チャイムが鳴る

▽美優　智美　松子、男子の居る方に近づく

（美優）（もっこりがよく見えて、至福じゃ）

＃教室の建物から男性教員が運動場に向かって歩いてくる＃

▽土呂、運動場にやってくる

大柄で小太り、とても体育の教師とは思えないが、

昔は、バレーボールで全国大会までいき、姫磨工業高校のバレー部も

全国大会　ベストエイトにまでのし上げた人物である

土呂は、細長い木の枝のようなものをもっている

▽土呂、生徒の前にたつ

土呂　「おーい、背の高い順から2列で並べ」

Copyright©2026 D³S

▽生徒、身長を見比べながら並ぶ

男子の中で、一番背が低いのは吉賀である。
次に女子の中で背が一番高いのが美優なので、必然的に吉賀の後ろ
美優がに並ぶことになる
美優、智美、松子　の順となる

▽美優、吉賀の後ろに並ぶ
吉賀の横は、智美が並んでいる

▽美優、前にいる吉賀の後ろ姿を見る
色白で、華奢な体、体毛も殆どない
ランパン、ランニングシャツは身体の線を引き立たせている

（吉賀って、よく見ると、小尻で、結構、スタイルいいじゃん）

「これから保健体育を受け持つ土呂（とろ）だ。卒業までよろしくな」

▽美優、土呂をまじまじと見る

（なにあれ、土呂っていうより、某アニメのキャラじゃん。あぁせっかくの）

（美優）

土呂

（美優）

Copyright@2026 D³S

（美優）

（イケメン教師とイケメン男子高校生の画像に×がつく）

土呂　「じゃ、まずは、ラジオ体操をするから　ちょっと、広がれ」

▽生徒たち、間隔を広げる

土呂　「はじめ」

▽生徒たち、なにもしない

▽土呂、もっている木の枝で、地面を叩く

＃ビッシ＃

土呂　「おら、かけ声してやらんか」

▽生徒たち　ラジオ体操をはじまる

生徒　「いち・に・さん・し、いち・に・さん・し」

▽土呂、生徒の間を　歩き回る

Copyright©2026 D³S

土呂　「おらぁ、もっと　声だせぇ！」

生徒　「いち・に・さん・し　いち・に・さん・し」

生徒　「いち・に・さん・し　いち・に・さん・し」

土呂は　５０　ｃｍくらいの長さの竹のような棒を持っている。
それを振り回しながら、ラジオ体操している生徒の間を通り抜けていった。

▽土呂、一人の生徒の前で止まる

▽土呂、一人の生徒に、棒を使いランニングパンツにスソを捲る
　カラフルなパンツの柄が見える

土呂　「ん？　なんだこれは？」

生徒Ａ　「ボクサーパンツですけど」

土呂　「そんなものは分かってる。誰が、パンツを穿いていいと言った？
　体操を止め！」

▽生徒たち、ラジオ体操を中断

Copyright@2026 D³S

土呂　「おい、お前ら、ランニングパンツの下に、何も穿くなと言ったろ。日直、昨日の連絡で伝えたのか？」

生徒Ｂ　「はい、伝えました」

土呂　「だったらなんで、ランニングパンツの下にさらにパンツを穿いているんだ？」

生徒Ｃ　「こんなの　ペラペラで　恥ずいじゃん」

生徒Ｄ　「だいたい、こんな短いの、しゃがんだら中が見えるだろ」

土呂　「うるさい、そのためのインナーが、付いてるだろいいから、急いで、穿いている奴は今すぐ脱げ」

生徒Ｅ　「マジかよ」

生徒Ｆ　「女子もいるんですよぉ」

土呂　「いいか、ランニングパンツの下に他のパンツを穿くことは禁止だこれから　お前達は激しい運動をするんだぞ。擦れて股ズレを起こすと

Copyright@2026 D's

どうなるか。大事なところが傷付くんだぞ。
このパンツには、そういったことを考えて、最初から
インナーが付いているんだ」

生徒G　「先生、説明は　もう　わかったから今日は、勘弁してよ」

土呂　「うるさい。脱げと言ったら脱げ」

▽土呂、竹の棒で地面を思いっきり叩く

▽数人の生徒達、しかたなく、パンツを脱ぐために運動場の端に移動

土呂　「早くしろ！」

松子　「サイテー　こんなところで脱がすなんて」

智美　「本当よね、土呂のやつ。脱いでいる男子のあそこ、めっちゃ見てるわよ」

美優　「サイアク～」

（美優）　（ああ、私も　近くでみたいだよ）

Copyright©2026 D's

智美

吉賀

（美優）

土呂

▽智美、横にいる吉賀に話しかける
　吉賀はランパンの下に何も穿いていないので、脱ぎに行ってない
「吉賀君は、大丈夫だったの？」
「うん。昨日、体育委員が穿かないようにと言ってたし、
ランニングパンツにインナーパンツが付いてる理由は、
先生の言う通りだと思うよ」
▽美優、木陰でパンツを脱ごうとする小村を見る
（あ、小村君も、穿いていたのね。見たい。とっても見たい。
そこに行ってみてみたい）
（数分後）
▽男子生徒、戻ってくる
「ラジオ体操はもういいだろう
次は、柔軟体操をするぞ。前後でペアになれ」
▽吉賀、後ろを向き美優を見る

Copyright@2026 D'S

吉賀　「夢前さん、僕でいいかな」

美優　「ええ、全然大丈夫よ」

▽土呂、吉賀と美優のそばを通る

土呂　「吉賀、女子と組めるなんて、幸せ者だな」

▽土呂、生徒の前に立つ

土呂　「背中合わせになり、お互いに背負いっこするぞ」

　二の背中同士をくっつけて、頭の上で両手を繋いだ状態で、

　ひっぱり互いの背筋を伸ばす運動

▽吉賀　美優、背中を合わせ手を握る

吉賀　「夢前さん、いいかな。僕が先にひっぱるね」

美優　「どうぞ」

▽美優　吉賀、手を上に上げ手を握る

Copyright@2026 D³S

（美優）　（わ、男子と手を繋ぐなんて何年ぶりかしら）

▽吉賀、美優を背負う

▽吉賀、美優を下ろす

美優　「じゃ、今度は私ね」

吉賀　「重たかったら言ってね」

▽美優　吉賀を背負う

（美優）　（軽ぅ～　こいつ　何食べてるんだ）

土呂　「次は、横になり、お互いを引っ張り合え」

横に並び、両手を繋いで引っ張りあう運動

▽美優、吉賀の手を握る時に、吉賀の手を見る

（美優）　（指長っ　しかも、手の甲がめっちゃ綺麗。手タレやれよ）

Copyright@2026 D³S

土呂　「よし、次はちょっと難しいぞ　ブリッジだ。
まずは前列のやつ。後ろの奴は横で、背中を支えてやれ」

▽美優、吉賀の顔を見る

美優　「じゃ、まずは、私が支えるほうね」

吉賀　「あ、夢前さん、僕　ブリッジなら、独りで出来るから大丈夫だよ」

美優　「そう、じゃ、邪魔しないで見ているわね」

▽美優、吉賀の横に立っている

▽吉賀、地面に寝転ぶ

▽美優、吉賀のランパンの股間の膨らみを見る

（美優）　（めっちゃ　もっこりしてる。よく見ると、カリも判るわ）

▽吉賀、と脚の間を狭め腰を徐々に持ち上げていく

（美優）　（わ！　、すごい　もっこりが、強調されていく）

Copyright@2026 D's

（美優）

吉賀

（美優）

美優

吉賀

（美優）

▽吉賀、ブリッジを完成させる

（めっちゃ　もっこりしてる。よく見ると、カリも判るわ）

「どうかな」

（どうかなって、顔に似合わず大きいんだから）

「すごい、ちゃんと出来てるよ」

「ちゃんと見ててね」

（本人の希望だから、しょうがないわね。じっくり見てますよ）

Copyright@2026 D³S

美優

（美優）

吉賀



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

「吉賀君て、すごい。体が柔らかいのね」

（ランパンに沿ってあそこも柔らかそうだけど・・・）

「まぁね」

Copyright@2026 D³S

土呂　「よし、そのまま、耐えてろよ」

▽土呂、生徒の間を通り抜ける

▽滝本、ブリッジをしている

▽土呂、滝本のそばで止まる

土呂　「お、滝本　いい足してんな。ここも立派そうだし」

▽土呂　滝本のランニングパンツを、木の枝で撫でる

滝本　「先生、止めてください」

土呂　「おっと、悪い悪い」

（土呂）（俺は、こんな筋肉馬鹿よりは、可愛いのがいいだよな）

▽土呂、中尾の前で止まる

▽土呂、中尾のランパンの上木の枝で撫でる

Copyright©2026 D³S

土呂　「お、中尾は、男前だけど、ここは小さそうだな
まぁ、通常より勃起時の方が大事だから　どれ、手伝ってやるか」

▽土呂　中尾のランニングパンツの上から陰茎を揉む

中尾　「ちょ、先生なにするんですか？」

▽美優、中尾の声を聞き、中尾の方を見る
　土呂が、中尾の股間をランニングパンツの上から揉んでいる

（美優）（わ、わ、わ　始まった。リアルよ、生よ）

土呂　「小さい男は　モテないぞ。ここも鍛えておかないとな」

▽土呂　中尾の陰茎を揉み続ける

土呂　「ほら、大きくなってきたじゃないか。良い感じだ」

#中尾のランパンがテントを張っている#

中尾　「先生、止めてください。これ以上されると・・・」

Copyright©2026 D's

土呂　「なんだ？　これ以上だと？　いっちゃうってか？　それ、それ」

中尾　「あぁ」

▽中尾、体勢が乱れ背中から崩れる

土呂　「なんだ、もうだめなのか」

（美優）（なんだ、もうだめなの）

▽土呂、中尾から離れる

生徒　「ダメだぁ」

生徒　「もうだめ、限界」

▽土呂、再び吉賀の前にくる

土呂　「お、吉賀は　がんばってるな。女の子の前だからって無理するなよ」

吉賀　「ぜんぜん　余裕です」

Copyright@2026 D³S

土呂　「そうか、そうか　元気か」
　そっか、じゃ、ここも元気が確認してみよっか」
▽土呂、吉賀のランニングパンツの膨らんだ部分を
　指でつまんで擦り出す
（美優）（なに、今から何が始まるの）
吉賀　「先生、止めてください」
（美優）（だめ、止めないで）
土呂　「余裕なら、これくらいでも耐えなきゃな」
吉賀　「お願いですから　先生、止めてください」
▽土呂、吉賀の陰茎部分を指で挟んでさすっている
土呂　「そんなこと言って　固くなってきてるぞ。
　本当は、気持ちいいんじゃないのか？」
▽吉賀、ランニングパンツは、テントを張っている

Copyright@2026 D's

（美優）

（すごい。ランニングパンツを突き上げてる。なんて、エロイの。
こんなに間近で見れるなんて。土呂、あんたサイコーの教師だよ。）

土呂　「こんなに固くしやがって、なんかエロイこと考えてそうだな
そうだ、せっかくだから保健の授業もさせてもらうか
吉賀は、そのままの状態でいろよ」

吉賀　「何をするんですか。止めてください」

土呂　「大事な授業だから黙っておけ」

▽土呂、更に早い速度でさする

▽吉賀、体が震え出す

土呂　「おい、夢前、背中をささえてやれ。ちょっと男子、吉賀の体をささえてやれ」

生徒Ａ　「はーい」

▽生徒達　吉賀の周りに集まり、何人かが吉賀の体をささえる

Copyright@2026 Dis

（美優）　（まるで、同性愛ビデオじゃん）

吉賀　「ちょっと、止めてください」

生徒　「吉賀、大事な授業って言ってるじゃん」

土呂　「そうだぞ　吉賀、これは、真面目な授業だぞ」

▽土呂、手を離す

吉賀のランニングパンツは、硬くなったペニスによって
パツンパツンにテントを張っている状態

一同　「おおーっ」

（美優）　（すごい、あんなに柔らかそうなものが、こんなに大きく
固くなるなんて。勃起する過程を見るのってサイコーだわ）

土呂　「よし、みんな見てみろ。男の場合、脳が興奮状態になると、
ここにある海綿体に、血液が流れ込み固くなる。これが、勃起だ
筋肉が入ってるわけじゃないからな」

▽土呂　吉賀のランニングパンツの上から陰茎を握り、亀頭をクッキリとさせる

Copyright©2026 D³S

（美優）　（やめて、私の眼球は、パンパンよ）

土呂　「吉賀は、もう剥けているんだな。カリも　随分でかいじゃないか」

生徒　「え、カリってなんですか？」。

土呂　「カリを知らないのか？」

▽土呂、吉賀のランニングパンツに包まれた陰茎の区切りの部分、指でなぞる

土呂　「この傘のような部分をカリって言うんだぞ」

（美優）　（本当　立派なカリだわ）

土呂　「どうだ、わかったか」

生徒　「おお、すげぇ」

▽土呂、カリの先を指先で、何度も撫でる

吉賀　「先生　そろそろ」

Copyright@2026 D's

土呂　「そろそろって、何だ。出したいのか」

吉賀　「そうじゃなくて」

土呂　「さっきより、さらに固くなってきてるじゃないか。」

▽土呂、ランニングパンツの上から吉賀の陰茎を扱きだす。

吉賀　「や、やめてください」

▽吉賀、体が崩れそうになる

土呂　「しっかり、抑えてろ」

▽男子達、吉賀の体をがっちりとささえる

吉賀　「先生、や、やめてください」

▽吉賀、体が震え、腰が振動している

吉賀　「あう」

Copyright@2026 D³S

土呂　「感じてきたようだな」

▽吉賀、ランニングパンツの先にシミが浮き出る

（美優）（いやぁん、シミが・・シミで透けてきてるから、割れ目までわかるわ。止めてって言いながらも、吉賀君、気持ちいいのね）

土呂　「ほほぉ、我慢汁が出てるじゃないか。みんな　ここを見てみろ」

▽土呂、カリの部分をギュッと掴み、少し濡れている箇所を指差す

土呂　「セックスの時、男が外に出すから大丈夫と言っても信じるなよ。こうして、少しずつだが精液が出ているんだ。非常に危険だからな。ゴムはは必ずつけろよ」

小島　「よし、今日はここまでとするか」

土呂　「先生　どうせなら、吉賀をいかせてやってよ。吉賀だって、消化不良じゃかわいそうだよ」

（美優）（いいぞ、小島！　不細工なくせに、いいこと言うな。私も消化不良よ）

Copyright@2026 D³S

生徒　「ここまでやったら、イクとこまでいくしかないだろ」

生徒　「男なら、見せてやれよ」

生徒　「吉賀だって、いまのままだと中途半端で可哀想だろ。抜いてやれよ先生」

土呂　「どうする、吉賀？みんなが言ってるぞ　出してスッキリするか？」

生徒　〝イケ～イケ

土呂　「どうだ。先生、みんなの頼みだから、しょうがないけど特別に　してやるぞ」

吉賀　「さすがに、それは」

土呂　「言葉では嫌がってるが、ここは正直だぞ」

▽土呂、吉賀の陰茎をランニングパンツの上から激しく扱く

吉賀　「あ、あぅ」

Copyright@2026 D³S

土呂　▽吉賀、足がガクガク、腰を突き上げる」

「ほら、出してくれって、言ってるじゃないか。
よし、みんな　吉賀に協力してやれ」

生徒　「おう」

▽吉賀付近にいた生徒が、吉賀の周りをがっちり抑える
最初から吉賀の腰を持ってる美優は特等席をキープ

吉賀　「本当にやめてください」

土呂　「少しの我慢だ」

▽土呂、吉賀の陰茎をランニングパンツの上からしっかり握り、上へと扱きだす

（美優）　（わ、リア充だわ）

土呂　「夢前　しっかり見てろよ。男ってどんなやつかを。
吉賀も、男よりも、女に見られてる方が、興奮するだろ」

（美優）　（言われなくても、こんな間近で見れるチャンス、

Copyright@2026 D's

まばたきさえも、するかよ）

▽土呂、吉賀のランニングパンツの裾から手を突っ込み

▽土呂、吉賀の睾丸を軽く揉む

土呂　「顔に似合わず、ジャングルだな」

▽土呂　さらに手を置くに入れ、吉賀の陰茎を掴む

土呂　「カッチカッチじゃないか」

▽土呂　吉賀の陰茎を扱きだす

　ランニングパンツの中の手が激しく動いている

吉賀　「あう、あ、あ、やばい」

生徒Ａ　「吉賀　はやく　いけよ‥

生徒Ｂ　「おせぇよ」

▽吉賀　腰を上下に振っている

Copyright@2026 D³S

土呂　「どうだ、吉賀、気持ちいいか？」

（美優）　▽土呂　手の動きをさらに早く
　　ランニングパンツが、激しく揺れる
　　（ランパンの裾から、たまにタマタマが見える。最高だわ。
　　土呂、もっと激しく扱いてあげて）

（美優）　▽吉賀、かなり苦しそうな顔をしている
　　（吉賀君の表情いいわぁ。苦しいの？　それとも気持ちいいの？）

（松子）　▽松子、少し離れた場所からみている
　　（吉賀君　頑張って、あぁぁなんて、愛くるしい顔してるの）

土呂　「どうだ、気持ちいいか」

（美優）　▽吉賀、ランニングパンツ先からシミが広がる
　　（吉賀君、我慢汁がスごいわ）

Copyright@2026 D³S

土呂　「どうだ、まだか？　早くだして、すっきりしろよ」

生徒Ｃ　「吉賀、我慢せずに、ぶっ放せよ」

（美優）　（いや、ぶっ放せって、ヤラしすぎるわ）

吉賀　「あ、あ、あ、あ、い、いく、いく、いく、いく、い、い」

▽吉賀　腰が大きくえ上に動く
　ランニングパンツに粘液質の精液が染み出てくる

生徒Ｃ　「いった」

精度Ｄ　「吉賀が、いったぞ」

▽土呂、ランニングパンツの裾から手を出す

土呂　「ゆっくりと　下ろしてやれ」

▽吉賀を支えていた生徒、ゆっくりと吉賀を地面に寝かせる

Copyright©2026 D's

▽吉賀、両腕を組み目の上に

▽土呂、吉賀の横に座る
　ランニングパンツの上から陰茎をを握とゆっくりを尿道に残っている
　精液を搾りだす

土呂

「大量だな吉賀も満足したことだし、今日の授業はおしまい
　解散」

▽土呂、手についた吉賀の精液を　吉賀のランニングシャツで吹くとさっていく

▽生徒たち、教師室に戻り出す

▽美優、吉賀の横にたって、吉賀を見ている

（美優）

（精液で透けて、亀頭は綺麗なピンク色だ。でも、竿は
胴体はちょっと黒いかな？　陰毛が剛毛なのも、判っちゃうよ。
つぅ～　か、こんなに近くで、生で見たの初めてだよ。
土呂、あんたのことは嫌いだけど、感謝するよ・・・）

▽松子、吉賀の近くにきて、横にしゃがみこむ

Copyright©2026 D³S

松子　「吉賀君　大丈夫」

吉賀　「うん。大丈夫」

智美　「ほんと、ひどいことする教師ね」

松子　「じゃ、いくね」

吉賀　「うん。ありがとう」

▽智美　松子、その場を離れようとする

智美　「ちょっと美優、いくわよ」

松子　「美優　着替えに行こう」

美優　「ごめん。何が起こったか、今、頭がパニックってるの」

（美優）（なんてね）

智美　「はやく、吉賀君をいつまでもみてるなんて、可哀相よ」

Copyright@2026 D³S

松子　「はやく、はやく」

美優　「ええ」

（美優）（わーん　もっとしっかり見ていたかったよ）

智美　▽美優　智美　松子、そこから離れる

「とりあえず、着替えに戻りましょ」

三人は、更衣室へと戻って行った。

○（同）運動場

吉賀が大の字で寝ている

Copyright@2026 D³S

小村
吉賀

▽小村、吉賀に近づきかがむ

「吉賀、大丈夫か？」

「うん。大丈夫」



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

Copyright@2026 D³S

小村　「みんなの前で、小便漏らさせるなんて酷いよな」

吉賀　「小便って」

小村　「小便をみんなの前でさせるなんて、なんて先生だ」

▽吉賀、上半身を起こす

吉賀　「小村君は、そう思ってるの」

小村　「そうじゃないのか」

吉賀　「えっと、いや　何でもない」

小村　「次の授業があるから　部活棟でシャワーを浴びてから行こうぜ」

▽小村　吉賀、部室棟にあるシャワールームへ向かう

○（体育の次の時間）実習室

美優、松子、智美は着替え　実習室で座って　しゃべりながら始業のチャイムが鳴るのを待っているいる

Copyright@2026 D's

智美　「しかし、土呂って奴はひどいわね」

松子　「そうよね。男の子にあんなことさせるなんて。信じられない。親に訴えられたらどうするつもりかしら」

智美　「その辺も　ちゃんと考えてるから、ずるいのよ」

松子　「なんで？」

智美　「吉賀君にした行為は、未成年に対するセクハラよ。でも、そうしたのは、同級生が、しろしろと言ってったわ。それに、保健の授業の一環ということも付け加えている」

松子　「それにしても、やり過ぎじゃないの？」

智美　「最初に、イカせるように言ったのは、土呂じゃなくて小島よ。それにつられて、大勢の男子も言っている。その承認は、私たち４０名がいるんですもの」

松子　「そっか。ちゃんと計算されているのね」

Copyright©2026 D's

智美　「それにしても、吉賀君　最高によかったわ」

松子　「もう、智美って、自分は知ってるからって、ねぇ美優」

（美優）（吉賀のイク瞬間の顔　よかったわ。小村君のイク時の顔ってどんなのかしら）

松子　「ね、美優、美優ったら」

美優　「何？」

松子　「何考えことしてるの？」

美優　「さっきの事が　まったく整理できてないのよ」

智美　「え、男子が射精させらたの　わかんないの」

美優　「射精って」

松子　「美優、射精って知らないの？それくらい、私だって知ってるよ」

美優　「松子　知ってるの」

Copyright@2026 D³S

松子　「そんなの、今の世の中　ネット見れば　いくらでも情報あるわよ」

美優　「ネットで見るって、お笑いだけじゃないの？」

智美　「ほんと美優って、男子にあまり興味ないのね」

美優　「別に、そんなことないけど」

▽着替え終わった男子生徒　実習室に入ってくる

（少し遅れて）

▽吉賀　小村、実習室に入ってくる

小村　「間に合った」

▽吉賀、自分の席に着く

吉賀　「シャワー浴びてたら、ギリギリになっちゃった」

松子　「ねぇ吉賀君、私たちは、ぜんぜん気にしてないからね」

Copyright@2026 D's

吉賀　「僕は大丈夫だよ。男子も気にしてないだろうけど、
女子には　変なところ見せて、悪いことしたよ。
特に、夢前さんは、間近で見たからショックじゃなかった」

智美　「大丈夫。美優は吉賀君に何が起こったかも知らないんだから」

吉賀　「本当」

▽吉賀、美優の顔を見る

美優　「え、何、何のこと」

智美　「私たちも気にしてないわよ」

吉賀　「気を使ってくれてありがとう」

松子　「本当に気にしないでね」

智美　「あの、こんな事言うけど、変態って思わないでね。
吉賀君のって　とっても大きいわよ」

松子　「なに、言い出すの　智美」

Copyright@2026 D's

智美

松子

「ほんとうよ。だから、全然、恥ずかしくないわ。少なくとも、私は、吉賀君の、ファンだから」

「それだったら、私だって、吉賀君のファンよ」

Copyright@2026 D's

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

第四話

Copyright 2026 D³S

夢雄　美侶

サブタイトル　「小島くんは変態なのだ」

あらすじ

美優が女子生徒の変態の代表なら、男子生徒の変態の代表は？
そう、小島君しかいません。
そんな小島君のちょっとした変態劇と、美優の親友　智美に起こった出来事とは

Copyright@2026 D³S

□第一幕 教室で松村が小島にＸＸＸされる

〇（昼間）一年二組の教室
休憩時間で生徒達は仲のよい友達のところに集まって話をしている

さて、クラスメートの小島くん
小島君は、顔がでかい！　しかも、厳つい顔！
でも・・・

▽小島、自席で窓から外を眺めている
小島の席には筆記用具と、萌えキャラの下敷きが置いてある

▽生徒Ａ、小島に近づき、小島の萌えキャラの下敷きを取る

▽小島、生徒Ａを睨む

「おい、触るなよ」

「なんだよ、この下敷きは？」

「返せよ。モモちゃんが汚れるだろ」

（ナレーション）

小島
生徒Ａ
小島

Copyright©2026 D³S

生徒Ａ　「何が、モモちゃんだよ」

小島　「いいから、返せよ」

▽小島、徒Ａから下敷きを奪い返す

生徒Ａ　「小島は、ロリコンだからなぁ」

小島　「ほっとけよ」

▷生徒Ａ、去っていく

▽小島、敷きをハンカチで拭く

こんな具合で、カワイイ女の子の二次元キャラが大好きです。
でも、山岳部に入っていて、以外と男らしい一面もあります。

〇（ある日）一年二組の教室　休憩時間

（ナレーション）

次の時間が体育の為、男子は着替えをしている
美優、智美、松子は、更衣室へ行ったためいない

Copyright@2026 D³S





（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

○教師の入口

体操服（ランパン、ランシャツに着替え終わった）小村と中野が先に行こうとしている

▽小村、まだノートを書いている吉賀を見る

Copyright

小村　「吉賀、先に行ってるな」

吉賀　「うん、僕も直ぐ着替えて行くよ」

▽吉賀　ノートを閉じ片付けをはじめる

▽松村　着替えの為、ズボンを脱いで、ランパン姿になったところ
上は、まだカッターシャツを着ている

▽小島　松村の所にくる

小島　「おい、松村、この前、吉賀が土呂にやられてる時、起ってただろ」

▽松村　無視

小島　「おまえ、本当は　ホモじゃないのか？」

▽松村　無視

小島　「なんか返事しろよ」

Copyright@2026 D³S

松村　「別に。そんな訳ないだろ」

▽塩川、小島のそばにやってくる

塩川　「小島、何してんだ。早く運動場に行こうぜ」

小島　「こいつが　ホモかどうか確認してたんだ」

▽塩川　ランパンを前に着き出し、陰茎部分を握り、松村に見せる

塩川　「ほら、どうだ？　興奮したか」

▽松村　無視してカッターシャツのボタンを外している

小島　「なんか言ったらどうだ」

松村　「別に」

▽小島、塩川を見る

小島　「カッチーン。俺ムカついてきた。こいつがホモか確認しようぜ」

Copyright@2026 D³S

塩川　「お、いいね。よっしゃ」

▽塩川、池田の方を見る

塩川　「おい、池田、手伝ってくれ」

池田　「なんや」

▽池田　松村のそばにくる

塩川　「こいつ、ホモかどうか確認しようぜ。おさえててくれ」

池田　「おもろそうや」

▽池田、松村の後ろに回り、松村の後ろから羽交い締めにする

Copyright©2026 D³S

松村　「やめてよ」

池田　「いやだね」

小島　「おとなしく、してろよ」

▽小島、松村の前にしゃがみ、松村のランニングパンツの上に手をあてる

小島　「おお、こいつ、起って無くてもでかいぜ」

▽小島、松村の股間を揉み出す

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



Copyright@Z

小島　「まじで、デカイな」

松村　「やめてったら」

小島　「お前がホモじゃないことが証明されたら止めてやるよ」

▽小島、松村の股間を揉んでいる

小島　「なかなか　たたないな」

池田　「おいおい、小島、揉むのが下手なんじゃないか」

松村　「もうやめてよ」

▽吉賀、松村の後ろの席で、体操服（ランシャツ、ランパン）に着替え終わって、運動場へ行こうとしている

▽吉賀、小島が松村の股間を揉んでいるところみる

吉賀　「ねぇ、小島くん、松村君が止めてって言ってるよ」

Copyright@2026 D³S

小島　▽小島、吉賀の顔を見る

「うるさいな。黙ってろ。いや、ちょっとまてよ」

▽小島、塩川の方を向く

小島　「塩川　ちょっと代われ」

塩川　「なんや」

小島　「肝心なことを忘れてた」

▽小島、立ち上がる

▽塩川、松村の前に立ち、松村の股間を揉み出す

塩川　「お、まじで　でけぇ」

▽小島、吉賀の後ろに回り、後ろから腕を廻し吉賀のランパンの上に手を置く

小島　「悪い悪い、松村　おかずを忘れてたわ」

Copyright@2026 D³S

吉賀　▽小島、吉賀のランパンの上から吉賀の陰茎を掴み、松村に向ける

小島　「ちょっと、ちょっと何するの？止めてよ」

吉賀　「松村が、おかずが無いから　起たないってよ」

小島　「ちょっと、ちょっと待ってよ、意味分からないよ」

　　「いいから、温和しくろ」

　　▽小島、吉賀のランパンの上から吉賀の陰茎を握り、真っ直ぐに扱きだす

小島　「ほら、お前の好きな、吉賀だぞ」

　　▽塩川、松村の股間を揉み出す

塩川　「お、固くなってた」

松村　「違うって」

　　▽小島、吉賀のランパンの上から陰茎を激しく扱くだす

Copyright©2026 D³S

小島　「こっちもだぜ。こいつらホモカップルだぜ」

吉賀　「あ、だ、だめだって」

小島　「感じてきてるじゃないか」

▽小島、吉賀のを扱く時に、自身の腰も動き、吉賀の背中に小島の股間部分が当たってしまう

▽吉賀　後ろにいる小島の固くなった股間が、背中に感じる

吉賀　「ちがうよ。それなら、小島君だって、固くなってるじゃないか」

小島　「なに」

吉賀　「さっきから僕の背中に固い物があたってるよ」

▽池田、小島の顔を見て笑う

池田　「小島、そうだったのか」

Copyright@2026 D³S

塩川　「おい、小島も興奮してるのか。おもろ」

池田　「サンピーじゃん」

▽小島、焦る

小島　「アホいうな。まじで、頭きた。こいつら　いかせてしまおうぜ」

▽小島、吉賀のランニングパンツの中に手をいれて陰茎をつかみ前後に扱きだす

小島　「ほら、どうだ」

吉賀　「あ、あ、あ、あ、だ、だめ」

▽塩川、松村のランパンの中に手を入れて、扱きだす

松村　「うっ、う、う、、あ、あ、あ、あ、あ」

▽松村、塩川の扱くリズムに合わせて腰を振りっている

小島　「ほら、早くいけよ。土呂に怒られるだろ」

Copyright@2026 D³S

吉賀　▽小島、吉賀の陰茎を扱き続ける

松村　「あ、だめ、出ちゃう」

。

吉賀　「やめて、やめて」

松村　「だめだって、本当に出ちゃうから」

「お願い、やめて」

〇教室のドア

小村と中野が戻ってくる

小村　「おーい　吉賀　なにやってんだ」

▽小村　吉賀の姿を見る

▽小村　中野、急いで吉賀の方にくる

小村　「おい！小島、何してるんだ」

Copyright@2026 D³S

中野　「塩川、池田」

小島　「ち、邪魔が入ったか」

▽小島　吉賀のランニングパンツから手を出す

▽塩川　松村のランニングパンツから手を出す

小島　「松村、または今度　続きをしような。行こうぜ」

▽小島　池田　塩川、一年二組の教室から出る

小村　「おいおい　吉賀　何やってるんだよ」

吉賀　「ごめん、急に小島君に捕まって」

▽吉賀、ランニングパンツの位置を直している松村を見る

吉賀　「松村君、大丈夫だった」

松村　「うん。大丈夫。吉賀君　ごめんね。僕を助けようとしてくれたのに」

Copyright©2026 D³S

吉賀　「大丈夫。僕は、平気だよ」

中野　「しかし、あいつら。何を考えているのか」

吉賀　「僕にも隙があったんだよ」

小村　「次は、ちゃんと抵抗しろよ。それでも無理だったら、俺を呼べよ」

吉賀　「ありがとう。小村君は優しいね」

小村　「松村も、そうだぞ。俺でよければ助けてやるから」

松村　「うん。わかった」

中野　「さぁ、運動場へ行こうぜ」

▽小村　吉賀　松村　中野、教室を出て行く運動場へ

Copyright©2026 D³S

（ナレーション）

□第二幕　恋多き女、智美

高谷智美（たかたに　ともみ）　県立工業高校　工業化学科　一年生
身長百六十センチ　結構美人

高校一年生にして、既に男性経験がありなのか？
それは　まだ　謎である。

〇（朝）一年二組の教室

▽美優　松子　智美、一番後ろの美優の席の周りで話をしている

松子　「今日は、一時間目から実習だよ。実習棟へ移動しなくちゃ」

智美　「うん。すぐ支度するから待って」

〇教室から実習棟までの廊下

▽美優　智美　松子、廊下を歩いている

智美　「もう、最悪だよ」

Copyright©2026 D³S

美優　「何があったの」

松子　「智美、朝から機嫌が悪そうだったもんね」

智美　「え、わかる？」

松子　「うんうん。分かるよ」

▽美優　智美の顔を見る

（美優）（確かに、智美にしては、化粧が雑だな）

智美　「聞いてくれる。昨日の部活でね」

松子　「うんうん、聞く聞く」

美優　「でも、憧れの藤原先輩がいるからって楽しいって言ってたじゃん」

智美　「いや。その　あいつが　サイテーなんだよ」

松子　「えー気になる。何があったの？」

Copyright©2026 D³S

智美　「昨日、野球部で新人歓迎会と称したものがあったのよ」

←＃　回想　＃←　昨日の放課後

〇（昨日の放課後）運動場

　野球部の練習時は　冬用の体操服か、長袖、長ズボンのジャージである

　春からは、暑いため、基本Tシャツとジャージである

▽部活動をしている生徒たち

▽野球部が練習をしている　それを見ている　智美ら女子マネージャ

キャプテン　「よし、みんな集合」

▽野球部員　キャプテンのところに集まる

キャプテン　「一年生　一列目、二年生はその後ろに並べ」

▽一年生、二年生の野球部員は　横二列にならぶ

キャプテン　「これから恒例の一年生の歓迎会と、三年生の送別するゲームをする」

Copyright©2020 D³S

一年生Ａ

キャプテン

一年生Ｂ

一年生Ｃ

藤原

一年生　Ｃ

藤原

「ゲームってなんだ？」

▽一年生　同時は、顔を見合わせている
　二年生は　何が起こるか知ってるので単に並んでいる

「よし、これからゲームの説明をするぞ
今から二年生が一年生をしごる。そして、早く射精させたらそのチームは勝ちだ
射精できなかったり、遅かったチームにはこれから１年間部活終了後の
片付けをしてもらう。わかったな」

「えええ、そんな」

▽藤原の前にいる一年生が、後ろを向く

「射精ってなんですか？」

「なに、お前、せんずりしたこと無いの？」

「なんですか」

「やべぇ。へんなの選んだよ」

Copyright@2020 D's

キャプテン　「よし、初め」

▽二年生　前列の一年生のジャージの上から股間を揉み出した

一年生Ｃ　▽一年生　足がくねくね

藤原　▽藤原　一年生のをジャージの上から揉んでいる

「あ、や、やめてください」

「はやく、いけよ」

▽二年生　一年生の股間を揉んでいる

→＃　現在に戻る　＃→

〇廊下

▽美優、智美、松子　実習棟へつづく廊下を歩きながらしゃべっている

（美優）　（工業高校に来て　よかった）

Copyright@2026 D³S

松子　「なにそれ」

智美　「三年生が部活最後にする儀式らしいわよ。最低ね」

松子　「マネージャーは何してるの」

智美　「後ろから見ているし、ジャージの上からだから大丈夫なんだけどね」

（美優）（ええ、せっかくなら、正面でみなくちゃ）

松子　「それで……藤原先輩が負けてしまったの？」

智美　「まだ　負けた方がよかったわ」

←＃　回想　＃←　昨日の野球部の部活動で

○運動場

一年生Ａ「も、もうだめ」

一年生Ｂ「い、いきます」

Copyright©2026 D³S

藤原

一年生

藤原

▽一年生　続々と、射精していく

▽藤原　他の果てていく一年生を見て慌てだす

「やべぇ。もう、殆ど残ってないよ。早く、いけよ」

▽藤原　一年生のジャージに手を突っ込み、直に陰茎を扱きだす

「い、痛いです」

「しょうがない」

▽藤原　一年生のジャージを中のパンツごと下にさげる。

一年生の陰茎が、飛び出す

智美らは後ろから見ているので、一年生の尻を見ている

Copyright@2026 D³S

一年生

藤原

三年生



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

「何するんですか」

「いいから、おとなしくしてろ」

▽藤原　一年生の陰茎を咥え、頭を前後に動かしだした

▽三年生　それを見て、笑い出す

「おい、藤原。すげぇよ」

▽藤原　手を一年生のシャツの中に入れ、乳首を刺激する

Copyr ght@Z s

一年生
一年生
藤原
一年生
三年生Ａ
三年生Ｂ

▽一年生、足が震え出す
「あう　藤原先輩、なんか出そうです」
「うっ」
▽一年生、腰が前後に大きく動く
▽藤原、すぐに顔を離すが一年生の精液が顔にかかってしまう
「汚ねぇな」
「すいません」
「わはは、藤原、最悪だなぁ」
「やったな。一年生」
▽藤原、洗い場に走っていく

Copyright@2026 D³S

→＃　現在に戻る　＃→

▽美優　智美　松子、しゃべっている

「え、アレを口に入れたの。汚い。信じられない」

（フ〇ラだね、フ〇ラ。大人なら誰でも　やってるよ）

「しかも、顔にかかったんでしょ。気持ち悪い」

（それは、顔射っていうの）

「ねぇ美優。気持ち悪いわよね」

「え？　うん。ちょっと私、まだ意味分かってないんだけど」

「バイ菌だらけで病気になっちゃうわ」

「取りあえず、もう、あいつは嫌だ」

松子

（美優）

松子

（美優）

松子

美優

松子

智美

Copyright@2026 D³S

□第三幕　小島の罠と松子の宝物

〇（午前中の休憩時間）一年二組の教室　美優の席周辺

▽美優　松子　智美、しゃべっている

松子　「二人は　いいわよね」

智美　「何が？」

松子　「だって、吉賀君と話す、きっかけがあるんだもん」

美優　「なになに？　松子、吉賀君のことが気になるの？」

▽松子　照れくさそうに

松子　「そんなんじゃないけど」

智美　「本当かな。なんだか　怪しいぞ」

美優　「で、なんで、私と智美がいいの」

Copyright©2026 D³S

松子　「だって、智美は、席が後ろだから、しょっちゅう話しできてるし、美優なんか体育の時間は、ペアになるでしょ」

美優　「何言ってるのよ。あれはあれで、大変なのよ。あの短すぎる短パンのせいで、はみ出しそうなのを見ないか、いつもドキドキなんだから」

（美優）　（ほんとは、それが楽しみなんだけどね）

松子　「私だって、吉賀君のはみ出たの見てみたいわ」

智美　「見てみたいって・・・松子」

松子　「あ、今のは冗談よ。私だけ、何もないのよね」

智美　「でもさ今からの実習の時間は、一緒じゃない」

松子　「まぁ。そうなんだけどね。それもみんなと一緒なのがね」

智美　「松子は、吉賀君と二人っきりになる時間が欲しいのね」

松子　「まぁそうかも」

Copyright@2026 D's

美優　「じゃ、今度の体育、代わってあげよっか」

松子　「ありがとう。でも、先生がうるさいから　無理だわ」

〇始業チャイムがなる

智美　「さぁ授業、授業　次は保健か」

美優　「保健の授業かぁ。眠たくなるよね」

松子　「そうね。授業だと　とても眠いわ」

美優　「ほんと、ほんと」

智美　「松子はわかるけど、美優が眠たいってなんなの」

美優　「眠いものは眠いのよ」

（美優）（体育の授業たど、男子のもっこりで、目がギンギンなんだけどな）

Copyright@2026 D's

中野
土呂
智美
美優
松子
土呂
井口
土呂

〇一年二組の教室　保健の時間

▽土呂　教室に入ってくる

「起立・礼」

「さて、今日の授業は非常に大切な話をするからな。ちゃんと聞いておけよ。」

▽美優　松子　智美、小声で話をする

「大切な話って何かしら」

「何かしら」

「生理とかかしら。でもそれって　中学校でやってるわよね」

「高校生になって、そろそろ　いいかな?なんて思ってる頃だろうと思ってる奴が多いと思うからな」

「そろそろ良いかな?って何がですか」

「まぁ　井口　慌てるな」

Copyright@2026 D³S

土呂

（美優）

土呂

土呂

土呂

（美優）

土呂

「まずは、みんなに簡単な質問だ。正直に答えて欲しい。
ちょっと　顔を伏せて目を瞑れ。
絶対　目を開けて誰が手を上げたか見るなよ」

▽生徒達、机の上に腕を置き、顔を埋める

（やった　少し寝れる。ラッキー）

「今から、質問することに　そうと思ったら手をあげればいいからな」

「では、まず」

「性行為をしたことある奴」

＃誰も手を上げない＃

「よし、いないな」

（え？　ほんと？智美なんか、真っ黒だよ絶対）

「じゃ、オナニーを毎日している奴は」

Copyright@2026 DS

土呂　#何人か手を上げる#

（美優）「よしよし、元気な証拠だ。恥ずかしいことじゃないからな」

土呂　（誰だよ。猿みたいな奴。しかし、真面目に手を上げてる奴いるんだなぁ）

土呂　「じゃ、２日に１回？」

（美優）「３日に１回」

土呂　（しょうがないな、いつもお世話になっている土呂だから、挙げてやるか）

▽美優、手を上げる

（美優）「お！　夢前、３日１回か、すごいぞ！」

#教室　笑い声#

土呂　（アホか！　名前を言うなって）

▽松子、顔を伏せながら、後ろの美優の方を向く

Copyright@2026 D³S

松子　「ちょっと美優、女の子は手を上げなくていいのよ」

土呂　「４日に１回」

土呂　「５日に１回」

土呂　「一週間」

土呂　「よし、目を開けていいぞ」

▽生徒達、顔を上げる

土呂　「おい、あげていない奴がいるぞ。小村と、松村、お前ら、どうしてあげないんだ？」

▽土呂、小村の方を見る

美優　（え、小村君・・・どうして）

小村　「えっと、オナニーって、何ですか？」

Copyright@2026 D'S

土呂　「小村、おまえ、オナニーって知らないのか？」

小村　「はい。」

土呂　「射精しないのか」

小村　「しゃ、しゃせいって　絵を描くことですか」

生徒Ａ　「おいおい、小村　マジかよ」

生徒Ｂ　「小村、いくつなんだよ」

小村　「まじで、わかんないんだけど」

（美優）　（えええ、小村君　純情　カワイイ）

土呂　「最初の授業で、吉賀がみんなの前で、出してくれただろう。あれが射精だ」

（小村）　（聞いたことあったけど、あれが射精って言うのか）

土呂　「しかし、小村、それは　かなりの問題だぞ。
おい、休憩時間に　誰か説明してやってくれ」

Copyright@2026 D³S

土呂　▽土呂、松村の方を見る

松村　「松村は、どうしてなんだ。まさか、お前もオナニーを知らないのか」

土呂　「いえ、知ってますけど」

小島　「じゃ、何故　しないんだ」

土呂　「松村、正直に言えよ。吉賀のオナニー想像してやってますって」

　　＃一部の生徒　笑い声＃

松村　「別に、する必要性を感じていませんので」

土呂　「いや、健全な男子高校生なら出さないといけないだろ」

松村　「そうだと思いますけど」

土呂　「じゃ、オナニーをして、いっぱい出すのがいいんじゃないか」

松村　「だから、僕は、必要性を感じていませんと言ってます」

Copyright@2026 D³S

土呂　「まぁ、人それぞれってことだから、これ以上は言わないが、まだ経験者がいないといのは幸いだった。今日は大切な話をするぞ。」

▽土呂、紙袋から、小さな四角いナイロンパッケージに包装されたもの（コンドーム）を取り出し生徒に見せる

土呂　「これが、なんだかわかるか？」

（美優）（コンドーさんじゃん）

土呂　「ちょっと、前列の者　後ろに回していってくれ」

▽土呂、前列の生徒に箱を渡し、箱から一つずつ取り順番にまわしていく

谷田　「これ　なんだか分かるか。おい、谷田」

土呂　「コンドームでしょ」

谷田　「そうだ。コンドーム。使い方は知ってるか？」

土呂　「さぁ？　俺知らないっすよ。だいたい、そんなことしないしさ」

Copyright@2026 D's

（美優）　（知らないんじゃなくて、お前は、付けずにやるからだよ）

土呂　「そうか、先生の感は外れたかな。教科書　１５ページを開いて」

▽生徒達、教科書を開く

イラストで、陰茎にコンドームの装着方法が解説してある

（美優）　（わ！保体の教科書にこんなイヤラしい絵が載ってるの。知らなかった。帰ったら　じっくりみなくちゃ）

土呂　「ここに装着方法が載っている。男子は、今日配ったやつで、試しておくといい。
おい、女子達は関係ないと思うなよ
最近は、付けたがらない男子が多いので、女子から積極的に、付けてあげることも、必要になってきてるからな」

▽智美、土呂の顔を見る

智美　「そんなこと言っても、付けたこともないのに困ります」

（美優）　（いやいや、あなた様なら、ベテランの領域に達してるでしょ）

Copyright@2026 D's

智美「ね、松子。わかんないわよね」

松子、「そうよね。付けたことも無いもの、失敗してて妊娠したら、先生の教え方が、悪いってことになるわね」

土呂「おいおい、そこまで大袈裟に、言うなよ。じゃ、俺にどうしろと言うんだ」

智美「それじゃ、教科書の写真じゃなく実際に着けるところ見せてください」

土呂「高谷、今、なんて言った？　着けるとこを見せろだと？」

智美「そうです。男子が進んで着けてくれない場合、女子が着けてあげないといけないんですよね」

土呂「うーん　高谷の言いたいことはわかった。けど　みんなの前で、男の大事なところをさらすわけにはいかんからな。それに女子だって、見たくないだろ」

智美「え、私は別に、かまいませんけど。ねぇ松子、美優」

Copyright@2026 D³S

松子　「まぁ授業だからしかたないかな」

美優　「私はちょっと無理かも」

（美優）　（なんてね。目の至福か、睡眠か　どっちになっても勝ち組ね）

土呂　「そっか。しかし、先生がみんなの前で大切なものを出すと、わいせつ物陳列罪になってしまうからな」

智美　「いえ、別に先生のなんか見たいとは思いませんけど」

土呂　「おいおい、それは、先生に対して失礼だぞ。しょうがない。どうだ。男子ちょっとだけ　協力してくれないか？」

生徒Ａ　「先生、どういうこと」

土呂　「実験に協力してってことだ」

生徒Ｂ　「つまり、ここでパンツを脱いで、勃起させろと」

土呂　「そういうことだ」

Copyright@2026 D³S

生徒Ｃ　「はぁ、アホか。教師がそんなこと生徒にさせるのか」

生徒Ｄ　「えええええ、着けさせろだって」

生徒Ｅ　「そんなの無理無理」

▽土呂　教卓を激しく叩く

　　生徒　静になる

土呂　「おい、これは真面目な授業だぞ。恥ずかしいとか関係ない」

生徒Ｅ　「着けるのは女子ですか」

土呂　「そんなの無理だろ。俺が代表で着けてやる」

生徒Ｆ　「じゃ、やっぱり嫌だ。せめて女子がつけてくれるなら、考えてもいいかな」

土呂　「さずがに、それは授業といってもな無理だ」

智美　「私、いいですよ」

土呂　「高谷、本気か」

Copyright@2026 D³S

智美　「はい」

（美優）　（あなたは、練習不要だって）

谷田　「だいたい、高谷は付け方くらい知ってるだろぉ」

▽智美、声のする方を睨む

智美　「はぁ。何ですって」

谷田　「冗談だよ、冗談」

土呂　「おい、おい。これじゃ、授業にならないじゃないか」

小島　「先生、俺　小村君がいいと思います。
ついでに、オナニーと射精も教えてあげてください」

生徒Ｇ　「小島、ナイスアイデア」

生徒Ｈ　「そうだ、そうだ。オナニーの気持ちよさを教えてあげてくださいよ」

Copyright@2026 D³S

土呂　「小村、指名がでたぞ。どうする」

小村　「みんなに、俺の大切な部分を見せるなんて嫌です」

土呂　「この前、吉賀はみんなの前で吉賀は射精までしてくれたんだぞ。お前も少しはクラスに協力してみないか？」

生徒Ｉ　「小村　オナニー気持ちいいぞ」

小村　「絶対嫌です」

▽小村、かたくなに拒否

土呂　「これじゃ、授業にならないじゃないか。他に立候補はいないか言い出しっぺの小島はどうだ」

小島　「おれ、毎日してるから、いいです」

（美優）　（小島は無理　拷問にしかならないじゃん）

土呂　「うーん　せっかく大切な授業なんだけどな」

Copyright@2026 D³S

吉賀　▽吉賀、そろりと手を上げる

土呂　「あのぉ先生、僕ならいいですよよ」

吉賀　「なに？吉賀　いいのか？」

土呂　「はい。一度、みんなの前で見られているし、射精もしたとこ見られているのでそれに、僕の国では、見られて恥ずかしという習慣がなかったですから」

生徒Ｊ　「そうか、さすが、帰国子女は違うな」

（土呂）　「ヒューヒュー　さすが　吉賀」

土呂　（よっしゃー）

吉賀　「じゃ、吉賀　前に来てくれるか」

▽吉賀、立ち上がる

土呂　「あ、ズボンは　そこで脱いできてくれ」

吉賀　「はい」

Copyright@2026 D³S

土呂

▽吉賀、ズボンを脱ぎ、上半身は、カッターシャツ、
　下半身は体操服のランニングパンツ姿になる

「カッターシャツもじゃまだな」

▽吉賀、カッターシャツのボタンを外し脱ぐ
　カッターシャツの下は何も着ていないので、上半身は裸

▽吉賀、教壇の方へ向かう

▽土呂、教壇をポンと叩く

土呂

「みんなが見えるように、この上に上がってくれ」

吉賀

「はい」

▽吉賀、教卓の上にあがる。
　教卓の上は、寝転べるほどの長さはなく、
　上半身は、肘で机を押さえ反起こし状態、
　脚は膝から下が垂れ下がっている

Copyright@2016 D's

土呂

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



「それじゃ、着ける前に大きくしなくちゃな」

▽土呂、ランパンの上から吉賀の股間を揉む

Copyright©2020 B'S

智美

土呂

智美

土呂

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



「ちょっと　待って」

「高谷、どうした」

「さっき、男子から女子がするならと条件がありました」

「だから」

Copyright

智美　「それも、女子の誰かがするんですよね」

土呂　「さすがに、それはまずいだろ」

吉賀　「僕は、構いませんけど」

土呂　「吉賀がよくても、俺は」

智美　「最初、女子もつけられなくては困るって言ってましたよね」

土呂　「そうだけど。学校でそんなこと　させると思うか」

智美　「神聖な保健の授業です」

土呂　「もう、わかった。じゃ、高谷　やってみろ」

智美　「え、私ですか。私は、付け方知ってるんで、私はいいです」

土呂　「高谷は　先生をおちょくってるのか」

▽智美、松子の方を見る

Copyright@2026 D'S

智美　「ねぇ松子　お願いしてもいい」

松子　「え？　私？」

智美　「そう松子おねがい」

松子　「無理、無理」

智美　「大丈夫。松子ならできるわ」

松子　「男の人の触ったことないのよ」

智美　「したことないから、するんじゃない。それに、あんな、おっさんに着けられる吉賀くんの気持ちも考えてあげて」

▽松子、少し考える

松子　「わかった　私　やってみる」

土呂　「おっさん呼ばわりか。どうした。するのか、しないのか」

Copyright@2026 D³S

松子　「します。私、します」

土呂　「よし、中川やってみろ」

（土呂）　（チェッ）

松子　▽松子、教壇の方に行き、吉賀の前に立つ

吉賀　「吉賀くん、ごめんね」

松子　「うぅん。中川さんで、よかった」

吉賀　「がんばってみるね」

松子　「うん」

吉賀　「どうしたらいいのかしら」

松子　「まずは、大きくする必要があるんだけど、パンツの上から、揉んでくれる」

吉賀　▽松子、吉賀の腰の前に移動

Copyright@2026 D³S

吉賀　「こんな感じで」

▽吉賀、自分の陰茎を　ランニングパンツの上から揉み出す

吉賀　「わかった、やってみて」

松子　「うん」

▽松子、ランニングパンツの上に手をやり陰茎をつまんでみる

松子　「キャッツ」

▽松子、慌てて手を離す

土呂　「こら、中川　ダメじゃ無いか」

松子　「すいません」

吉賀　「大丈夫、怖くないって」

松子　「うん」

Copyright@2026 D³S

▽松子、吉賀のランニングパンツの上の膨らんだところをに手を当てる



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

（男の人の陰険　初めてさわった。なんて、柔らかくて　温かいの）

「さっき、僕がやったように、優しく揉んでみて」

吉賀　（松子）

Copyright

松子　「こう」

▽松子、吉賀のランニングパンツの上から、膨らんだ指先で揉みだす

（松子）　（なに、この感触　とても気持ちいいわ）

吉賀　「そうそう。良い感じ」

吉賀　「もう少し強く　揉んでみて」

▽松子　言われるとおり強めに揉み出す

吉賀　「あっ」

▽吉賀、腰を少し浮かせて声が出る

▽松子、驚いて手を退ける

吉賀　「大丈夫、気持ちよかったから」

▽松子、再び、ランパンの上から吉賀の陰茎を揉み出す

Copyright@2026 D³S

（松子）　（さっきより、なんか大きく、固くなってきてるわ。なんて神秘できなの）

吉賀　「じゃ、今度は、棒の部分にそって、さすってみて」

▽松子、言われるがまま　吉賀の陰茎をさする

吉賀　▽吉賀、上を向いたりしている

「あ、あ、あぅ」

▽吉賀、時々足を開いたり、腰を浮かしたりしている

▽吉賀、陰茎がさらに固くなり、ランニングパンツがテントを張る

（松子）　（すごい、なんて大きくなるのかしら大きく）

吉賀　「とってもいい感じ」

土呂　「よしよし、大きくなったな。そろそろ着けてみよっか」

吉賀　「じゃ、中川さん、そろそろ着けてくれる」

Copyright@2026 D's

松子　「どうすればいい」

吉賀　「このままじゃ、着けれないから、パンツから出してもらわないとね」

松子　「出すって。怖いわ」

吉賀　「大丈夫。怖くないよ。じゃ、僕が出してあげる」

▽吉賀、片手で自分のランニングパンツの裾に手を入れようとする

松子　「大丈夫、やってみる」

▽吉賀、手を離し後ろに回す

吉賀　「じゃ、お願い」

松子　「うん」

▽松子、吉賀のランニングパンツの裾から中に手を入れるが、
　指先が陰毛に触れて、慌てて取り出す

Copyright@2026 D³S

吉賀

松子

（松子）

（松子）

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



「どうかした」

「ちょっと、毛が、何でもないわ」

（大丈夫、私ならできるわ）

▽松子、吉賀のランニングパンツに手をつっこみ、吉賀の陰茎を握る

（これが、アレなのね。熱いわ）

Copyright@2026 D'S

生徒Ａ
生徒Ｂ
生徒Ｃ
（美優）
松子
吉賀
松子
土呂

▽松子、吉賀の陰茎をランニングパンツの裾から引っ張りだす
▽松子、初めて見る勃起した男の陰茎に驚く
「おお、すげぇ」
「吉賀、デカイなぁ」
「めっちゃ剥けてるやん」
（生で見たの初めて。しかもなんて、デカイの。洋物動画でも　見たことないわ。私が知る限り、最大級よ）
「キャッ」
「ごめん」
「いえ、こちらこそごめんさない」
「吉賀、立派な、亀を持ってるな。おまえらは　ちゃんと剥けてるか」

Copyright@2026 D's

土呂　▽土呂、吉賀の陰茎握り、左右に振る

「もう少し、堅さが欲しいな」

▽土呂、吉賀の陰茎を握り、扱きだす

吉賀　「あ、あぅ」

土呂　「こりゃ失敬、あやうく、射精させちまうとこだった」

（美優）（ええぇ、生で射精するの見たかったよ）

土呂　「じゃ、中川、続きだ」

吉賀　「じゃ、着けてみようか。まずは、ナイロンを破らないとね」

松子　「うん」

（松子）（はじめて　お父さん以外の　あそこを見て、しかも触るなんて）

▽松子、コンドームの封を開けて、中身を取り出す

Copyright©2026 D³S

吉賀　「先に被せて、巻きを解きながら下げて　全体を被せるんだよ」

▽松子、吉賀の亀頭をつまむ

（松子）　（なんて、先がおおきいの）

▽松子、吉賀の陰茎にコンドームを被せていく

松子　「結構、力いるのね。」

土呂　「吉賀はデカイから、特大サイズを用意しとかないと　あかんかったな」

▽松子、吉賀の陰茎にコンドームを被し終わる

松子　「できた。できました」

土呂　「よし、中川、合格だ」

（美優）　（一体なにに合格なんだよ）

土呂　「見たか。今のように、簡単に着けれるから、
めんどくさがって、着けないって事のないように。

Copyright©2026 D³S

吉賀の場合は、でかいから　ちょっと、苦労したようだが」

生徒「先生、外すところは」

土呂「外すのは引っ張るだけだろ」

生徒「でも、中にザーメンが入ってるんだろ。ひっぱたら飛び散るじゃん」

土呂「そんなもの、自分で考えろ」

生徒「いいのかな、教師がそんなことで」

土呂「じゃ、どうすりゃいいんだ」

生徒「吉賀をいかせて、それを取ってよ」

土呂「お前は、バカか。そんなことできるか」

（土呂）（お、いいね。このまま、吉賀をいかせてやりますか）

生徒「なんでだよ。教師だろ。教えてよ」

Copyright@2026 D³S

生徒　「そうだそうだ。それに吉賀だって、消化不良だよ」

土呂　「吉賀、そうなのか」

吉賀　「そんなことは　ないですけど」

土呂　「そっか、やってくれるか」

▽土呂、吉賀のコンドームを着いた陰茎を握り扱きだす



Copyright©2026 D³S

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

▽吉賀、土呂の手を停める

吉賀「せ、先生。それも、中川さんにやってもらいたいです」

土呂「なに、俺じゃ不満か」

吉賀「そんな訳では　ないですけど。せっかくなので」

▽土呂、しぶしぶ吉賀の陰茎から手を離す

土呂「中川　やってみろ。吉賀からたっぷり搾り取ってやれ」

松子「私がですか。はい。やります」

吉賀「ごめんね。気持ち悪いことさせて」

松子「ううん。気持ち悪くなんかないわ」

土呂「吉賀は気持ちよくなっていいよな」

Copyright©2026 D³S

吉賀　「さっき先生がやってたように」

松子　「うん」

▽松子、吉賀の陰茎を握り、扱きだす

吉賀　「あ、あ、あ、いい、いいよ　中川さん」

▽吉賀、顔をゆがめながら、腰が上下に動く

▽松子、吉賀の顔を見続ける

（松子）　（これが、気持ちいいって顔なのね。なんて、素敵なのかしら）

▽松子、扱き続けている

▽吉賀、何度も腰を動かしている

▽チャイムが鳴る

土呂　「お、時間になった。急がないとな。しょうがない、俺も手を貸してやるか」

Copyright@2026 D³S

（土呂）

生徒

土呂

吉賀

吉賀

▽土呂、上半身裸の、吉賀の乳首を舌で舐め回す

（役得、役得）

「先生、反則だよ」

「こうでもしなきゃ、早くいかないだろ」

▽土呂、乳首を舌で舐め、もう片方の手で乳首を刺激する

「あ、あ、あ、あ、あ、やば、やば、いく、いく、いく、いくーーー」

▽吉賀、腰の振りが大きくなり、両足に力がはいる

「うっつ」

▽吉賀、腰と足の動きが止まり、腹筋が大きく動く

▽松子、手の中の陰茎の中を　何かが流れている感触が伝わる

＃吉賀のコンドームの先に白い液体が溜まる＃

Copyright@2026 D³S

生徒Ａ　「吉賀が　いったぞ」

生徒Ｂ　「吉賀、すげぇ」

生徒Ｃ　「俺にはできないな」

○教壇

吉賀が上半身を起こしている

▽吉賀、松子を見る

吉賀　「中川さん、ありがとう」

松子　「え」

吉賀　「女の人にしてもらったのは、中川さんが初めてなんだ」

松子　「そ、そうなの」

吉賀　「ありがとう」

松子　「そんな、感謝されるなんて」

Copyright@2026 D³S

土呂　▽土呂、松子、吉賀を見る

吉賀　「授業時間は終わってるんだぞ。早く外してくれ」

松子　「下向きにそっと引っ張って、抜けたら上をくくるんだよ」

　　「うん。わかった」

　　▽松子、吉賀のコンドームを下向きにひっぱり抜き取る

吉賀　「漏れるといけないから、口をしばって」

松子　「うん」

　　▽松子、コンドームの口の部分を結んだ

土呂　「ようし、今日の授業は終わり。次は水泳だからな。この前のプリント読んで、準備しておけよ」

　　▽土呂、教室から出ていく

Copyright@2026 D³S

吉賀　▽吉賀、教壇から降り、り陰茎をランニングパンツの中にしまう

松子　「中川さん、ごめんね。嫌だったでしょ」

吉賀　「ううん。ぜんぜん大丈夫。それよりも吉賀君こそ大丈夫」

松子　「僕は平気だよ」

吉賀　「えっと、これは、保体の授業だから、何も気にしないでね」

「うん。ありがとう」

▽生徒Ａ　生徒Ｂ、吉賀のそばに来る

生徒Ａ　「いいな。吉賀。女子にしてもらえるんだったら、俺が立候補すればよかった」

生徒Ｂ　「いやいや、俺だよ」

吉賀　「ね、大丈夫でしょ」

▽吉賀、松子が持っている使用済みコンドームを指さし

Copyright@2026 D³S

吉賀　「それ、僕が、捨てておくよ」

松子　「いいの。私が捨てておくわ」

吉賀　「捨てるって、どこに」

松子　「いいの、いいの」

▽松子、自席にもどっていく

（松子）（私が初めて射精させた記念。大事にとっておくの）

○美優、智美の席

智美　「松子、大丈夫だった」

美優　「松子、やるじゃない」

（美優）（私が、立候補すればよかった）

松子　「うん。大丈夫。吉賀君だもの」

Copyright©2026 D³S

生徒Ｃ
生徒Ｄ
生徒Ｅ
美優
智美
美優

▽生徒Ｃ　生徒Ｄ　生徒Ｅ、夢前の所を通り際

「夢前～、きゅうりか　ナスか？」

「お前、３日に１回って凄いよな。よっぽど、男に飢えているんだな」

「使った後は、食べるのか？」

▽美優、睨みながら

「はぁ～バカじゃないの。そんなこと、するわけないでしょ。
あんたらだって、テッシュ乾かして再利用しているんでしょ」

▽智美、美優を止める

「ちょっと、美優～、無視　無視」

「ごめん」

〇（その日の夕方）美優の家　美優の姉の部屋

Copyright@2026 D's

美優

美優

美優

▽美優　姉の部屋で、雑誌を広げてみている

「失礼な奴らね 何が、キュウリ？　ナス？
私がそんな安物使うわけないでしょ」

▽美優、コンセントにプラグを差す

▽美優、バイブをスカートの中に突っ込みパンティの上に充てる

「あぁぁ・・・小村君・・・・小村君の勃起を早く見せて」

「やっぱり、電動が最高よ」

Copyright@2026 D³S

第五話

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

夢雄　美侶

Copyright 2026 D³S

サブタイトル　「松子の初恋を応援するのだ」

あらすじ

吉賀のことが気になってしかたない松子
しかし、なかなか接近できずにいると　偶然にも趣味が一致
ついに、松子は吉賀の家に招待されます。

Copyright@2026 D³S

□第一幕　松子と吉賀の共通点

〇（放課後）一年二組の教室
　数人の男子と、美優、松子、智美が、帰り支度をしている

美優「やっと　授業終わり～　部活だ　部活だ」

智美「椅子に座ってると　疲れるのよね」

美優「ババ臭いこと言わないでよ。ね、松子」

松子「学校の椅子が悪いのよね。座り心地がよければ、疲れないわよ」

美優「相変わらず、目の付け所が違うわね」

智美「さて、美優、部活に行くわよ」

美優「じゃ、行きますか」

▽美優、松子の顔を見る

美優「じゃ、松子　また明日ね」

Copyright@2026 D³S

智美　「松子も、何か部活すればいいのに」

美優　「バスケ部のマネージャーなんてどう。放課後も吉賀君といっしょになれるよ」

松子　「そうなんだけど。やっぱり、大学は行きたいのよね」

智美　「そっか。じゃ、また、明日」

松子　「うん。私も　バイト頑張ってくるわ」

智美　「バイバイ。また、ツナーグ　するね」

▽美優　智美、教室から出る

▽松子、カバンに荷物を詰め終わる

松子　「じゃ、私はバイト頑張ってきますわ」

○（同）部活棟へ続く道

美優　智美、話しながら歩いている

Copyright@2026 D's

智美　「松子すごいわね。大学に行くお金を貯めるのに　バイトしてるなんて」

美優　「そうよね。私は、まだ高校を卒業した時のことまで考えていないわ」

智美　「あら？そうなの。私は、私立の大学に行くつもりよ。
もちろん、親にお金を出してもらうけどね。美優も一緒に行かない？」

美優　「私立の大学か。確かに国公立に行くのは、私の頭では難しいわよね。
かといって、そんなお金があるのかしら」

智美　「大丈夫よ。親ならきっと出してくれるって。それに奨学金だってあるのよ」

美穂　「そうね。ちょっと考えてみるわ
ところで、最近　野球部のマネージャーってどう」

智美　「うん、まぁまぁ、いつもと変わらずってとこね。
美優のように、楽器が演奏できるのって　うらやましいわ」

美優　「絶対音感は、私の唯一の取り柄かもね。
でも、私は、智美みたいに美人だったら、それだけで、いいわ」

智美　「まったぁまたぁ。美人は、それなりに苦労するのよ。なんてね」

Copyright©2026 D³S

美優　「言うわね」

○部活棟　野球部の部室の前

智美と美優は、野球部の部室前で別れる

智美　「じゃ、私は、ここで」

美優　「うん、また明日」

智美　「バイバイ」

▽智美　野球部の部室に入っていく

Copyright@2026 D³S

□第二幕　カメラ屋での出会い

〇（夕方）商店街のカメラ店
　松子は、大学に行く資金を貯めるために、小さなカメラ店で
　プリントの受付のアルバイトをしている
　個人経営のカメラ店なので、普段は松子一人が店番をし、
　松子で対応できない場合は、奥にいる店主を呼ぶことになっている

▽松子　カウンターに立っている
　客が来ないの暇そうにしている

「今日も暇ね。お客なんて来やしないわ。
だいたい今時、カメラで撮った写真を、プリントなんてする人いないわよ。
いたしたとしても、ネットで注文しちゃうわよね」

〇カメラ店の自動ドアが開く。

▽吉賀、カメラ店に入ってくる

「いらっしゃいませ」

▽松子、客（吉賀）の顔を見る

松子

松子

Copyright@2020 D's

吉賀　「あれ？　中川さん」

松子　「吉賀君、どうしたの？」

▽吉賀、松子の前のカウンターに行く

吉賀　「この前デジタルカメラのプリントを頼んでたの取りに来たんだ。はい、これ控え」

▽吉賀、松子に注文の控えを渡す

松子　「あら、そうなの。知らなかった」

▽松子、控えを受取り、番号を見る

吉賀　「その時は、男に人に対応してもらったからかな」

松子　「じゃ、店長ね。私がバイト休みだったんだわ」

吉賀　「そうかも」

Copyright@2026 D³S

松子　「少々お待ちください」

▽松子、カウンターの後ろから袋を探し出す

▽松子、しばらくして　吉賀の前に戻ってくる

▽松子、吉賀に、プリントの入った袋を渡す。

松子　「では、中身の確認をお願いします」

▽吉賀、袋から写真を取り出す
　パラパラと見出す

▽松子　なんの写真か気になり吉賀の写真を覗き込む
　花の写真が見える

▽松子、思わず声が出る

松子　「あら？　セントポーリアね」

吉賀　「中川さん、セントポーリアを知ってるの？」

Copyright@2026 D³S

松子　「ええ、私、セントポーリアが好きで家でたくさん育てているの
吉賀君も」

吉賀　「そうなの。僕は、花の事はよくわからないんだ。これは、お母さんが
育てているんだけどいつも海外に行っているので、代わりに僕が世話して
いるんだ」

松子　「そうなの。優しいのね」

▽吉賀　写真の束から一枚選ぶ
葉が茶色くなっていて、花もしおれ気味

吉賀　「この写真みてくれる。枯れそうなんだ。どうしてかわかる?」

松子　「ちょっと見せて」

▽松子　吉賀の写真を受けとる

松子　「これは特に日光に弱い種類だわ。
この場所だと、日が強すぎるわね。葉の先が茶色くなってるもの。
セントポーリアはもともと熱帯雨林に咲く花で、
大木の日陰で咲くの。だから直射日光は当ててはダメなのよ。

Copyright©2026 D³S

吉賀　それと水を花の上からやってないかしら？
セントポーリアは湿度が高いのを好むの。
それは根からの吸収が悪いからなの。
だから水は少量をこまめにあげる必要があるわ」

松子「凄い、セントポーリア博士みたいだ。
そうだ、中川さんが迷惑でなければ、僕に、育て方を教えてくれない？
お母さんが帰国したら驚かせてやりたいんだ」

吉賀「いいわよ。じゃ明日学校で」

松子「学校かぁ。どうせだったら僕の家ではどう？
実際にセントポーリアを見てアドバイスをして欲しいんだ」

吉賀「私が吉賀君の家に？」

松子「ごめん、女の子を突然、家に呼ぶなんて変だよね。じゃ学校でいいよ」

▽松子、少し考える

吉賀「いいわよ。吉賀君の家で」

Copyright@2026 DBs

吉賀　「ほんと。じゃ、次の土曜日にどう」

松子　「わかったわ」

吉賀　「よかった。じゃ、学校で、僕の家の場所教えるね」

松子　「うん」

〇（翌日の学校）一年二組の教室

▽美優、松子、智美が会話している
　松子はいつもより笑顔

智美　「松子　なんか嬉しそうね。何かあったの？」

松子　「え？　そう？いつも通りよ」

美優　「ええ、違うよ」

智美　「何か、いいこと　あったんでしょ。白状しないさい」

松子　「どうしようかな」

Copyright@2026 D³S

美優　「なによ。そこまで言ってて」

松子　「あのね、今度の土曜日に　吉賀君の家に行く事になったの」

智美　「え、本当」

松子　「本当」

美優　「なんで　そうなったの」

（美優）（女が男に家に行くなんて、もう、あれしか無いじゃない）

智美　「いきなりの展開じゃない。どうしたの」

松子　「じつは、私と吉賀君の共通点が見つかったのよ」

智美　「共通点って何？」

吉賀　「私の好きな花と、吉賀君のお母さんが好きな花が同じだったの」

美優　「それが、なんで？」

Copyright@2026 D³S

松子　「お母さんが海外で留守の間、花の育て方を私に教えて欲しいですって」

美優　「松子って、以外と女の子らしいもんね」

智美　「以外ってのは、余計だけどね」

松子　「男の人の家にいくなんて、幼稚園の誕生日会以来だわ」

美優　「女の子が、男の人の家に行くなんて、なんかやばくない？」

智美　「松子のことだし心配はしていないけど、相手も吉賀君だから大丈夫よね」

（美優）（吉賀が、またイカセテ欲しくなってたりして）

智美　「でも、万が一ってこともあるから気をつけるのよ」

松子　「万が一って？」

智美　「万が一って万が一よ」

松子　「う～ん、でも吉賀君ならいいかな？　なんて」

Copyright@2026 D's

智美

（美優）

「松子ったら～」

（ちくしょー松子に処女喪失を越されてしまうとは、美優不覚）

Copyright@2026 D³S

□第三幕　松子　吉賀のマンションへ行く

○吉賀のマンションの入り口

▽松子　広いエントランスに挙動不審な様子

▽管理人室から、管理人が松子をジロシロ見ている

▽松子　インターフォンを見つけて、吉賀に聞いた部屋番号を押す

「はい」

「中川です」

「いらっしゃい。じゃ、エレベーターに乗ったら、５０階のボタンを押して、止まったらもう一回５０階のボタンを押してくれる」

「うん」

▽エレベーターに乗る　松子

（吉賀）

松子

吉賀

松子

Copyright@2026 D³S

言われた通り　５０階のボタンを押す

○エレベーターが動き出し　５０階で停止

松子　「もう一階押すのね」

○エレベーターの中のインターフォンから、吉賀の声がする

吉賀　「ちょっとまって、今開けるから」

○エレベーターのドアが開く

○エレベータを下りる　松子

○目の前に　大きな扉があり、ドアが開く

ドアが開くと、吉賀が起っている

吉賀は、Ｔシャツにジーンズを姿

吉賀　「いらっしゃい」

松子　「おじゃまします」

Copyright@2026 D'S

吉賀　「エレベーター面倒くさかったでしょ」

松子　「そうね。でも、変な人が来ないようにしてるんだから、しょうがないわよ」

吉賀　「そうだね。まぁ上がって、汚いところだけど」

▽松子　玄関に入る
　玄関の広さに圧倒される

（松子）（これがマンションの中？まるでホテルのロビーじゃん。
世の中に　こんな家があったなんて、リアル花輪君って実在するんだな）

○吉賀家　リビングルーム
　中央に大きなソファー　ソファーの前には大きなテレビが置いてある

▽吉賀、ソファーに目をやる

吉賀　「ちょっと、そこに座ってて」

▽松子、ソファーに腰掛ける

松子　「失礼します」

Copyright©2026 D³S

吉賀　「誰もいないから、遠慮しないで」

松子　「こんな立派なソファーに座れないわよ」

吉賀　「中川さん、面白いね。ちょっとお茶入れてくるね。ミルクティでいい？」

松子　「おかまいなく。あ、これ、クッキーを焼いてきたの。どうぞ」

▽松子、クッキーの入った紙袋を　吉賀に渡す

吉賀　「ありがとう、じゃ、これも一緒に食べよう」

▽吉賀、しばらくして、お盆に　ティーカップと　さっき松子が渡したクッキーを
　皿にのせて持ってくる

○（同）リビング
　松子、吉賀、ソファーに並んで座りお茶を飲みながらクッキーを食べる

吉賀　「このクッキーおいしいね」

松子　「よかった。ミルクティもおいしいわよ」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「そういえば、中川さん、今日は、バイト休みだったの？」

松子　「えぇ、今日は別の子が入るの。吉賀君こそ、部活は休みだったの」

（松子）（本当は、私なんだけど、せっかく吉賀君の家に招待されたのにこんなチャンスを逃せないわ）

吉賀　「僕は、用事があるって、さぼっちゃった」

松子　「えぇ、小村君が怒るわよ」

吉賀　「大丈夫、ケンちゃんは、そんなことで怒らないって」

松子　「それでも部活をさぼっちゃダメよ」

吉賀　「中川さんって、結構まじめなんだね」

松子　「そうよ。多分クラスの三人の女子の中では一番まじめよ」

吉賀　「うん、それは確かだ」

Copyright@2026 D's

松子　▽松子　吉賀、ティーカップを皿に置く
　　お茶の時間が終わる

吉賀　「じゃ、早速だけど、セントポーリアはどこにあるのかしら」

吉賀　「そうだね。さっそく見てもらおうかな」

▽吉賀、立ち上がる

「こっちだよ。ついてきて」

▽吉賀、リビングから出て廊下へ

▽松子、吉賀の後ろをついていく

○吉賀家の廊下
　吉賀の後ろを松子が歩いている

▽吉賀、ドアの前で止まる

▽吉賀　扉を開ける

Copyright@2026 D³S

○セントポーリアを置いてある部屋
そこは、二十畳はあろうかという部屋で、奥はガラス張りの屋根とガラス窓の壁になっていた。

#部屋は薄暗い#

▽吉賀、明かりを点ける

▽松子、中を除く

松子「すごい。なにこの部屋」

▽吉賀、部屋の中に入る

▽松子、吉賀に着いて入る

▽吉賀、ガラスの天井を見上げる

吉賀「ここは最上階だから、日光を沢山取り込めるようにこんな作りになっているんだけど、この前、中川さんがセントポーリアは日光がダメって言ったから、ブラインドを下ろしてしまったんだ」

Copyright@2026 D'S

松子　「そうなの。でも、今度は暗すぎるかもしれないわね
それに、この部屋には、セントポーリア以外の植物もあるわ。
これらの植物には、日光は必要よ」

吉賀　「結構、植物を育てるのって、大変なんだな」

松子　「そうね。特にセントポーリアはそうね」

吉賀　「わがままな花なんだな」

松子　「わがままか。でも、子供だってわがままの方が
カワイイって言うから、そういうところがセントポーリアの魅力なのよ」

吉賀　「そっか。じゃ、どうすればいいかな」

松子　「直射日光じゃなくて、反射で当たるようにすればいいわ」

吉賀　「反射で？難しいな。どうやって」

松子　「簡単よ。少し置き場所を工夫すればいいの。ちょっと奥に動かすとか
ほら、この観葉植物で影になるように置いてもいいのよ」

Copyright@2026 D's

吉賀　「中川さんて頭いいんだね」

松子　「なんたって、セントポーリア博士だから」

▽吉賀　松子は、セントポーリアの鉢を次々と移動させていった

吉賀　「なんとか移動できたね」

松子　「そうね」

▽吉賀、部屋にある蛇口から　じょうろに水をいれている

▽吉賀、セントポーリアに上から水をやろうとする

松子　「吉賀君ダメよ」

▽松子は、じょうろを持っている吉賀の手の上から握る

松子　「こうやって、根元の少し離れた場所から、少しずつあげるの」

吉賀　「わかった」

Copyright@2026 D³S

松子　▽松子、吉賀の手を握っていることに気づき手を離す

吉賀　「あ、ごめんなさい」

松子　「何が」

○二人は、セントポーリアに水をやり続けている

（数分後）

吉賀　「ありがとう、なんとか終わったね」

松子　「私、こんなに沢山のセントポーリア見たのは初めて。私もいいもの沢山見せてもらったわ」

吉賀　「よかった」

松子　「でも、こんなに沢山だと、世話するのも大変ね」

吉賀　「そうだよね」

Copyright@2026 D's

松子「これからも、私も御世話に手伝いに来ていいかしら」

吉賀「いいの」

松子「もちろん。こんな素敵な部屋ですもの、いつも来て見たいわ」

吉賀「助かるよ」

松子「それに、増やしたら、私にも別けてもらえるかしら」

吉賀「セントポーリアって増やせるの」

松子「そうよ。上手に育てれば、増やすことができるわよ」

吉賀「そういうことなら、いつでも来てね」

松子「うん」

吉賀「なんか安心したよ。それに汗かいたからシャワー浴びてきていいかな」

松子「あら、気がつかなくてごめんさない。どうぞ」

Copyright@2026 D³S

吉賀

松子

吉賀

「じゃ、僕はシャワー浴びてくるから、さっきの部屋で待ってて」

「わかった。私、もう少し、ここで、セントポーリアを見てから戻るわ」

「うん。好きなだけ見てて」

▽吉賀は、シャワールームへ行く



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

Co 026 D³S

○（同）リビング

▽松子　ソファーに座って、スマートフォンで撮影したセントポーリアの花を見ていた。
中には、吉賀が写っている画像もある

（吉賀君って、かっこいいな）

▽松子　スマートフォンを胸にあてる

（数分経過）

▽吉賀　上半身裸で、バスタオルを羽織り、下は体操服のランパンで戻ってくる

（松子）

Copyright@2026 D³S

吉賀　（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



（松子）「おまたせ。さっぱりした」

松子　（吉賀君、セミヌード。綺麗は身体してるな。かっこいいわ）

吉賀　「全然、さっき撮ったセントポーリアの写真を見てたら、すぐだったわ」

松子　「本当に、セントポーリア、好きなんだね」

吉賀　「そうね。花の中では一番好きかも」

Copyright©

（松子）

吉賀

松子

吉賀

松子

▽吉賀、松子の横に座る

▽松子、横を見ると、吉賀の胸とピンクに透き通った乳首が見える

（綺麗なピンク）

▽松子、見とれてしまう

「中川さん、どうかした」

「え、あ、吉賀くん、服は、着ないの」

「シャワー浴びてすぐだから、まだ暑いんだ。ごめん、女の子の前だもんね。直ぐに服を着るよ」。

「そうよね。シャワー浴びて暑いもんね。そのままで大丈夫よ、それに、私は、そろそろ帰る時間だし」

▽吉賀、壁の時計を見る

十七時を指している

Copyright@2026 D³S

吉賀　「そっか、もうそんな時間なんだ。じゃ、僕も晩ご飯の準備でもするかな」

▽松子、吉賀の顔を見る

松子　「え？　晩ご飯の準備って」

吉賀　「うん。今日はお手伝いさんが休みなんで僕が作るの」

松子　「何を？」

吉賀　「う～ん？　冷凍食品か、インスタントラーメン　かな」

松子　「それって作るって言わないわよ」

吉賀　「でも、鍋を使ったりするんだよ。美味しいから好きなんだけどな」

松子　「だめよ。高校生って成長期なのよ。ちょっと冷蔵庫の中を見せてもらっていいかしら」

▽吉賀、振り向いてキッチンの入口の方を指す

吉賀　「どうぞ。キッチンは、あそこだから見てみて」

Copyright©2026 D³S

松子　吉賀　松子

▽松子、立ち上がり、キッチンの方に向かう

▽吉賀、立ち上がり松子についてキッチンに向かう

〇（同）キッチン

大勢の客人をもてなすため、キッチンも広く、食器棚が並んでいる

▽松子　吉賀、キッチンに入る

「すごい　キッチンね」

「大勢でパーティするときは、料理人が何人も入るからね」

▽松子、見渡すが冷蔵庫らしきものが見当たらない

「冷蔵庫はどこかしら」

▽吉賀、冷蔵庫はこれだよ

▽吉賀、まっしろ扉を開ける

中は冷蔵庫になっており、食材が少しはいっている

Copyright@2026 D³S

松子　「冷蔵庫の大きさの割に中は少ないのね」

吉賀　「今は、来客がないので、お手伝いさんが僕の一週間分の食料を買うだけだからね」

▽吉賀、別の扉を開ける
　冷凍食品や、アイスクリームがびっしり入っている

吉賀　「でも、冷凍食品は、こんなにストックしてあるんだ」

松子　「でも、アイスクリームじゃご飯にならないわね」

▽松子、冷蔵庫と冷凍室の材料を見ながら考えている

松子　「よし、じゃ、今日は、私が作るわ」

吉賀　「え、いいの？」

松子　「いいわよ。こんな豪華なキッチンで一度料理作って見たかったし」

吉賀　「でも帰らないと、親が心配するんじゃない？」

松子　「大丈夫　親には電話するわ」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「じゃ、お願いしちゃおうかな」

松子　「任せて」

▽吉賀、引き出しを開ける
　鍋やフライパンが入っている

吉賀　「器具は、この中」

吉賀　「食器や、調味料は、あっちの棚にあるよ」

松子　「すごい。レストランみたいなフライパンで、調理してみたかったの」

松子　「吉賀君は料理が出来るまで、あっちでテレビでも見てて」

吉賀　「うん。何か分からないことがあったら、言ってね」

松子　「そうするわ」

▽吉賀、キッチンから出て行く

Copyright©2026 D³S

松子

▽松子、料理に取り掛かる

▽吉賀、リビングのソファーでテレビを見始める

（数分後）

〇（同）リビング

吉賀がソファーで寝ている

▽松子、料理ができたのでリビングの吉賀の様子を見にくる

「吉賀君、料理出来たわよ。運ぶの手伝って」

▽吉賀、寝ているので返事がない

▽松子、返事がないので、ソファーのところへ行き、吉賀を覗いて見る

▽吉賀、ソファーに横になり、腹の上にバスタオルを掛けて寝ている

Copyright@2026 D³S

松子　「あら、寝ちゃったのね」

松子　「もうしょうがないわね。せっかくの料理が冷めてしまうわ」

松子　「吉賀君　起きて」



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

Copyright@2026 D³S

▽松子、吉賀の体を少し揺する

▽吉賀　揺すられた勢いで、横向きから仰向けになり、バスタオルが床に落ちてしまう
吉賀は、ランニングパンツだけの姿で寝ている状態



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

Copyright©2026 D³S

▽松子、吉賀のランニングパンツ一枚の姿を見る

▽松子、吉賀のランニングパンツが立派なテントを張っているのに気づく

（松子）　（男の子って、寝ている時も大きくなるのね）

（松子）　（あの時のことが忘れられないわ。もう一回、さわってみたい）

（松子）　（もう一度だけ、ちょっとぐらいなら大丈夫）

▽松子、テントの先を指先で触る

”ピクッ、ピクッ”

（松子）　（動いた）

（松子）　（もう一度）

▽松子、もう一回、テントの先を　今度は指先で撫でてみる

▽吉賀、テントが大きく揺れ動く

Copyright@2026

（松子）　（面白い）

（松子）　（もう一回だけ）

▽松子　ちょっと強めに触る

（松子）　（固い）

▽松子、亀頭と陰茎の分かれ目をさわる

（松子）　（この前は緊張していてわからなかったけど、男の子って、こんな形をしてるのね）

（松子）　（もう少しだけ）

▽松子、吉賀のランニングパンツの裾から手を入れ、インナーの中に手を突っ込み吉賀の陰茎を直に握る

（松子）　（あの時は、みんなに見られてよくわからなかったけど、固いといっても、弾力はあるのね）

Copyright@2026 D³S

（松子）　（あ、ビクビクしてる）

▽松子、吉賀のランニングパンツの上に頬を付ける

▽松子、吉賀のランニングパンツの亀頭の部分を、口に当てる

（松子）　▽松子、亀頭の先の部分を下で舐めてみる

（先が割れているのがわかるわ）

＃吉賀の亀頭の割れ目が、松子の唾液で濡れていく＃

▽松子　目を瞑る

（松子）　（あったかい。頬に吉賀くんの大切なものの熱が伝わってくるわ）

（松子）　（ずっと、このままでいたい）

（数時間後）

吉賀　「中川さん、起きて」

Copyright©2026 D³S

▽松子、吉賀の股間の上に頭を置いた状態で目を覚ます

▽松子、顔を上げる

▽松子、吉賀のランパンの中に手を入れ、吉賀の陰茎を握っていることに気付く

▽松子、慌てて吉賀のランパンから手を出す

▽松子、身体を起こす

▽吉賀、身体を起こし立ち上がる

「ごめんなさい」

「こっちこそ寝てしまってごめん。もう、二十一時だよ」

「え、そんな時間。どうしよう」

「僕が寝てしまったのが原因だから、中川さんのせいじゃないよ」

「いいえ、私が　ちゃんと吉賀君を起こしていれば」

松子

吉賀

松子

吉賀

松子

「

Copyright@2026 D³S

吉賀　「そんなことより、早く帰る準備をしなきゃ」

松子　「そうね。あ、そうだ、晩御飯作ったんだわ」

▽松子　吉賀、キッチンに行く

吉賀　「沢山作ってくれたんだ。ありがとう」

松子　「でも、冷めちゃってるわね」

吉賀　「温めれば大丈夫」

松子　「そうね。じゃ、私は、帰るわ」

吉賀　「ちょっとまって、今から、タクシー呼ぶから」

▽吉賀、タクシー会社に電話をする

〇（二十一時過ぎ）吉賀のマンションの下

吉賀は服を着て、紙袋をもった松子がマンションから出てくる

＃マンションの前にタクシーが止まっている＃

Copyright@2026 D³S

松子
吉賀
松子
吉賀

#タクシーの扉が開く#

「おかず、こんなに持って帰っていいのかしら?」

「僕は一人分あれば足りるから」

「明日が日曜日で助かったわ」

「運転手さん、これで、この子は言う場所まで　乗せて行ってあげて」

▽吉賀、タクシーの運転手に、タクシーチケットを渡す

#松子を乗せたタクシーが走り出す#

Copyright@2026 D³S

第六話

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

夢雄　美侶

Copyright © 2026 D³S

サブタイトル　「水泳の授業なのだ」

あらすじ

工業高校の水泳の時間
とっても自由で、真夏のパラダイス
男子生徒の水着姿を堂々と見れる美優は、別の意味でパラダイス

Copyright@2026 D³S

□第一幕　小島と松村がプールでＸＸＸ

〇（放課後）学校のプールサイド
　一年生の松村がプールサイドでロープ張りをしている

▽松村、プールサイドで、部活の準備をしている
　上はＴシャツ　下は競泳用水着姿

▽小島、松村を見つける

▽小島、他に人がいないことを確認

▽小島　近寄ってくる

小島　「よ！　松村。おまえ水泳部だったんだな」

▽松村、小島の顔を見る

松村　「そうだけど　何か用」

小島　「もうすぐ、水泳の授業はじまるだろ。どんなプールかちょっと見ておこうと思って

Copyright@2020 D³S

松村　そしたら、おまえの顔が見えたから　来てみたのさ」

「そう」

▽松村、部活の準備をしている

▽小島、松村の後ろをついてあるく

小島　「まぁ、学校のプールってどこも一緒だよな」

松村　「そうだね」

小島　「なんか、冷たいな」

松村　「プールの水は　まだ　冷たいよね」

小島　「いや、お前がだよ」

松村　「用事が終わったら、出ていってよ」

小島　「ちっとは仲良く話をしようぜ」

Copyright@2026 D³S

小島　▽小島、松村の体付きを見る
　　Ｔシャツを着ているが、肩幅があり胸板もしっかりとしていることが判る
松村　「おまえ、案外いい体してんな」
小島　「そんなこと思った事ないよ」
松村　「腹筋割れてるのか？ちょっと、シャツめくって見せてくれよ」
小島　「いやだよ」
松村　「けちだな」
小島　「男の体なんか見ても、面白くないだろ」
松村　「ふーん」
小島　▽松村、バケツをもって機械室の方に向かう
松村　▽小島、松村に着いていく
　　「なんで、着いてくるの」

Copyright@2026 D's

小島　▽小島、機械室の方を見て指を差す

「俺さ、機械とかに興味があってさ、だから工業高校に来たんだよね
ちょっと見せてくれよ」

松村　「まぁ　そういうことなら。でも　見てもつまらないけど」

小島　「いいよ、いいよ」

▽松村、機械室の扉を開けて中にはいる

▽小島、松村の後ろから入る

▽松村、手にもっていたバケツをか床に置く

▽小島、松村に後ろから抱きつく

松村　「なに？なにするの」

小島　「なぁ、この前の続きをしようぜ」

Copyright@2026 D³S

▽小島、松村の背後から股間を揉み出す

松村　「やめて」

小島　「このまえは、邪魔が入って、残念だったろ。今日は、ちゃんと抜いてやるよ」

松村　「何言ってるの」

小島　「俺が、直々にオナニーのやり方教えてやるから温和しくしてろ」

松村　「止めってたら」

▽小島、背後から松村の股間を揉みまくってる

小島　「ほら、だんだん、固くなってきてるじゃないか」

松村　「お願い、やめて」

▽小島、片方の手　松村のTシャツの下から捲り上げる
　松村の腹を撫でる

小島　「おまえ、めっちゃいい体してるやないか」

Copyright@2026 D³S

松村　「お願いだから、やめて」

小島　「気持ち良くしてやるんだから」

▽小島、松村を壁に押しつけ、体を正面に向ける

▽小島、競泳水着の上から松村の陰茎を扱きだす

小島　「ギンギンじゃないか」

小島　「ほら、気持ちいいんだろ」

松村　「あ、あ、あ、あ、あ、あ」

小島　「感じてるんだろ。もっと声だせよ」

▽小島、Tシャツを捲り上げ脱がし、Tシャツは機械室の床に落とす

松村は筋肉室で　肩幅もあり、胸筋、腹筋　完璧に仕上がっている

▽小島、松村の綺麗に割れた腹筋を見る

Copyright@2026 D³S

小島　「すげー　なんちゅう体や」

松村　「お願い、やめて」

▽小島　松村の胸の揉み出す

小島　「ムヒョー　おっぱい　おっぱい」

▽小島、松村の胸を舐め回す

▷小島、松村の乳首を吸う

松村　「あっ　あう」

▷小島、口を離し、松村の顔を見る

小島の手は、松村の競泳水着の上から陰茎を揉んでいる

松村　「あ、あ、あ、あ、や、や、だ、だめ」

小島　「おれさぁ、可愛いロリキャラよりも、お前みたいな可愛い男の子が　苦しそうにしている顔を見るのがなんとも言えないんだよね。しかも、この体　儲けもんだな」

Copyright@2026 D³S

▽小島、村の競泳水着の上から陰茎にそって、激しく扱く

松村　「あ、あ、あ、あ、あ」

▷松村、腰を前に振る

小島　「いい子だ」

▽松村　目をつぶり、顔をしかめている

小島　「ほら、その表情。いいよなぁ」

小島　「どうだ、気持ちいいだろ」

▽小島　松村の股間を見る
競泳水着が大きくなった陰茎のせいでパンパンに腫れ上がり、
亀頭の先が見えている

「やらしいな先がハミ出て見えてるじゃないか」

▽小島、松村の亀頭の先を指でなぞる

Copyright@2026 D's

小島　「そろそろ　フィニッシュだな」

▽小島　さらに手を早める

▽松村　腰が前後に動く

小島　「ヤラシイ腰つきだな」

松村　「あっ、あう、あん」

小島　「気持ちいいんだろ。ほら、もっと、声をだせよ」

松村　「あん、あつ、あう」

松村　「い、いく」

（うっっ）

▽松村　体をびくつかせる

松村　「はぁ、はぁ　はぁ」

Copyright@2026 D³S

小島　　小島

▽松村、競泳水着からはみ出ていた亀頭の先から粘液が飛び出し、松村の腹筋に精液が飛び散る

「たまんないね」

「ちゃんとシャワーで綺麗にしてからプールに入れよ」

▽小島、機械室から出ていく

▽松村、機械室で疲れて仰向けになっている

Copyright©2026 D's

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



Copyr ght ©

美優
智美
美優

□第二幕　プールの時間

○（夕方）一年二組の教室

中間試験が終わる頃には、ある程度　気の合った者同士がくっつき
グループが形成されてきている

女子３人組は変わりないが、男子にはいろいろな動きがあるようだ。
小村は、同じバスケ部に所属している中野を中心に、成績もそこそこで
教師にとって授業の、やりやすいグループだ。
美優と同じ中学出身の滝本は、クラスのリーダー的なグループいる
そして、小島を中心として、ちょっと変わった者同士が集まった
グループなどなど

▽美優　智美　松子、話をしている

「やっと中間テスト　終わった～」

「ほんと、毎日　寝不足で肌に悪いわ」

「あれ？智美は、ぜんぜん疲れていないようにみえるけど」

Copyright©2026 D³S

智美　「ちょっと、それどういう意味。私がちっとも勉強しない奴って思ってるんでしょ」

美優　「ふふふ想像にまかせる」

智美　「そういう美優はどうなの」

美優　「私は、いつも通りよ。松子だってそうでしょ」

智美　「美優、松子と一緒にしちゃだめよ。松子がかわいそうじゃない」

松子　「そんなこと無いわよ。私も結構疲れているんだけどな」

美優　「見えてないところで努力するのが松子だもんね」

智美　「そういえば、明日から体育は水泳が始まるわよ。二人は水着どんなの買ったの」

美優　「え？　学校で販売してくれるんじゃないの」

▽智美　松子、美優の顔を見る

Copyright©2026 D³S

智美　「何言ってるの？　美優、この前の連絡見た」

美優　「見たつもりだけど」

美優　「ちょっとまって」

▽美優、スマートフォンで学校からの連絡を見る

美優　「水泳があるってしか書いてないよ」

▽智美、自身のスマートフォンを見せる

智美　「ほら、これよ」

****

校内での水泳の授業について

各自、水着を用意すること

男子

Copyright@2026 D³S

美優　分丈より短い無地の海水パンツ、または、無地の競泳用、
　　操服の短パンでも可

松子　女子
　　ビキニ、セパレーツ禁止
　　パレオなど水泳に邪魔なものは付いてないもの

智美　**********

美優「え、こんな連絡あったの」

松子「私、それ見て、急いでバイトの帰りに買ってきたんだから」

智美「うちの学校は、水着に決まりがないのよ。自由に選んでいいのよ」

美優「じゃ、学校で水着の販売しないの」

智美「そうよ。スクール水着なんて、ださくて嫌だったからちょうどよかったわ」

松子「でもさ、おかげで、買うときにすごく悩んだわよ。変なの選んでしまうと
　　男子に何言われるか」

Copyright@2026 D³S

智美
美優
松子
美優

「そうよね。しかも　派手なのはダメだから、センスが問われるわね」

「ちょっと、松子もなの。うらぎりものぉ。買いに行くなら誘ってよぉ～」

「まさか、美優、買ってないの？」

「うん。どうしよう。取りあえず、今日は、試験直後ってことで、部活はサボってお店に行ってみるわ」

Copyright@2026 D's

□第三幕　プールの授業

〇（翌日）学校のプールの女子更衣室
結局、水着を買いに行けなかった美優は、去年、
中学で使っていた紺のスクール水着を着用することにした。

▽美優、松子、智美　更衣室で着替えをしている
高谷と松子は、色鮮やかな小さめのフリルの付いた水着
美優は、昨年　中学で使っていた紺のスクール水着であった

▽美優、去年　中学で着ていた紺のスクール水着を着て白いキャップを被っている

美優　「わーん。水着買えなかったよぉ～」

智美　「美優、すごいよ。私だったら、生理ってことにして休んじゃうよ」

美優　「ダメよ。私ってズルは嫌いな性格を知ってるでしょ」

（美優）（本当は、教室で待ってるなんて嫌よ。せっかく男子のもっこりを生で
見れるのに）

松子　「でも、あんがい新鮮でいいわよ」

Copyright©2026 D's

（数分後）

○学校のプール　プールサイド

男子は、既にプールサイドで、並んでいる

▽美優、松子、智美　バスタオルを羽織、プールサイドへ出る

▽智美　バスタオルを外し、ベンチに置く

▽男子　どよめき

「おお、高谷さん、すげぇ」

「高谷さん、かわいい」

▽松子　バスタオルをベンチに置く

▽男子　どよめき

「カワイイ」

男子Ａ

男子Ｂ

男子Ｃ

Copyright@2026 D³S

男子Ａ
男子Ｂ
松子
美優
（美優））

▽美優　バスタオルを外す
▽男子　最大のどよめき
「夢前、なんだ、お前～」
「おいおい、せっかく　いいもの見せておいてなんだよ」
▽松子、美優の肩をたたく
「美優、気にしない、気にしない」
「大丈夫よ」
（あいつら　覚えてろよ）
▽美優　男子の方を見る
しかし、水着を新調しなかったのは美優だけでは無いようだ。
男子のほぼ全員がのランパンだったのだ。

Copyright@2026 D³S

（美優）

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



（なんだ、ここは貧乏人の集まりか？　水着買えないのか？）

→

自分の事は棚に上げている美優

＃始業チャイムが鳴る＃

▽土呂、プールサイドに現れる

Copyright

土呂

（美優）

土呂

（美優）

（小島）

（美優）

土呂

▽土呂、美優の方を見る

「お、夢前、いいじゃないかその水着！」

（お前に言われてもなぁ～）

「今日は、松村は教室で見学か。じゃ、準備運動をするぞ。２列に並べ」

（ショタの松村は見なくていいから　どうでもいいよ）

（あいつ、休みやがったな）

▽生徒　２列に並ぶ

▽美優、吉賀の後ろにならぶ

　吉賀の色白の背中をみる

（こんな色白で、漂白剤でも飲んでるんじゃないのか）

「ラジオ体操はじめ」

Copyright@2026 D³S

（土呂）

▽土呂、上半身裸の男子生徒を凝視

（体育教師やってて良かった）

（美優）

▽美優　小村の方をチラ見

（ああ、小村君の乳首をもっと近くでみたいわとっても）

土呂

#ラジオ体操が終わる#

「よし、じゃ、次は　腹筋をするぞ。後列は、前列奴の足を押さえてやれ」

生徒

「えぇぇなんで、水泳で腹筋だよ」

土呂

「うるさい。運動だったら何でもいいんだ」

▽前列の生徒　プールサイドに寝転び後列生徒は、前列の生徒の足首を持った

美優

「吉賀君、いいかしら」

吉賀

「うん　いいよ」

Copyright©2026 D³S

▽美優、吉賀の足首を持つ

（美優）（相変わらず、毛の生えてない足だな。永久脱毛してんのか？）

土呂「腹筋はじめ」

▽吉賀、腹筋をする

▽美優、吉賀の股間に目が釘付け

（美優）（吉賀、あいかわらず大きいわねいいね）

▽土呂、突然、腹筋をしている生徒に向かって、ホースで水をまきだす

男子「冷たぁ」

土呂「どうだ、暑いから、冷たい水の差し入れだ。それっ」

＃男子の穿いている　ランニングパンツが水に濡れて、肌に張り付き
うっすらを透けてみえる＃

Copyright@2026 D³S

（美優）　（吉賀君のパンツが濡れて、アソコに張り付いたからクッキリ見えるわ
　　土呂って、なんて気が利くの）

土呂　「おい、男子、女子を前にして、勃起するなよ」

男子Ａ　「よけい縮こまるわ」

（ナレーション）　〇姫磨工業高校　プール
　　一年二組の生徒が、自由にすごしている

工業高校の水泳の時間、それは真夏のパラダイス。
準備体操さえ終われば、あとは自由時間
競争やタイムを測ることなどしない。

ビート板を持ち、浮きながら会話をしている者
プールサイドで日焼けをしている者

教師の土呂は、屋根付きの場所で、昼寝の時間だ

▽生徒達、プールの中で、自由に遊んでいる

▽美優　松子　智美、プールサイで、話をしている

Copyright©2026 D³S

美優　「私たち早く入ろうよ」

松子　「うんうん。暑いから早く」

▽美優、松子、智美　プールに入水

○プールの中

▽美優　智美、松子、プールの中で話をする

智美　「気持ちいいわね」

松子　「ほんと、生き返るわ」

智美　「美優、どうかした」

美優　「え、なんでもない。ちょっと考え事よ」

智美　「さっきから　小村くんの方ばっかり見てるけど。さては気になるのかな」

美優　「そんなんじゃないわよ。どこで水着買うか考え手たの」

Copyright@2026 D³S

（美優）　（やべー見透かされてるよ）

松子　「工業高校の水泳の授業って最高ね」

智美　「うんうん。でも、水泳の後ってメイクし直さないといけないし、ちょっと面倒なところもあるのよね」

（美優）　（もっと近くで、小村君の見てみたいな・・・あ、居た）

▽小村　吉賀　中野グループ、校舎の影になる場所でビート板をもち、浮いている

（美優）　（どうやって、あっちへ行こうかしら？）

松子　「ねぇ。ちょっと、あっちの方　日陰だから、あっちに行きましょうよ」

▽智美、松子の言う方を見ると、吉賀がいる

智美　「松子ったら、吉賀君のそばに行きたいだけでしょ」

松子　「そんなんじゃないわよ」

Copyright©2026 D³S

美優　「しょうがないな、松子の恋に協力しますか」

松子　「もう、美優たら　違うって」

（美優）　（松子　積極的だな、おかげで　小村君のそばに行けるからラッキー）

▽美優　松子　智美、小村、吉賀グループの近くへ移動

▽吉賀、美優達が近くに来ていることに気づく

吉賀　「小村君、ちょっとビート板貸して」

小村　「何すんの？」

吉賀　「ねね、こんなの出来る」

▽吉賀、ビート板２枚使い、頭に１枚、もう１枚を尻に敷き　水の上に寝転ぶ
　尻の下のビート晩が腰を持ち上げ、ランパンのもっこりが強調される

小村　「そんなの簡単じゃん。貸して」

Copyright@2026 D's

松子　▽小村、同じ事をやろうとしたが、さすがに身長があり、
　　そこそこ体重もあるのか失敗ばかり

（美優）　▽吉賀、尻にビート板を敷いているので、股間部分が強調され、
　　もっこりが　はっきりと見えている

吉賀　〇少しはなれた場所
「ねね。吉賀君　もっこりが見えてるわ。恥ずかしくないのかしら」
（おいおい　よく言うよ、それが見たくて、近くに来たんだろ～）
「小村君は、ビート板2枚重ねて使った方がいいよ」

美優　▽小村、吉賀の言う通り、ビート板を2枚目重ねて浮かし、
　　見事　尻に敷ことができた。
　　そうして、小村のモッコリが目立つようになった
「いやん。小村君のもっこりが、見えるぅ」

松子　「もう、美優ったら、私の真似しないでよぉ」

Copyright©2026 D's

智美

（美優）

「二人とも、バレバレよ。もう色気付いてきてしょうがない二人ね」

○（次の週）水泳の時間　プールサイド

男子生徒　殆どが、ハーフ丈のサーフパンツを穿いている

美優　ワンピースの少しかわいいめの水着を着ている

▽生徒達、ラジオ体操をしている

▽美優、不服そうな顔でラジオ体操

（ち、なんでサーフパンツなんだよ。折角の目の保養が　台無しじゃないか）

Copyright@2026 D³S

第七話

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

夢雄　美侶

Copyright © 2025 D³S

サブタイトル「みんなで試験勉強なのだ」

あらすじ

期末試験を備えて、みんなで勉強をすることになった
吉賀の家に訪れるが、運悪くエアコンが故障中
小村と吉賀は、上半身裸で試験勉強
お目当ての男子二人の前に、女子二人はどうするのか？

登場人物（本話のみ）

Copyright@2020 D³S

□第一幕　小村の憂鬱

〇（放課後）体育館の中
　吉賀、小村がバスケ部部活終了後　片付けをしている

▽小村、元気がない

▽吉賀、どうしたかと思い、小村に声をかける

吉賀「小村君、顔色が悪いけど、何か有ったの」

小村「う、まぁね。夏の合宿がね」

吉賀「あぁ　さっき部長が最後に話してたやつだね。合宿楽しそうだけど　それが何か」

小村「吉賀はそうなんだ。俺はさぁ。」

吉賀「何、何、枕が変わると寝れないとか？」

小村「そんなことぐらいなら、こんなに悩まないよ」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「まさか、肝試しをするって言ってたから」

小村　「まぁ、それも少しはあるんだけど」

吉賀　「じゃぁさ、一体　なんなのさ」

小村　「う～ん、それがさぁ。いや、いいや」

吉賀　「なになに？　そこまで言われると気になるよ」

小村　「う～ん？　でも、やっぱりな」

吉賀　「誰にも話さないからさ」

小村　「まぁ、吉賀なら話してもいいか、みんなに言わないでくれよ」

吉賀　「うん、絶対言わない。信じて」

小村　「俺、最近、寝ている間に　射精しちゃうことがあるんだよ。
それで、合宿中、寝ている時に射精してしまったら、どうしようかと思って」

吉賀　「へ？」

Copyright@2026 D³S

（吉賀）（小村君、射精については理解できたようだけど、まだ夢精は知らないんだ）

小村「今回の合宿は、なんとかごまかせても、来年は修学旅行だもんな。ずっと　ビクビクして生活するなんて耐えられないぞ」

（吉賀）（ごまかすって、どうするんだ？しかも夢精する確率なんて、めちゃめちゃ低いだろに）

小村「ああ、吉賀。俺どうしたらいいんだろうか」

吉賀「そう聞かれても。ねぇ、小村くん。オナニーしてる？」

小村「オナニーって」

吉賀「僕が、この前、保体の授業でしてたように」

小村「あれは、中川にしてもらってたじゃん」

吉賀「まぁ、そうだけど。それを自分でするんだよ」

小村「そんなの出来るわけがないよ」

Copyright@2026 D's

吉賀　「大丈夫だよ。男なら誰でもやっているよ」

小村　「いや、あれは、人にしてもらったらからであって」

（吉賀）（小村くんって、どんな高校生活してるんだろう）

吉賀　「じゃ、人にしてもらえらたらいいの。じゃ、僕がしてあげよっか」

小村　「別に、そういうわけじゃないけど」

吉賀　「要は、小村君が合宿で、ザーメ・・・いや、夜中に射精しなくなればいいんだよね」

小村　「早い話が　そうだけど」

吉賀　「わかった。今回は僕が特別にオナニーのレクチャーしてあげるよ」

小村　「本当か、吉賀」

吉賀　「うん。いいよ」

Copyright@2026D's

小村

吉賀

（吉賀）

「さすが、友達だ」

「そんなに感謝されることかな」

（この際、空っぽにしてあげるよ）

Copyright@2026 D³S

□第二幕　吉賀の家でオナニーレッスン

○吉賀の家　吉賀の部屋
　吉賀、小村　吉賀の部屋のソファーに座っている

▽小村、吉賀の手を握る

小村　「じゃ、先生　よろしくお願いします」

吉賀　「とりあえず、勃起させようか」

小村　「勃起って。専門用語　使わないでくれよ」

（吉賀）（こりゃ、重症だ）

吉賀　「あそこを大きく固くすることだよ」

小村　「おお、それを勃起っていうのか。勉強になるな」

（吉賀）（むしろ、いままで、なんて思ってたのか知りたい）

小村　「で、どうするの」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「この前、授業で見てたでしょ。さすったりして刺激を与えるんだ」

小村　「こうかい」

▽小村、ジーンズの上から股間をさする

吉賀　「そうそう」

▽小村、ジーンズの上から股間をさすりつづける

吉賀　「どう」

小村　「ちょっとは　大きくなったかな。わかんないや」

▽吉賀、小村のジーンズの上から小村の股間を揉む

吉賀　「これじゃ、ダメだね」

小村　「そうか。これで限界だよ」

吉賀　「じゃ、次のステップ」

Copyright@2026 D's

吉賀　▽吉賀、スマホをとりだし、エロ動画を映す

「はい、これ見てて」

小村　「わ、すごい」

＃女の喘ぎ越えがスマホから聞こえる＃

吉賀　「ほら、じっと　見てて」

▽小村、下半身に違和感を持つ

小村　「すごい、揉んでなくても固くなってきた」

吉賀　「やっぱり、女の子に反応するんだ」

小村　「普通、そうじゃないのか」

吉賀　「まぁそうなんだけど」

▽吉賀、小村のジーンズの上から股間を触る

Copyright@2026 D's

吉賀　「なんか、ジーンズの上からだと、わかりにくいね」

小村　「まぁそうだな」

吉賀　「ジーンズを脱いでくれる」

小村　「え、いいよ」

吉賀　「でも、ズボン履いたままだと、射精したときに大変だよ」

小村　「そっか。吉賀、さすがだな」

（吉賀）　（いや、そんなことで褒められても）

▽小村、穿いていたジーンズを脱ぐ
　ズボンの下は、トランクス

▽吉賀、小村のトランクスを見る

吉賀　「小村君は、トランクス派だったもんね」

Copyright@2026 D'S

小村　「ボクサーパンツは、もっこりしてて、恥ずかしいんだよな」

吉賀　「まぁ、トランクスの方が　風通しがいいから、いいらしいよ」

小村　「そうなんだ」

吉賀　「じゃ、ソファーに寝転んで　してみよっか」

小村　「結構、めんどくさいね」

吉賀　「その方が、集中できるからね」

▽小村　ソファーに仰向けに寝る
　　トランクスがピンとテントを張っている

▽吉賀、トランクスのテントの先を左右に曲げる

吉賀　「良い感じで起ってるね」

小村　「そうか」

吉賀　「じゃ、トランクスの中に手を入れて、扱いてみて」

Copyright@2026 D³S

小村　「扱くって」

吉賀　「この前の授業みてたでしょ」

小村　「実は、ちゃんと見てないんだ」

吉賀　「じゃ、僕がしてあげるよ」

▽吉賀、小村のトランクスの裾から中に手を入れ小村の陰茎を握る

▽小村　とっさに、トランクスの上から吉賀の手をおさえる

小村　「ちょっと」

吉賀　「邪魔しちゃダメだよ」

小村　「いきなり、握るからさ」

吉賀　「いいから、僕に任せてて」

▽小村、トランクスから手を離す

Copyright@2026 D³S

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

▽吉賀、小村のトランクスの中に入れた手で陰茎を扱きだす

「こうやって、竿の部分を手で握って、上下にこするんだよ」

「うん、わかった」

「それにしても、小村君の太くて、固いね」

「そうか。でも大きいと、体育の時　恥ずかしいよな」

「何言ってるの。女の子は、大きくて固いのが好きなんだよ」

「そうなの」

「どう？気持ちいい」

「別に　どうってことないけどな」

「じゃ、もう少し、力入れてみるかな」

▽吉賀、小村の陰茎を握る力を強め扱きだす

Copyright©2026 D³S

吉賀　「どう」

小村　「あ、気持ちいいかも」

吉賀　「オッケー」

▽吉賀、小村の陰茎を激しく扱きだす

小村　「あ、あ、ちょっと、ちょっと」

▽小村、悶え声が続く

小村　「あ、や、やばい　射精しそう」

▽小村、膝がピンと伸びたり、お尻をなん度も浮かす

「あ、あ、射精、射精する、する」

▽吉賀、トランクスから手をだす

▽小村、足を開いたり閉じたり

Copyright@2026 D³S

小村　「あ、あ、あ、あ、あ　射精、射精、出る、出る、で、で　うっ」

▽吉賀、小村のトランクスの中から手をだす
　吉賀の手には、小村の精液が付いている

吉賀　▽吉賀、精液の着いた手を、小村に見せる

吉賀　「いっちゃたね」

小村　「どうだった」

吉賀　「うん気持ちよかった」

小村　「で、やり方は　わかった？」

吉賀　「うん、なんとなく」

小村　「じゃ、次は、自分でやってみようよ」

吉賀　「ちょっと　まって、休憩させて」

小村　「賢者タイムだね」

Copyright@2026

小村　「賢者ダイムってなんだよ」

吉賀　「射精したあとの、休息時間のこと」

小村　「そんな言葉があるんだ」

吉賀　「あ、でも、シャワーを浴びてきたほうがいいよ。タオルとかは、いつものところにあるから、勝手に使って」

▽吉賀、ティッシュを使って、手について精液を拭いている

小村　「いつも　悪いな」

吉賀　「大丈夫。着替えはいつもの引き出しにあるから。パンツも洗濯機に入れておいて」

小村　「じゃ、ちょっとシャワー浴びてくるよ」

▽小村、吉賀の部屋から出て行く

（数分後）

Copyright©2026 D³S

▽小村　吉賀の部屋に戻ってくる
　　上半身裸で、下は黒のボクサーブリーフ
▽小村、リビングの床に座る

吉賀　「しかし、たくさん出たね。一週間ぶりくらいかな」

小村　「この前　夢精したのは一ヶ月前くらいかな」

吉賀　「え、一ヶ月も抜いてないの。僕なら　死んじゃうな」

小村　「そんな大げさだよ」

吉賀　「まじだよ。健全な高校生男子は、毎日一回は出してるって」

小村　「信じられないや」

吉賀　「大丈夫、小村君も、自分でできるようになったら、毎日できるから」

小村　「はい、先生　よろしお願いします」

吉賀　「じゃ、次は　自分でやってみる」

Copyright@2026 D's

小村　「なんか、まだそんな感じじゃないかな」

吉賀　「長い賢者タイムだね。じゃ、文明の力を使うか」

小村　「文明の力？」

▽吉賀、部屋の角から引き出しを開けて何かをもってくる

▽吉賀、ピンク色の長い棒のようなものを小村に見せる

吉賀　「これさ」

小村　「何？それ。」

吉賀　「バイブレーター」

小村　「バイブレーターって？肩こりに使うやつだろ？」

吉賀　「一般的には、そういう目的で売られているけどね。実際は、こうやって使うんだよ。」

Copyright@2026 D's

▽吉賀、スイッチを入れる

〝ブーーーーーーーーーン〟

▽吉賀、バイブレーターの振動している部分を、小村のボクサーブリーフに当てる

▽小村、反射的にバイブレーターを手で払いのける

小村「なにすんの」

吉賀「いいから、いいから」

▽吉賀、小村の陰茎の先にバイブレーターを充てる

小村「気持ち悪いよ」

吉賀「ちょっとだけ　がまん　がまん」

吉賀「最初は痛いと思うかもしれないけど、少し我慢してね。」

▽小村、黙って上を向いている

Copyright@2026 D³S

吉賀　「起ってきてるけど、どう」

小村　「うん。ちょっと気持ちいいかも」

▽小村、足を広げる

小村　「あ、あつ、あ、あ、あ、あ」

▽小村、腰を振り出す

吉賀　「結構、いい感じね」

▽小村、床に腰を付けて、上半身を起こし、自分のボクサーブリーフにバイブレーターを当てられているところを見ている

吉賀　「ちょっと強くしてみよう」

▽吉賀、バイブレーターのスイッチを“強”に変える

小村　「あっ、あ、あ、あ、、あ」

▽小村、上を見上げながら、腰を上下に振り出す

Copyright@2026 D³S

吉賀　「気持ちいい」

小村　「う、うん」

▽小村、足を開いたり、閉じたり

小村　「あ、あ、あ、あ、あ、タンマ、タンマ、射精、射精しそう」

▽小村、吉賀の手をどけようとする

▽吉賀、片方の手で小村の腕をつかみ　邪魔を阻止する

小村　「あ、あ、も、もう、だめ　射精する、射精する」

小村　「うっ」

▽小村、足がピンとはり腹筋に力が入る

＃小村のボクサーブリーフから精液がしみ出してくる

吉賀　「二回目　いっちゃったね」

Copyright@2026 D³S

吉賀　▽小村、自分の下半身を見る

小村　「どうだった」

吉賀　「最高に気持ちよかった」

小村　「じゃ、これは、小村君にあげるよ。これで、安心だね
合宿に行く前に、2、3回　出しておけばいいと思うよ」

吉賀　「いいのか、こんな素敵なものを俺にくれるのか？」

小村　「大丈夫、家には　沢山あるから」

吉賀　「ありがどう。親友よ」

小村　「また、シャワー浴びておいでよ」

吉賀　「了解」

小村　▽小村　シャワーを浴びる為に部屋を出る

Copyright©2026 D³S

あらすじ

美優
松子
美優
松子

□第三幕　～ハッピーな期末試験～

期末試験となり、美優、松子、小村の三人は、吉賀の家で試験勉強をすることにしました。

○（土曜日にの昼間）吉賀のマンションのエレベーターの中
美優が乗っている

▽美優　松子、エレベーターの表示をじっと見ている

「すごいわね。私、タワマンなんか初めて」

「私だって、この前が初めてだったのよ」

「智美　来れなくて残念だったね」

「野球部のマネージャーって、今が、一番忙しいって言ってたわね」

○エレベーターが止まる

▽松子、エレベーターのインターフォンのボタンを押す

Copyright©2026 D³S

松子　「中川です。着いたわ」

吉賀　インターフォンの声「今、あけるね」

〇エレベーターのドアが開く

松子　「さぁ行きましょ」

▽美優　松子、エレベーターから出る
　目の少し前に、大きな扉がある

〇吉賀の家の前

▽吉賀、家の中からドアを開ける
　この時、吉賀は上半身裸で体操服のランニングパンツ姿
　美優、松子、智美が立っている

吉賀　「いらっしゃい」

松子　「おじゃまします」

▽美優　松子、吉賀の姿に　唖然

Copyright@2026 D³S

松子　「どうしたの?吉賀くん　その格好は」

（美優）（なんだ、なんでセミヌードなんだ？　でもカワイイから許す）



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

吉賀　「ごめん。マンションのエアコンが壊れていて修理中らしいんだ
あまりに暑いから、こんな格好してしまって、でも、すぐに着替えるよ。」

松子　「別にいいわよ、そのままで」

美優　「そうそう、水泳の授業で見慣れてるし」

Copyright D's

（美優）　（吉賀は、吉賀でアイドルみたいな体つきでデザートにいいのよ）

吉賀　「じゃ、夕方には直るっていってるから、それまでね」

松子　「うん」

吉賀　「さぁ、入って、入って」

▽吉賀、松子と美優を家に入るように促す

▽美優　松子、家に上がる

広すぎる玄関にあっとうされる美優

〇吉賀家の廊下

吉賀、松子、美優が歩いている

美優　「松子からは聞いていたけど、すごい家ね　想像以上だわ」

吉賀　「そうかな。気にしたことないけど」

（美優）　（いや、気にしろよ。普通じゃないってことを）

Copyright@2026 D's

▽吉賀　松子　美優、廊下を進む
美優は、辺りを見回している

▽吉賀、ドアを開ける

○吉賀家のリビング
先に来ていた小村が、テーブルの前で上半身裸で座っている
小村は派手な色のボクサーブリーフを穿いているが、小村は座っているので
美優たちは気づいていない

吉賀「さぁ　入って」

小村「いらっしゃい。待ってたよ」

松子「小村君、昨日ぶり」

▽美優、美優が部屋に入る

▽小村、美優を見る

小村「よ、夢前」

Copyright@2026 D³S

美優　「待たせて　ごめんね」

▽美優　上半身裸の小村を見る

（美優）（わ、やっぱり裸だ。ラッキー　小村君のビーチクが堂々と見れる）

小村　「暑くてこんな格好でごめん。エアコン修理中で、暑くてさ」

美優　「大丈夫、さっき、吉賀君から聞いたわ」

小村　「嫌だったら、言ってくれよ」

美優　「嫌だなんて、ねぇ　松子」

松子　「美優ったら、私に振らないでよ。大丈夫よ小村君」

吉賀　「さぁ　座って」

▽松子　手にもっていた紙袋を吉賀に差し出す

松子　「吉賀君、クッキー焼いてきたから休憩の時食べましょ」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「ありがとう　中川さん」

小村　「サンキュー　中川」

松子　「ふふ、クッキーが一番簡単で得意なのよ」

小村　「さすが、中川　家庭的だな」

美優　「あら、家庭でなくて　ゴメンね」

吉賀　「まぁまぁ、夢前さんは、壊滅的だからいいじゃない」

▽美優、吉賀の背中を叩く

吉賀　「痛い」

美優　「もう、そんなに強く叩いてないわよ」

小村　「ほらほら、吉賀を壊滅させようとしてる」

吉賀　「言った通りじゃん。さぁ、座って座って」

Copyright@2026 D³S

＃床に置いてある座布団の上に座る

▽吉賀　小村の横に座る

▽美優　小村の対面に座る

▽松子　吉賀の対面に座る

松子「もう、勉強　始めてたの」

吉賀「うーうん。そろそろしよっかなって所だったの」

松子「そう」

吉賀「それに小村君は、急いで自転車で来たから、めっちゃ汗を掻いてて、さっきまで一緒にシャワー浴びてたんだもんね」

小村「吉賀が、シャワーを浴びろって　うるさいからじゃないか」

吉賀「えー　僕、汗臭いのって、嫌だもんな。中川さんだって、嫌でしょ」

Copyright©2026 D³S

松子　「そうね。男の子だって、清潔が一番ね」

（美優）　（いや、松子　突っ込む場所は、そこじゃなくて、なんで、男同士でシャワーを浴びてるところだろ）

吉賀　「ほら、中川さんだって言ってる」

松子　「二人が仲のよいのは知ってるわよ。そんなことより、始めましょ」

吉賀　「そうだね。じゃ、何からしようか」

美優　「やっぱり、一番　苦手な英語かな」

松子　「そうね。せっかく吉賀君がいるから英語からしましょか」

▽勉強を始める四人

（一時間くらい経過）

▽美優、両腕を上げて身体を伸ばす

美優　「あぁ、疲れた」

Copyright@2026 D³S

松子　「そろそろ、休憩にしない」

美優　「そうしよ　そうしよ」

小村　「一番　疲れてなさそうな夢前が言うなよ」

美優　「私の　この小さな脳みそでは、もう、いっぱい、いっぱいなの」

松子　「そうよね。美優、だいぶん進んだんじゃない」

美優　「さすが、松子　分かってる」

吉賀　「じゃな、何か飲み物取ってくるよ」

▽吉賀、立ち上がる

松子　「手伝うわ」

▽松子、立ち上がろうとする

吉賀　「飲み物は重たいから小村君に手伝ってもらうよ。女子は　待ってて」

Copyright@2026 D³S

松子

吉賀

小村

「そう　ありがとう」

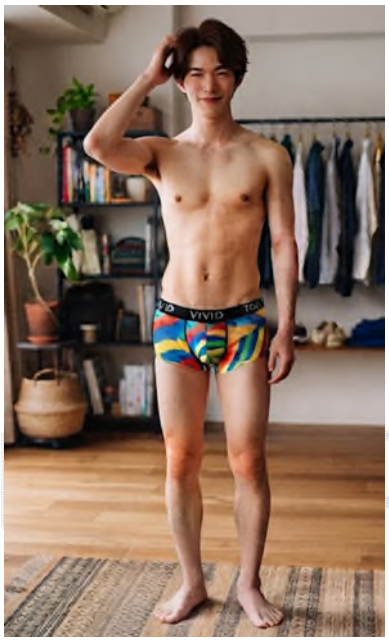
▽松子、座る

「じゃ、小村君　お願い」

「おっけー」

▽小村　立ち上がる

小村　派手なボクサーブリーフを履いている



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

C©2026 D³S

（美優）

松子

美優

吉賀

松子

美優

▽美優　松子、小村のボクサーブリーフに注目

（わ！　なに、小村君のパンツ！）

▽小村　吉賀、部屋から出る

「ねぇ、小村君のパンツ見た。あんな趣味だったんだ」

「うん、意外だったわ」

▽吉賀　小村、部屋に戻ってくる

吉賀、松子がもってきたクッキーをお盆の上に乗せて持っている

小村、お盆にジュースの入ったグラスを乗せて持ってきている

「お待たせ。何　話してたの」

「美優が、小村くんのパンツ　派手だなって」

▽美優、慌てる

「言ってない、言ってないって」

Copyright@2026 D³S

松子　「冗談よ。美優たら慌てて面白い」

美優　「もう、松子」

＃吉賀、小村は立ったまま＃

吉賀　「でも、僕もそう思うよ」

小村　「おい、吉賀、何言ってるんだ。このパンツは、吉賀が貸してくれたやつだろ」

吉賀　「あ、そっか。僕のやつだった」

（美優）（何～、男にパンツをプレゼントか？　変態か？
しかも、女心をくすぐるデザインやし）

松子　「なんだ、それじゃ吉賀くんの趣味じゃない」

（美優）（いや、松子　そこツッコむところが違う）

吉賀　「ねぇ、このパンツ　小村君に似合ってると思わない。
小村君に穿いてもらおうと思って、デパートから取り寄せたんだ」

Copyright@2026 D³S

松子　「そうね。小村君、もともとモデル体系でスタイルいいから、似合ってるわよ」

（美優）　（だから、そこじゃないって。なんで、小村君を想像して買うんだって）

小村　「おいおい、そんなことないよ」

松子　「美優、どう？」

美優　「わ、私も、似合ってるって思うけど」

（美優）　（確かに、もっこり具合は最高なのよね）

小村　「そうかな。ありがとう」

吉賀　「だったら、僕のセンスも褒めてほしいな」

松子　「うんうん。吉賀君のおしゃれセンスは最高よね」

吉賀　「やった　褒められちゃった」

▽小村、お盆をもったまま、立っている

Copyright©2026 D³S

小村　「それより、机の上　どけてくれよ。置けなくて困ってるぞ」

松子　「ごめんなさい。片付けるわ」

（美優）　（ち、座ったら、もっこりが見えなくなるじゃない）

吉賀　「小村くん、ちょっとストップ」

小村　「何？」

▽　吉賀、小村のボクサーブリーフの裾に手を指を入れてすぐに離す

小村　「おい、こら、吉賀　何するんだ」

吉賀　「ちょっと、毛がはみ出してたから」

（美優）　（なに、吉賀、げ、こいつ小村君の触ってるよ。チクショーうらやましいぞ。私も、男に産まれればよかったいかん、それじゃ変態おやじだ）

小村　「サンキュー」

Copyright©2026 D³S

（美優）　（なにがサンキューだ。言われなきゃ気がつかないって）

松子　「吉賀君って、すごく気が利くのね」

（美優）　（いや、松子　それも違うって）

吉賀　「僕って、なんかそういうところ気になっちゃうんだよね
やっぱり、レディの前だと身だしなみって大事じゃない」

松子　「さすがだわ」

（美優）　（松子　頼むから吉賀の洗脳から解放されて）

▽小村、お盆を置き、自分の場所に座る

＃休憩している四人＃

○エアコンが直る
　機械の音

〝パッチン〟
〝スゥ～〟

Copyright@2016 D³S

吉賀　「あ、エアコンが動き出した。直ったんだね。
風邪をひくといけないから、小村君　服着ようっか」

（美優）　（ずっと、あのままで　よかったのに）

○（夕方）吉賀のマンションの下で
美優、松子、小村、吉賀がいる
小村は自転車を持っている

美優　「今日は楽しかった」

小村　「夢前は、半分くらい遊んでたもんな」

美優　「いいんじゃないの　試験は明後日なんだし
今日は試験前の息抜きだと思えば」

松子　「智美　来れなくて残念ね」

吉賀　「そうだね。次は、高谷さんも一緒に来てほしいね」

松子　「そうね　次はの時は、絶対　智美を連れてくるわ」

Copyright@2026 D's

小村　▽小村、自転車にまたがる

美優　▽小村、美優に合図する

小村　「夢前は、送ってやるから乗りなよ」

美優　「今日は松子と電車で帰るわ」

小村　「そうか。やっぱ　そうだよな」

松子　「あら、私は、一人で帰れるから大丈夫よ」

美優　「いいわよ。一緒に帰りましょうよ。」

吉賀　「じゃ、中川さんは僕が駅まで送るよ」

小村　「お、吉賀、いいとこあるじゃん」

美優　「そうね、吉賀君にお願いしようかしら」

松子　「美優、ごめんね」

Copyright@2026 D³S

美優　「いいのよ。ガンバ松子」

松子　「もう、美優ったら」

▽美優、小村の方を見る

美優　「じゃ、私はお尻が痛くなる　自転車で帰りますか」

小村　「今日は特別に、砂利道　優先で　もっと痛くしてやるからな」

松子　「もう、二人ったら　面白いんだから」

吉賀　「似たもの同士だね」

美優　「止めてよ」

小村　「それは、俺がいうセリフだっちゅうの」

松子　「ホント、お似合いだわ」

小村　「それじゃ、帰るか。夢前　乗れよ」

Copyright@2026 D³S

美優　「乗ってください　でしょ」

小村　「はいはい。乗ってください。女王様」

（美優）（女王様　なんて　いい響き）

美優　「じゃ、安全運転でね」

▽美優、小村の自転車の後ろに乗る

美優　「じゃ、松子、吉賀君、またね」

小村　「じゃな。吉賀、中川さんを　ちゃんと送るんだぞ」

松子　「は～い。またね」

吉賀　「うん。任せておいて。じゃ、月曜日ね」

▽小村、自転車を漕ぎ、その場を離れる

▽松子　吉賀、手を振っている

Copyright@2026 D³S

吉賀
松子
吉賀
松子

○小村　美優の乗った自転車が見えなくなる
▽吉賀、松子の方を向く
「じゃ、中川さん　駅まで行こうか」
「ありがとう。でも、一人で帰れるわよ」
「小村君に、ちゃんと送るって言ったからダメだよ」
「そうね。じゃ、お願いするわ」
▽松子　吉賀、駅に向かって歩き出す
○駅までの道のり
　松子、吉賀が話ながら歩いている

松子
「勉強ってみんなですると、こんなに捗らないものなのね」

吉賀
「中川さんも、そう思ってた？　じつは僕も」

Copyright@2026 D's

松子「やっぱり勉強は一人でするものなのかしら」

吉賀「そうかな。試験で一問　間違えるくらいなら、今日みたいな時間は合った方がいいかな」

松子「そうね。私もそう思うわ。テストで百点取るのと、みんなで過ごす時間どっちがいいかって聞かれたら、みんなと一緒に過ごしたいって答えるわ。それに・・・」

吉賀「それに？」

松子「吉賀君と　一緒に居れたんですもの」

吉賀「僕といると　いいの」

松子「どうしてか判らないけど、吉賀君と　ずっといたいの」

▽吉賀、松子の手を繋ぐ

▽松子、吉賀の手を握り返す

▽吉賀　松子、手を繋いで駅の道のりを歩く

Copyr Ight@2026 D³S

松子　○駅の改札

▽松子、改札を通る

▽吉賀、改札の反対側にいる

松子　「じゃ、月曜日ね
そうそう、私、吉賀君が小村君のを触った時に嫉妬しちゃったわよ」

吉賀　「ごめん」

松子　「うそうそ、気にしてないって」

○自転車に乗ってる美優と小村

美優　「ねね、ここは彼女の専用席でしょ」

小村　「彼女？　いないよ」

吉賀　「さっきまで居たじゃない。色の白い帰国子女」

Copyright@2026 D³S

小村　「吉賀かよ。まあ、夢前より女らしいけどな」

美優　「その一言、レッドカード」

小村　「こうして、夢前を乗せるのって久しぶりだな」

美優　「そうね」

▽美優、小村の背中に顔をもたれる

美優　「こうしていると、気持ちいいわ」

Copyright@2026 D3S

第八話

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

夢雄　美侶

Copyright © 2026 D³S

サブタイトル　「待ちに待った夏休みなのだ」

あらすじ

高校生活　はじめての夏休み
松子の提案で、松子のおばぁちゃんの家に行くことになります
そこで、巻き起こるエロティックファンタジー

Copyright@2026 D³S

□第一幕　～夏休み　前編　～

○（休み時間）一年二組教室
　期末試験も終わり、緊張感のなくなった一年二組の教室

○美優の席の周り
　美優、智美、松子が話をしている

「あぁ、相変わらず、松子が一番ね。そして、吉賀君が二番かまぁ、美優よりは上だから　いいけど」

智美

「何それ～。私だって順位上がってるんだから」

美優

▽吉賀、振り向く

「夢前さん、試験勉強がんばったもんね」

吉賀

「ありがとう。吉賀君は、いじわる智美と違って優しいわ」

美優

「来週から高校生活始まって初めての夏休みか。
みんなと会えなくなるの寂しいわ」

松子

Copyright@2026 D³S

美優　「まぁ、私と智美は部活があるから、会えるけど、松子にはなかなか会えないよね」

松子　「ほんと　寂しいわ。」

智美　「大丈夫よ、ツナーグですぐ会話できるから、会いたくなったらいつでも連絡してちょうだい」

松子　「ありがとう。そうするわ。ところで、みんなは、予定あるの」

智美　「部活しかないわ」

美優　「私もそうね。家族で旅行とかも行かないし」

松子　「じゃ、せっかくの夏休み、みんなで海に行かない？」

美優　「海？」

松子　「そう、海に泳ぎに行かない」

智美　「いいわね。でも、どこの海？」

Copyright@2026 D³S

松子　「日本海に私のおばあちゃん家があるの。とっても海が近いのよ。どうかしら」

智美　「そんなの、松子のおばあちゃんに迷惑がかかるわよ」

松子　「大丈夫よ。おばぁちゃん、独りで住んでるから、みんなで行けば喜んでくれるわ」

智美　「本当にいいの？」

松子　「いいわよ。古い家だけど、部屋もたくさんあるし、みんなで行こうよ」

美優　「いいわね。海なんて、幼稚園の頃いったきりだわ」

智美　「私も、日焼ける場所は避けてたもんね」

松子　「智美、日焼けする場所嫌い？」

智美　「大丈夫よ。今のサンスクリーンは、優秀なんだから」

（美優）（サンスクリーンってなんだよ。日焼け止めって言えよ）

美優　「よっし決まった。女同士で海だぁあ」

Copyright@2026 D³S

松子　▽松子、吉賀に声をかける

（美優・智美）「ねぇ、私たち三人、夏休みに海に行くの。吉賀君達も　一緒に行かない？」

吉賀　（え？）

松子　「いいの」

（美優・智美）「ええ。女の子三人じゃ、心細いもの。男子がいてくれたら安心よ」

吉賀　「じゃ、小村君にも声をかけてみるね」

松子　「もちろん。じゃ、決まりね」

（美優・智美）（まさか、松子、それが目当てで・・・）

吉賀　「でも、女の子三人で、男二人か」

松子　「そうね。もう一人男の子いないかな」

▽吉賀、前を見る

Copyright@2026 D³S

松村が座って本を読んでいる

▽吉賀　前の席の松村の肩を叩く

吉賀　「ねぇ松村君」

▽松村、振り向いて吉賀を見る

松村　「何」

吉賀　「夏休みに　みんなで、海に行く計画なんだけど、一緒に行かない？」

松村　「僕は、いいよ」

吉賀　「どうして、ねぇ。行こうよ」

松村　「いや、いいよ」

（美優）　（よりによって、松村に声かけるなんて）

吉賀　「松村君、水泳得意だからさ、泳ぎ方教えてよ」

Copyright©2026 D³S

松村　「そんなことないよ」

吉賀　「えええ、そんなこと言わないでさ」

▽松子、松村に声をかける

松子　「ねぇ松村君、行きましょうよ」

（美優、智美）（人数合わせなら、誰でもいいんかい）

松村　「でもなぁ」

吉賀　「でもって」

松村　「わかった。そんなに言うなら、行くよ」

吉賀　「じゃ、決まりね。絶対だよ」

（美優）（なに～クラス一の根暗じゃないかぁ・・・
でも、なんか私の勘では、いいことありそうなんだよな。
じっくり品定めしてやるか）

Copyright@2026 D³S

（智美）　（よりによって、あんなオタク小僧を、吉賀め）

吉賀　「いいよね。中川さん」

松子　「もちろんよ」

（松子）　（まぁ吉賀君以外は人数あわせだから、誰でもいいのよね

松子　「じゃ女子は私が連絡係するから男子は吉賀君お願いね」

吉賀　「おっけぇ」

○（その日の帰宅後）美優の家　玄関

美優　「ただいま」

母　「お帰り、美優」

▽美優　階段をあがり姉の部屋に

○（同）姉の部屋

Copyright@2026 D³S

美優　「今日の特集はっと・・・なになに」

”男はパイズリが大好き”

美優　「私もピザパイ好きだもんね」

美優　「ピザに頬ずりするなんて、男ってそんなに好きなんだ」

美優　「ぎょえー」

美優　「おっぱいで挟んでるよ」

美優　「おおおお。すげぇ」

美優　太めのマジックを　胸に挟みちょっと寄せてみる

美優　「小村君、こんなので　喜ぶのかしら?」

〇（夕食）夢前家

ダイニングで食事をしている

美優　「夏休み、みんなで海に行く計画してるんだけど、行っていい」

Copyright@2026 D³S

母　「だれと行くの」

美優　「松子と、智美と、あと、クラスの男の子」

母　「え？　男の子達と海に泊まりに？」

美優　「うん」

母　「大丈夫なの？」

美優　「平気平気。泊まるのは松子のおばあちゃん家だし」

母　「松子ちゃんの　おばあちゃ家なの」

美優　「そうよ。だから、男子も変なことできないって」

母　「そうよね、松子ちゃんだったら安心よね」

（美優）　（いや　その松子が一番　危険なんだけど）

姉　「でもさ、男の子って、今が一番危ない時期よ」

Copyright@2026 D³S

美優　「大丈夫だよ。変なこと、するような男の子らじゃないわよ」

姉　「そうね、美優の場合、男の子らの方が、危険ね」

美優　「どういう意味よ」

母　「まぁ、いいわ、行ってらっしゃい。お世話になる　松子ちゃんのおばあちゃんに、何かお土産もっていかなくちゃね」

美優　「はぁい」

Copyright@2026 D's

美優

□第二幕　　夏だぜ海だぜ！　膿だぜ！

一学期が、終わり夏休みになった
我らが、エロ乙女３人と、シャイな男３人は
松子のおばあちゃん家に行った。

松子のおばあちゃんの家は、本土から船で１０分くらい乗らなくては着けない、小さな島にある。
船着き場から、真っ直ぐに、石畳の階段を上がり、登り切った所を、少し歩くと、大きな屋根の古民家がそうだ。

〇快晴の夏休み

〇電車の中
　美優　松子　智美　四人がけ椅子に座って会話している
　反対側の四人席に　小村　吉賀　松村　が座っている

▽美優、窓から海を見る

「みんな　海よ。綺麗」

Copyright©2026 D's

智美　「わ。日本海って綺麗って聞いていたけど、想像以上ね」

▽小村、女子の席の方にきて景色を見る

小村　「ほんとうだ。真っ青だ」

○駅からおばあちゃんの家までの道のり
　美優、松子、智美、小村、吉賀、松村　歩いていいる

吉賀　「やっぱりタクシーにすればよかったかな」

松子　「そうね。三十分くらいで着くと思ってたんだけど」

智美　「松子、三十分でもきついよ」

○松子のおばあちゃんの家の前
　軽トラが止まっている

小村　「ありがとうございます」

松村　「助かりました」

Copyright@2026 D³S

おじさん　「いんやいいんよ。中川さんとこのお孫さんなんだね」

松子　「はい。ありがとうございました」

#軽トラ　去っていく#

▽松子、土間に入る

松子　「おばあちゃん、こんにちは」

▽松子のおばあちゃん、奥から出てくる

おばあちゃん　「はい、こんにちは。松子ちゃん、いらっしゃい」

▽智美　美優、吉賀　小村　松村、土間に入っていく

智美　「お世話になります」

美優　「よろしくお願いします」

お婆ちゃん　「松子のお友達だね。いつも松子と仲良くしてくれてありがとうね
さぁ、入って入って」

Copyright@2026 D³S

小村　「おじゃましまぁす」

○（同）囲炉裏のある部屋
　囲炉裏を囲って座っている

吉賀　「すごい、本物の爐だ」

松子　「そうよ。ご飯はここで食べるのよ」

智美　「楽しみだわ」

▽おばぁちゃん、お茶を運んでくる

智美　「お構いなく」

松子　「おばあちゃん、いつもの部屋使うわね」

おばぁちゃん　「さっき　掃除しておいたから、自由に使ってね」

松子　「ありがとう。みんな　こっちよ」

Copyright@2026 D³S

松子
智美

▽松子、立ち上がる

▽智美　美優　小村　松村　吉賀、立ち上がり、松子についていく

＃板張りの廊下を歩き、部屋の前につく＃

「男の子達はこの部屋を使って。
私達は、廊下を挟んで反対側の部屋よ」

「じゃ　早く　着替えて海に行きましょうよ」

★☆★参考のページ★☆★

ここで出てくる、小村と吉賀男の水着ですが、
DIESEL のベリーショートボクサーという商品で、
小村が穿いているのは、青、水色、白の横縞の
吉賀は穿いているのは、と、赤、黒、グレーの横縞のやつです。
ちなみに、松村が穿いているのは、同じ、DIESEL の
ショートボックストランクス白で、スクール水着のような生地ので
モ〇コリが結構わかってしまいます。
ネットで〝ディーゼル　海パン〟で検索してみてね。

Copyright@2026 D³S

★☆★参考のページ　おわり★☆★

○（同）家の前

▽小村　吉賀　松村　待っている

小村　レジャーシート、飲食する物が入った　カバンを持っている

吉賀　松村　おばぁちゃんの家にあった、ビーチパラソルやフロートを積んだカートを持っている

小村　上半身は裸　短めのサーフトランクスに白のパーカーを羽織っている

吉賀　上半身は裸　短めのサーブトランクスに白のパーカーを羽織っている

松村　上半身はTシャツ　下は白のサーフトランクス

▽美優　智美　松子　古民家から出てきて、男子を見る

美優　緑のワンピースの水着に蛍光色のパーカーを羽織っている

智美　水色のセパレートに、ピンクのパーカーを羽織っている

松子　花柄のワンピースに、白のパーカーを羽織っている

それ以外にも、自分達が持参して荷物が入ったカバンをさげている

Copyright©2023 D³S

智美

松子

智美

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



「ねぇ見て見て、男の子達の水着」

「いつも学校で穿いてるのと違うのね」

「小村君と、吉賀君の水着、めっちゃ短いわね。しかもお揃いだし」。

Copyright

（美優）

松子　（あいつら、露出狂か？　それとも、私たちより足が細いのを自慢したいのか）

▽美優　智美　松子、男子の側にいく

吉賀　「お待たせ」

智美　「大丈夫、全然まってないから」

「荷物は持った」

▽小村、カバンをみせる

小村　「大丈夫」

松子　「じゃ、出発よ」

〇砂浜までの道のり

一列目：松子と吉賀

二列目：智美と松村

三列目：美優と小村

小村は、カートを引いている

Copyright@2026 D³S

（美優）

松子　▽美優、前を歩いている松村のお尻を見る

吉賀　（しかし松村って、幼い顔してるけど、良い尻をしてるよな。なんとなく肩幅もあるし、胸も厚そうだ）

松子　▽松子、横の吉賀に話かける

小村　「ねぇ、吉賀君と小村君の水着ってお揃いなのね」

松子　「そうだよ。色違いなの。一緒に買いにいったんだよね」

吉賀　「男の子同士でも服を買いにいくんだ」

「いうか、俺は買う気なかったんだけど、店員がひつこくってさ」

▽吉賀、ニヤニヤする

松子　「吉賀くん、何、その変な顔」

吉賀　「小村君、その店員さんに、エッチなことされたんだよね」

Copyright©2026 D's

松子　「エッチな事って？」

智美　「何、何、気になる」

Copyright@2026 D³S

□第三幕（回想）海パンを買うぞ

←＃　回想　＃←　小村と吉賀が海パンを買いにいって

〇（1週間前の日曜日）メンスファッションのショップの中

▽吉賀、小村　水着を見ている

▽小村、水着の値札を見て驚く

小村「おい、吉賀、この店　高そうだぞ」

吉賀「いいの　僕のお気に入りのブランドだから」

小村「いや、これは高校生の買うものじゃないだろ」

吉賀「大げさだな。今の高校生、これくらいお金かけれてるよ」

小村「そうなのか」

▽吉賀、畳まれていた海パンを数枚取り、ショーケースの上に広げる

Copyright@2026 D³S

吉賀　「どれが　いいと思う？」

小村　「俺、こう言うことに　疎いんだよな」

吉賀　「だめだよ。女の子も来るんだから。健ちゃんもおしゃれしなきゃ」

小村　「別にいいよ。なんだって」

▽店長、近づいてくる

店長　「いつもありがとうございます。今日は、スイムウェアをお探し？」

▽店長、男だが、華奢な体型で、金髪で、派手なネイルをしている
　そして　クネクネし、両手のリアクションが大きい

吉賀　「そうなの。今年の最新のモデルはある？」

店長　「えぇ、ちょっと待ってね」

▽店長、ハンガーにかかった水着を三枚ほど選んで持ってくる

Copyright@2026 D³S

店長

「そうね、今年のモデルは　これね。
吉賀ちゃんに　似合うのは　こっちね」

▽店長、吉賀に　水着を見せる



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

▽吉賀、自分の体にあてみる

「とても可愛いいわよ」

店長

Copyright © D'S

吉賀　「うん。僕もそう思う。小村君はどう？」

小村　「ちょっと　短すぎないか？」

店長　「見えるか、見えないか　っていうのがいいのよ」

吉賀　「ちょっと試着してみるね」

▽吉賀、店員から水着を受け取り試着室に入る

▽店長、小村の全身を見る

（店長）　（あら、この子　私の好みだわ）

▽店長、小村に話しかける

店長　「さてと、あなたは、どんな水着が似合うかしら？」

小村　「あ、俺は付き添いですから」

店長　「そう？　可愛いのに残念だわ」

Copyright@2026 D's

（小村）

吉賀　（何が残念なんだか・・・）

小村　▽吉賀、試着室のカーテンを開ける

吉賀　「ねぇ、小村君、どう？」

小村　▽吉賀、上半身裸で海パンだけの姿

吉賀　「吉賀、なんで、上まで脱ぐんだよ」

店長　「だって、この方がわかりやすいじゃん」

吉賀　「すてき！　とっても似合ってるわ」

小村　「小村君は」

吉賀　「うーん、いいんじゃないかな」

店長　「ちょっと、しゃがんでみて」

▽吉賀、しゃがむ

Copyright@2026 D³S

店長　「素敵　ほら、もっこりがすごいでしょ」

吉賀　「あ、本当だ」

店長　「吉賀ちゃん、おおきいから　とてもいいわ」

吉賀　▽店長、クネクネしてる

「じゃ、これにしよっかな」

▽吉賀、試着室に入り　カーテンを閉めた

（数分後）

▽吉賀、試着室から出てくる

吉賀　「ねぇ、小村君も買えば？」

小村　「いいよ。だって、ここ高いし」

店長　「そんなこと言わないで。

Copyright@2026 D'S

（小村）　買わなくたっていいから、試着して私を喜ばせてよ」

（なぜ、喜ぶ）

吉賀　「そうだよ。高くても気に入ったの着たほうがいいよ」

小村　「そんなに言うなら　じゃ、試着だけだよ」

店長　「ちょっと待ってね」

▽店員、一枚水着を取ってくる

店長　「彼と色違いよ。穿いてみて」

▽小村、水着を渡され、試着室に入る

▽小村、海パンを試着する

（数分後）

店長　「どうかしら」

Copyright@2026 D3S

吉賀　▽小村、カーテンを開ける
　　下は海パンだが、上はTシャツを着たまま
小村　「小村君、ダメだよ、Tシャツも脱いで」
吉賀　「Tシャツは関係ないって」
店長　「だめだめ、体の色とかも関係するんだから」
　　「そうよ、抜いて、抜いて・・・
　　あら？　イヤダ、抜いて　だなんて」
　　▽小村、Tシャツを脱ぐ
　　腹筋の割れた綺麗な上半身がさらけ出される
店長　▽店長、小村の上半身を見る
　　▽店長、小村の胸、腹筋を触り出す
店長　「素敵、なんて、綺麗なおっぱいしてるの」
　　「それに、この青と白のコントラストが、見事に合ってる」

Copyright@2026 D's

小村　「そうかな？」

吉賀　「うん　似合ってる。買った方がいいよ」

▽小村、水着の値札を見る

小村　「１万２千円・・・　こりゃ高すぎるよ」

吉賀　「えええええ、残念だなぁ。絶対、小村君の為の水着なんだけどな。

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



Copyright©

でしょ　店長」

店長「そうよ、似合ってるわよ」

小村「でも、そんなお金ないし」

店長「これだけ似合ってるのに、どうしたものかしら」

▽店長、腕を組んで考える

店長「いいこと、ちょっと　大人しくしててちょうだい」

▽店長、試着室に入る

▽店長、カーテンを閉める

小村「え、なに　なに」

店長「いいから、静かに」

▽店長、小村の乳首を舐め始める

Copyright©2026 D³S

小村　「あ、だめですよ」

店長　「シッ、他の店員に聞かれるわよ」

▽店長、小村の穿いている海パンに手をつっこむ



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

小村　「あっ」

Copyright 6 D³S

小村　▽店長、ゆっくりと　小村の陰茎を揉み出す

店長　▽小村、小声で

店長　「ダメです。止めてください」

店長　「いいから、黙って」

店長　「若い子っていいわねぇ。もう、こんなになって」

小村　「や、やめてください。そんなことしたら、出ちゃいます」

店長　「いいわよ。出しても」

小村　「あ、本当に、出る、出る」

小村　「あっ」

小村　▽店長、海パンから手を出し、手に付いているものを舐める

「うぅっ」

Copyright©2026 D³S

店長
小村
店長

▽店長、小村の海パンの中を見る

「あら？　こんなの商品にならないじゃない。もうお金は、いらないから、持って帰ってちょうだい」

「え？」

「さ、早く脱いで、袋に入れてあげるから」

Copyright@2026 D³S

吉賀
松子
（美優）
小村
美優
小村
小村
智美

→＃　現在に戻る　＃→
○砂浜までの道のり
「ね、すごいでしょ」
「小村君、貴重な経験したのね」
（松子　そうじゃないって）
「いや、貴重じゃないから」
「でも、１万２千円、儲かったんでしょ」
「まあ　そうだけど」
○砂浜
「着いたぞ」
「きれーい」

Copyright@2026 D³S

美優　「いいなぁ、海がこんなに近いのって」

松子　「そう？　洗濯物が磯臭くなるってお婆ちゃん愚痴ってるわ」

智美　「そんな現実的な話は、しないの」

▽小村、レジャーシートを広げる

▽吉賀　松村、ビーチパラソルを設置

智美　「めっちゃ雰囲気でるぅ」

美優　「うん、海にきたって感じだよね」

▽小村、フロートに空気を入れはじめる

小村　「吉賀、空気入れるの手伝ってくれよ」

吉賀　「おっけー」

（数分後）

Copyright@2026 D³S

智美　▽吉賀、レジャーシートに座りカバンから日焼け止めを取り出す

吉賀　▽吉賀、上に羽織っていたパーカーを脱ぎ　胸に日焼け止めを塗り出す

智美　▽智美、吉賀の塗っている日焼け止めの入れ物を見る

（美優）「ねぇ　吉賀君、その日焼け止めって、二万円もするやつじゃない？」

「多分それくらいだったと思うよ。僕これじゃないと　ヒリヒリするんだ」

「吉賀君の色白って、やっぱり、高いだけのことあるのね」

（ケケケ漂白剤の風呂にでも浸かってるのかと思ってたよ）

智美　「ねぇ、ちょっと使ってみていい？」

吉賀　「どうぞ。どうせ、ワンシーズンしか使えないものだから、余るともったいないもんね。」

智美　「わ、やった、やった」

▽吉賀、智美に日焼け止めクリームを渡す

Copyright©2026 D³S

小村　▽小村、立ち上がり、パーカーを脱ぎレジャーシートの上に置く

吉賀　「吉賀、松村、行こうぜ」

松村　▽小村、海の方に向かう

「僕たちも　行こうか」

「うん。先に行ってて」

▽吉賀、立ち上がり　小村を追いかける

▽吉賀　小村、海の中に入っていく

吉賀　▽小村、吉賀に水をかける

「冷たいよ」

美優　▽美優、二人を見ている

「子供だよね」

Copyright@2026 D'S

松子

「何言ってるの。私たちも　まだ　子供よ」

▽松村　立ち上がり、下に穿いている白のサーフトランクスを脱ぐ
脱ぐと、下には横に赤のラインの入った真っ白の競泳パンツを穿いてる
さらに、上に着ているTシャツを脱いだ
幼い顔からは想像できない、無駄な脂肪がまったくない、筋肉質の
肉体が現れる

▽松村、振り返り、カバンからゴーグルを出そうとする
振り返った瞬間　女子の目に松村の体に目が止まる

▽美優　智美　松子、絶句

▽松村、メガネを外し、ゴーグルを首にかける

▽美優　智美　松子、メガネを外した松村の素顔にさらに驚く

（なに、なに、反則級のラスボスが出てきた感じじゃん）

▽松村、女子に見られていることに気づく

（美優）

Copyright©2020 D's

松村　「高谷さん、どうかした」

智美　「松村君のメガネしてない顔初めて見たから、ちょっと驚いて」

松村　「ムチャクチャ視力が悪い訳じゃないんだけど、水泳にはメガネ使えないから度付きのゴーグルに変えるんだ」

智美　「そんなんだ。でも松村君て、メガネの時と、、無いときで、顔がぜんぜん違うね」

松村　「そうかな」

智美　「うん。メガネ外した方が断然いいよ。コンタクトにするとか」

松村　「ありがとう。でもコンタクトは怖いな」

智美　「え～残念だ」

▽吉賀、海から手をふり松村を呼ぶ

吉賀　「おーい、松村君」

Copyright@2026 D³S

松村　「すぐ行くよ」

松村　「吉賀君たちが呼んでるから」

智美　「いってらっしゃい」

▽松村、海に向かっていく

松子　「ちょっと、松村君の体すごいわね」

美優　「まさに、頭隠して尻隠さずってことだわ」

松子　「いや、合ってないと思うし」

▽智美、海にいる松村を見ている

松子　「智美、どうしたの」

智美　「え、なんでもないわ」

美優　「私たちも　海に入ってみようよ」

Copyright©2026 D³S

智美

「う、うん　そうね」

Copyright@2026 D³S

□第四幕　その夜の出来事

〇（夜）古民家　小村、吉賀、松村の部屋
　部屋にエアコンは無く、扇風機が回っている
　暑いので、小村、吉賀、松村は、上半身裸で過ごしている
　　吉賀　ランニングパンツ
　　小村　バスパン
　　松村　ハーフパンツ

▽吉賀　小村　松村、布団の上で、スマートフォンをいじっている

小村「今日は楽しかったな」

吉賀「そうだね」

松村「ありがとう、連れてきてもらって、よかったよ」

吉賀「松村君にそう言ってもらえて　誘ったかいがあったよ」

小村「しかし、松村って、良い身体してるよな」

吉賀「うんうん。、すごい筋肉だよね。カッコイイよね」

Copyright@2026 ○○'s

松村　「そうかな。僕は小村くんの様に、身長がある方が、うらやましいよ」

小村　「え、そうか。俺は、松村の体がいいな」

吉賀　「小村君、その発言、誤解を招くよ」

小村　「どうして」

吉賀　「いや、なんでもない」

吉賀　「ねね、松村君　ちょっと　触ってもいい？」

松村　「いいよ。でも　それも　誤解を招く発言だね」

吉賀　「でも、松村君になら、誤解されてもいいけど」

　　▽吉賀、松村の胸を手ひらで撫でる

吉賀　「スゴイ！　筋肉が固いよ」

　　▽吉賀、松村の割れた腹筋を撫でる

Copyright@2026 D's

吉賀　「これこれ、憧れちゃうよ」

小村　「なに、吉賀、そんなのに憧れちゃうの。なら、俺のも触ってもいいぞ」

▽小村、吉賀に腹筋を見せつける

吉賀　「さ、そろそろ寝よっか？」

小村　「おいおい、無視するなって」

吉賀　「冗談、冗談。小村君のも羨ましいよ」

小村　「よしよし。許してやる。明日も早いし、寝ようぜ」

吉賀　「うん」

▽小村、部屋の明かりを消す

▽吉賀　小村　松村、布団に入って寝る

Copyright@2026 D³S

（小村）

（一時間経過）

（あ、あつ）

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



Copyright@2026 D³S

（吉賀）　（小村くん　カワイイ）

（吉賀）　（こんなに　なっちゃって）

▽松村、声が聞こえたので、目が覚める
　薄めで、横に寝ている小村の方を見る

▽小村、暗闇の中で腰が上下に動いている
　小村の横で、黒い人影（吉賀が、小村の陰茎を握り、扱いている）

（小村）　（あっ　うぐっ）

（吉賀）　（あぁ、もう、いっちゃた。早いんだから）

Copyright@2020 D³S

第九話

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

夢雄　美侶

Copyright © 2026 D³S

サブタイトル「あぁ夏休みが終わっちゃうのだ」

本話について

あらすじ

夏休みに松子のおばぁちゃんの家にみんなで泊まりにきました
翌日は、さらに　エロエロ土がパワーアップ
最後では、吉賀の秘密が少しだけ判明し、
本シーズンは終了となります。

Copyright@2006 D³S

□第一幕　夏休み　後編

〇（朝）松子の祖母の家

〇小村達が寝ている部屋

▽小村、バスパンの中がヒンヤリしていることに気づき、上半身を起こす

小村「やってしまった」

▽吉賀、体を起こす

▽松村、釣られて起きる

▽小村、自分の穿いているバスパンを見つめている

吉賀「どうしたの小村君」

小村「夢精してしまったよ」

吉賀「どうせエッチな夢を見たんでしょ」

Copyright@2026 D³S

小村　「なんでわかるんだ」

松村　「男が夢精する時って　そんなもんだよ」

小村　「松村も夢精したことあるの」

松村　「いや、僕はないけど」

吉賀　「僕だって　ないよ。それより、パンツ履き替えた方が良いよ」

小村　「そうだな。先に海パンに履き替えておくよ」

吉賀　「ガビガビになるから、パンツは洗っておいたほうがいいよ」

小村　「サンキュー。こんなことならオナニーしとけばよかった」

吉賀　「まぁ、出しっちゃったものは、しょうがないね」

＃小村、パンツを洗って、部屋に干している＃

（一時間後）

Copyright©2026 D³S

美優
松子
小村
美優
智美
吉賀
松子
智美

〇（朝）海に続く道

▽美優　松子　智美　小村　吉賀　松村、歩いている

「今日も　良い天気」

「男の子達は、よく寝れた？」

「めっちゃ　よく寝れたよ。夢前らは」

「もちろん。寝れたわよ」

「ウソウソ。松子の恋ばなで盛り上げって、遅くなったくせに」

「中川さんの恋ばなって興味あるな」

「ないない、なんでもないって」

「こらこら、確信犯みたいな事いうじゃない」

〇海上（吉賀と松村がフロートで浮いている）

Copyright@2026 D³S

▽松村と吉賀　フロートに乗っている
吉賀　海に入り、松村の乗ったフロートを押している
松村　フロートの上でサングラスをかけ、仰向けで寝ている

○砂浜（かなり海に近い場所）
美優と小村が　レジャーシートに座って、話をしている

○砂浜（美優、小村より少し後ろの方）
パラソルの下で、智美　松子　レジャーシートで日光浴しながら話をしている

○小村、美優が座っているレジャーシート

Copyright@2026 D'S

小村　小村

美優　美優

小村　小村

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



「昨日の日焼けでヒリヒリするよ」

「ちゃんと日焼け止め塗らないからよ」

「えぇ持ってるんだったら貸してくれよ」

Copyright@2020 D'S

美優　「しょうがないわね、私の持ってるの貸してあげる」

小村　「え、貸すだけじゃなく、塗ってくれないの」

美優　「嫌よ」

（美優）（え、小村君の素肌に触れていいの）

小村　「そんなこと言わずに、おれ、四十肩だから手が届かないんだよ」

美優　「はいはい　わかりましたよ、おじさん。塗ってあげるから、横になって」

▽小村、レジャーシート俯せで海を見る方向に寝る

（美優）（小村君の背中　綺麗だわ）

美優　「じゃ、はじめるわね」

小村　「よろしく　お願いします」

▽美優、日焼け止めを手の平にとり、小村の背中に塗り始める

Copyright@2026 D³S

智美
美優
小村
松子
美優
小村
智美

○松子、智美が休んでいるレジャーシート
▽智美　サングラスをずらし、美優　小村を見る
「お熱いお二人さん。私たちに見せつけないでくれる」
▽美優、智美の声を聞いて返事する
「ボランティア、ボランティアよ」
「そうそう、俺も、ボランティアだと思ってる」
「似たもの同士で言ってなさい」
▽美優　沖でフロートで浮いている吉賀と松村を見る
「あの二人、仲がいいわね」
「そうだよな。海に誘ったのも吉賀だし」
「そうね。案外、あの二人も似たもの同士かも」

Copyright@2026 D's

（美優）

（うんうん。ショタ同士だからね。なんて卑猥なんだ）

〇海上（吉賀と松村がフロートで浮いている）

松村　フロートにのり、仰向けで寝ている

吉賀　海に入り、松村の乗っているフロートを押している



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

Copyright@2026 D's

吉賀　「松村君、話があるって何」

▽松村、顔を横に向け、吉賀の方を見る

松村　「今朝、小村君　夢精してたよね」

吉賀　「うんうん、僕もビックリだよ」

松村　「僕、見てたんだ。君が　夜中に小村君にしているとこ」

（少し間があく）

吉賀　「そっか、見られてたのか」

松村　「なんで、あんなことしたの？」

吉賀　「なんでだろうね」

松村　「君も、小島君のように、男の子が好きなの」

吉賀　「男の子が好き？僕が、好きなのは、小村君だけだよ。そこを勘違いされたら困るな」

Copyright@2026 D³S

松村　あ、このことは、絶対秘密だよ」

吉賀　「そうなんだ。別に誰にも話す気はないけど」

松村　「僕が、小村君を好きなのは驚かないのかい」

「君が小島君みたいに、手当たり次第、自分より弱そうな男の子にしてるんだったら、ぶん殴ってやろうかと思ってたよ。ちゃんと　君の考え方があるんだね。秘密は絶対守るよ」

吉賀　「案外、理解あるんだね」

松村　「そんなことはないさ。でも、小村君はなんて思ってるの」

吉賀　「小村君は、何も思ってないんじゃ無いかな」

松村　「小村君は男女の関係には　無神経なところあるからね」

吉賀　「松村君も、そう思うかい。あまりにも、知らなすぎて　僕も驚くことが多いよ　でも、それが　ますます　僕が小村君を好きになってる原因かもしれないな」

松村　「吉賀君って、面白いね。こんな　つまらない僕の相手もしてくれるし」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「松村君も、十分　魅力的なんだけどな」

松村　「僕がかい」

吉賀　「だって、小島君に、狙われてるし。あれは、きっと　松村君を
意識してるからだよ」

松村　「それは、言わないでほしいな。僕だって、気持ち悪いものは気持ち悪いんだから」

吉賀　「じゃ、そう言えばいいんじゃない」

松村　「別にいいよ。ライオンが餌の周りを飛んでるハエを気にしないのと一緒さ」

吉賀　「なるほどね」

吉賀　「そういえは、昔　小島君に僕のいくところで興奮してたって言われてたよね
実際は、どうなの」

松村　「そんなこともあったね」

吉賀　「で、本当は」

Copyright@2026 D's

松村　「そんなことあるわけないじゃないか。それに、揉まれると起つのは
しょうがいないだろ」

吉賀　「そっか。残念だな」

松村　「何が」

吉賀　「松村君が話があるっていうから、てっきり　してほしいのかと思ったよ」

松村　「まさか」

吉賀　「じゃ、僕が　松村君をすると、気持ち悪いのかな」

松村　「君なら、気持ち悪い気はしないかもね。少なくとも　あいつよりは」

吉賀　「じゃ、試してみようか」

松村　「冗談はやめてよ」

吉賀　「僕は、冗談じゃないよ、本気だよ
松村君にその気がなくても、僕は、ちょっと興味あるかな」

Copyright@2026 D's

松村　「だって、さっき君は小村君が好きって言ったばかりだよ」

吉賀　「そうだね。でも、ライオンだって、違う肉を食べたりするでしょ」

松村　「前言撤回するよ　君は変わっている」

吉賀　「そうだよ。僕も自分か変なのは認識してるから」

松村　「嫌だって言ったら」

吉賀　「大丈夫。嫌って言わないはずだから」

▽吉賀、フロートを掴んでいる片手を話し、松村の競泳パンツの上から松村の陰茎を揉む

吉賀　「ほら、どうして避けようとしないの」

松村　「いつ、殴ろうかと考えているだけだとしたら」

吉賀　「嘘を言ったらダメだよ。ほら、ここは、もう反応してる。小島君の言ったことは正しいかったんじゃないかな」

Copyright@2026 D's

吉賀

▽松村、目を瞑り上を見ている

「人気のいない場所に行こうか」

▽松村、うなずく

▽吉賀、泳ぎながらフロートを押し、みんなから見えない場所に移動

▽吉賀、フロートを押して砂浜につける

▽吉賀、フロートに乗り込む

▽吉賀、松村の前に

▽吉賀、松村の肩を抱き手を松村の頭に

▽吉賀、村を優しくをフロートの上に寝かせる

❤️←❤️　ＥＲＯ　ＭＯＤＥ　❤️←❤️

Copyright@2026 D³S

松村

〇砂浜に置いたフロートの上
　松村が寝ており、吉賀が覆いかぶさろうとしている
▽吉賀、村の顔をじっとみる
「どうしたの」
▽吉賀、村の顔に近づけていく
▽松村、をつぶる
▽吉賀、村にキスをする

Copyright@2026 D'S

（数秒後）

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



Copyright

松村　▽吉賀、松村から口を離す

吉賀　▽吉賀、競泳水着の上から松村の股間をやさしく触る

「あ、あ、あ、あ」

「カワイイ声だね」

▽吉賀、松村の股間をゆっくりと揉む

松村　「あ、あ、だめ。あ、あ、あ、あ、あ」

▽吉賀、松村の耳元でささやく

吉賀　「僕のも触ってみて」

▽吉賀、松村の手を、自分の股間に誘導する

▽松村、トランクスの上から吉賀の陰茎を揉み出す

吉賀　「あ、あ、、いい、いい、気持ちいい」

Copyright@2026 D³S

吉賀　▽吉賀、松村の陰茎を競泳水着の上から擦る

「気持ちいい」

松村　「うん」

吉賀　「ねぇ、見ていい」

▽松村、うなずく

▽吉賀、松村の海パンを下にずらし、陰茎を取り出す

▽吉賀、松村の陰茎を握り、亀頭の先を見る

吉賀　「ビンビンだね」

▽吉賀、頭を下げ松村の乳首の周りを舐める

松村　「あ、あっ」

▽松村、腹筋に力がはいる

Copyright©2026 D³S

吉賀　「乳首も感じやすいんだね」

松村　「あ、あ、あ、あ、あ、あ」

▽吉賀、松村の腹筋を執拗に舐め廻し、陰茎の根元へ

▽吉賀、松村の大きくなった陰茎を口で咥える

松村　「あっ」

▽吉賀、頭を動かし、松村の陰茎を口で扱く

松村　「あ、あ、あ、あ、い、いきそう、いきそう、い、い、い」

▽吉賀、口から出し、手で、松村の陰茎を激しく扱きだす

松村　「あッ　あ　い、いくっ」

▽松村　体が大きく仰け反る

陰茎の先から、精液が飛び出し、松村の腹筋の上に落ちる

▽吉賀、松村の顔を見る

Copyright©2026 D³S

吉賀

「いけない子だ」

▽吉賀、松村にキスをする

❤️→❤️ ＥＲＯ ＭＯＤＥ ❤️→❤️



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

Copyright@2026 D³S

吉賀　○美優、智美、松子　小村のいる　砂浜
小村　美優　小村　レジャーシートで寝そべっている
美優　松子　智美　レジャーシートで寝そべっている

▽吉賀　松村、フロートを担いで海から戻ってくる

吉賀「沢山泳いで疲れちゃった」

松村「よ。おかえり」

吉賀「途中で見えなくなったから心配しちゃった。
もう少しまって戻ってこなかったら、探しにに行こうかって言ってたのよ」

松子「そうなの。松村くん、そんなに長かったけ」

小村「そんなに経ってないつもりだったんだけど」

吉賀「だめよ。みんな　心配してたんだから」

小村「中川さんまで」

「でも、無事に戻って来たんだから、いいさ　いいさ」

Copyright 2026 DBS

吉賀　「背中が日焼けでヒリヒリするから、やっぱり　大分時間たったのかな」

▽吉賀、顔を背中に向け　その後、みんなに背中を見せる

▽松子、体を起こし　吉賀の背中を見る

松子　「本当。背中が赤いわよ」

吉賀　「そうだ。日焼けに効くローション持ってきてるんだ。小村君、塗ってくれる」

▽小村、松村の方を向く

小村　「おいおい、何が悲しくて、俺が吉賀の背中に塗るんだよ」

吉賀　「いいじゃん」

松子　「私が塗ってあげるわよ」

吉賀　「いいの」

松子　「うん　こっちにきて寝転んでくれる」

Copyright@2026 D's

吉賀　▽松子、自分の寝ているレジャーシートの横を手でたたく

小村　「小村君、悪いけど、中川さんにお願いすることにするよ」

吉賀　「ぜんぜん、悪くないっす」

松村　「そういえば、松村君は大丈夫」

吉賀　「僕は、大丈夫」

「背中を見せて」

▽松村、背中を見せる

吉賀　「背中は大丈夫そうだね。でも前がやばいよ」

▽松村、自分の腹を見る

松子　「ほんとう、松村くんのお腹が、真っ赤じゃない」

吉賀　「松村君も塗った方がいいよ」

Copyright@2026 D's

松村　「いいよ」

吉賀　「せっかく綺麗な肌をしてるのに、シミになるよ」

松村　「いつも、部活で日焼けしてるから気にしてないよ」

吉賀　「誰か塗ってあげれる人いないかな」

▽吉賀、智美の方をみる

▽智美、吉賀に目を合わす

智美　「なに。私が塗ってあげればいいの」

吉賀　「え、そんなの言ってないけど」

智美　「いや、目が　言ってるって」

吉賀　「そうかな」

智美　「いいわよ。松村君も、こっちにきてくれる」

Copyright@2026 D³S

▽吉賀、自分のカバンからローションの瓶を取りだし、
松子の方にいく

▽吉賀、ローションの入った瓶を松子に渡す

吉賀　「じゃ、中川さん　お願い」

松子　「すごい、これも舶来ものじゃない」

吉賀　「日本のは、成分が薄くて効かないんだよね」

松子　「じゃ、背中を上にして寝てくれる」

▽吉賀、レジャーシートに背中を向けて寝転ぶ

▷松子、吉賀の背中を見る

（松子）　（いつみても吉賀君の背中　綺麗だわ）

松子　「じゃ、始めるわね」

Copyright©2026 D's

吉賀　「お願いします」

▽松子、を開け、手のひらにローションを垂らす

松子　「すごい、さらさらして、気持ちいい」

吉賀　「でしょ」

▽松子、のひらを使い、吉賀の背中にローションを塗っていく

Copyright@2026 D³S

智美
松村

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



▽智美　立っている松村に声をかける

「ほら、松村君も、早くこっちに来て」

「やっぱり　僕はいいよ」

Copyright@2020 D'S

智美　「女の子から誘ってるの。恥をかかさないでくれる」

▽松村、智美のレジャーシートに寝転ぶ

▽智美、松村の筋肉の付いた　背筋、背中、腰、太股を見る

（智美）　（近くで見ると、松村君て、筋肉がすごいのね）

智美　「じゃ、はじめるわね」

松村　「お願いします」

▽智美、ローションの瓶を取り、手のひらに垂らす

智美　「わ、なに、この感触。水のようでだけど、すごく軽いわ」

松子　「でしょ、でしょ」

智美　「吉賀君、後で私にも使わせて」

吉賀　「どうぞ。ワンケースで買ってるから、いくらでも使って」

Copyright@2026 D³S

智美　「松子、後で私の背中にも塗ってくれる」

松子　「いいわよ」

（智美）　▽智美、松村の背中にローションを塗り始める

（なに、このゴツゴツとした感触。これが、男の背中なのね）

〇美優と小村がいるレジャーシート

▽美優　後ろを見る

智美、松子が　寝ている男子にを塗っている

（美優）　（なんか、風俗みたいじゃん）

美優　「はい、背中終わったよ」

小村　「サンキュー」

（美優）　（次は、前だ前だ、乳首　もっこり　丸見えだ）

小村　「あ、前は　無理だよな」

Copyright@2026 D³S

美優　「え、別に構わないわよ」

小村　「そうか悪いな」

美優　「サンマだって、表と裏を　焼くでしょ」

小村　「あいかわらず、例えの意味わかんないけど」

（美優）（せっかく　合法で乳首触れるチャンスを逃すなっての）

▽小村、体をひねって表を向く

▽美優、小村の乳首　トランクスの膨らみを見る

（美優）（わーい　小村君のビーチク　小さくてカワイイ）

美優　「じゃ、足からしてあげるわ」

▽美優、足先から塗る

▽美優、ちらっと小村の股間の膨らみを見る

Copyright@2026 D³S

（美優）　（メインディッシュは最後よ）

美優　「小村君の足って大きいのね」

小村　「バスケやってると大きくなるみたいだよ」

美優　「そうなの。トランペットしてると唇が腫れるのと一緒みたいね」

小村　「美優の説明は、確かに合ってるけど
なんとなく、たとえが悪いような気が・・・」

▽美優、小村の太股に塗る

▽美優、小村の太股を大きくゆすってみる
水着の中の陰茎も、揺れる

（美優）　（わぁ。たまんない）

（美優）　（あの中に手を入れて、クチャクチャにこねてみたい！
イヤだ、私、痴女じゃん）

Copyright©2026 D³S

小村　「夢前、どこ見てるの」

美優　「ど、どこって、手よ」

小村　「なんか、俺のチンコみてない」

美優　「み、見てないわよ」

（美優）（す、するどい）

小村　「なら、いいんだ。変なとこ、見せてたら悪いと思って」

（美優）（え、何、見られて興奮してるとかじゃないの）

美優　「じゃ、次は、お腹」

▽美優、村のお腹に塗り出す

Copyright©2026 D³S

（美優）

美優　（小村君の腹筋触るの初めてだわ。固そうに見えて、案外弾力あるのね）

小村　「小村君の腹筋ちゃんと６コに割れてるのね。カッコイイよ」

美優　「いやいや腹筋なら、松村でしょ」

「そうね。私もさっき見たときはびっくりしたわ」

（＃ＡＩによるイメージ画像＃）



Copyright@2020 D'S

小村　「ああ、俺も。あいつ、水泳の授業は　ずっと休んでたもんな」

美優　「私だったら、見せびらかすのにね」

小村　「夢前らしいや」

▽美優、小村の胸の辺りを塗りながら、さりげなく乳首を触る
　小村、膝がビックとなる

（美優）（乳首の感度がいいのね。もう一回）

▽美優、小村の乳首のあたりを集中的に塗り、どさくさに紛れて、
　乳首を触っている

▽小村、乳首に触れられるたびに、ビックンとなっている

（美優）（この　ぷるんってするところ。いいなぁ。）

▽美優　目線を小村の股間にむける
　小村のトランクスがテントを張っている

Copyright@2026 D's

（美優）　（わ、小村君　勃起してる。乳首でこんなに感じちゃうのね）

○松子と吉賀のレジャーシート
　松子は吉賀に、智美は、松村の背中にローションを塗っている

▽松子、吉賀の背中にローションを塗っている

▽智美、松村の背中にローションを塗っている

松子　「はい、背中終わったわ。反対向いてくれる」

吉賀　「了解」

▽吉賀、体を回転させて、仰向けになる

▽松子、吉賀の体をじっと見る

（松子）　（トランクスを穿いてても、吉賀君の大きさがわかるわ）

吉賀　「中川さん　どうしたの」

松子　「つい、吉賀君の肌が綺麗だから、見とれてしまったの」

Copyright@2026 D's

吉賀　「やっぱり、男が肌が綺麗ってのは、どうかな僕は、小村君ぐらいが丁度いいと思うけど」

松子　「小村君だって、十分綺麗な肌してるわよね」

▽小村、吉賀の方から名前が聞こえたので返事

小村　「吉賀　なんか言った」

吉賀　「中川さんが、小村君　カッコイイねって」

小村　「お、中川　ありがとな」

松子　「いいのよ」

▽松子、吉賀を軽くたたく

松子　「もう、吉賀君たら」

吉賀　「ごめんごめん」

Copyright©2026 D's

松子　「じゃ、始めるわよ」

▽松子、手のひらにローションを垂らす

▽智美、松村の腰の辺りにローションを塗っている

▽智美、松村の白い競パンのお尻を見る

（智美）（すごい、引き締まって、なんて、小さなお尻なのかしら）

▽智美、松村の太股にローションを塗る

（智美）（松村君の太股って、すごく太いの。気がつかなかったわ）

智美　「はい。こっちも、背中終わったわよ」

松村　「ありがとう」

智美　「じゃ、反対向いてくれるかしら」

松村　「いいのかな」

Copyright@2026 D³S

智美　「いいわよ。となりの吉賀君だってしてるでしょ」

吉賀　「松村君、僕のローションに遠慮はいらないよ」

松子　「ちょっと吉賀君、遠慮するのは、そこじゃないわよ」

吉賀　「テヘ」

▽松村、レジャーシートに仰向けになって寝転ぶ

▽智美、松村見事な胸板と、割れた腹筋を見る

（近くでみると、すごいわ。Ｋ１の選手みたい。）

（智美）

「顔みられると恥ずかしから、タオルを顔にかけるわね」

智美　▽智美　バスタオルを小さくたたみ　松村の顔にかける

▽智美、ローションを手の平に出し、松村の胸のあたりから塗りはじめる

Copyright©2026 D³S

（智美）

（すごい筋肉）



▽智美、松村の体に見とれながら、腹筋、胸のあたりからローションを塗っている

（松子）

▽松子、吉賀の胸のあたりにローションを塗る

（吉賀君の乳首って、透けたピンクね　なんて綺麗なんだろう）

松子

「吉賀君　なんで、こんなに肌がきれいなの。嫉妬しちゃうわよ」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「じゃんじゃん、嫉妬してよ」

松子　「もう、本当に嫉妬するわ」

松子　「ねぇ、智美。吉賀君の肌って、綺麗すぎて、妬いちゃうわよね」

▽智美　松村の体に見とれていたので、松子から急に振られて慌てる

智美　「え、松子　なんか言った」

松子　「男の子だって、肌が綺麗なほうがいいよって」

吉賀　「高谷さんは、色白の男の子ってどう思う」

智美　「そうね。私は、色白よりも　松村君のような、綺麗に日焼けしている方が健康そうでいいなって思うわ」

吉賀　「だって、松村君」

▽松村、顔の上のタオルを少し持ち上げる

Copyright@2026 D³S

松村　「からかわないでよ」

智美　「あら、私はウソは言ってないわよ」

松子　「そうよね。人それぞれだもんね」。

▽松子、吉賀の足の方に移動し、足の方にローションを塗っている

▽松子、吉賀の股間を見て　膨らんでいることに気づく

松子　「ちょっと　吉賀君、変な想像してない」

吉賀　「なに、突然」

▽松子、吉賀の股間の方を指差す

　吉賀のトランクスがテントを張っている

智美　「もう、吉賀君たら　レディの前よ」

吉賀　「ばれちゃった。だって、中川さんの塗り方が気持ちいいんだもん」

松子　「それでも、だめよ」

Copyright©2026 D³S

松村　「しょうがないよ、男だから」

吉賀　「そうそう、しょうがないんだもん。男の子だもん」

松子　「なに、その言い方　こうしちゃうぞ」

▽松子、手のひらにローションを出し、吉賀のトランクスの裾から手を入れ陰茎を握り、ローションを擦りつける

Copyright@2026 D³S

吉賀　「ちょっと、やめて、やめて、そこは、いらないよ」

松子　「どう」

▽松子、扱きつづけている



（＃ＡＩによるイメージ画像＃）

Copyright@2026 D³S

吉賀　「まじで、やばいって、出ちゃうよ」

松子　「出したら、小さくなるんでしょ」

吉賀　「ダメだった」

智美　「松子ったら　ダメよ」

　　▽松子、吉賀のトランクスから手を出す

松子　「どう、わかった。今度、大きくしたら、本当に出しちゃうわよ」

吉賀　「え、止めちゃうの。出して欲しかったんだけどな」

松子　「こりてないのね。ようし　出してあげる」

　　▽松子、再び、吉賀のトランクスの裾から手をいれ、陰茎を握り扱きだす

吉賀　「わ、わ、わ、ごめん。　僕が悪かったから、やめて」

　　▽松子、トランクスから手を出す

Copyright@2026 D³S

松子　「よしよし」

▽松子、吉賀の足にクリームを塗り出す

智美　「あぁ、何やってんだか」

松村　「吉賀君てさ、海外育ちだから、そんなことされても平気なんだね」

吉賀　「そうかも。でも　日本だから、海外だからって、関係ないと思うけど」

▽智美、ふと　松村の下半身を見る

（智美）　（え、松村君も　興奮してるの）

※は、吉賀が扱かれて悶えている声を聞き、少し興奮してた

（智美）　（競泳の水着って、もっこりするとはち切れそうになるのね）

智美　「もしかして　松村君も、大きくなってない」

松村　「そんなことないよ」

Copyright@2026 D³S

吉賀　▽吉賀、上半身を起こし、松村の股間を見る

「松村君、ウソはだめだよ、めっちゃ起ってるじゃん」

松村　「ごめん。じゃ、もういいかな」

▷松村、上半身を起こそうとする

智美　▷智美、松村が上半身を起こそうとするのを止める

「大丈夫。私の塗り方が上手だってことだもん」

松村　「ごめんね」

▽智美、松村の競泳水着の膨らみをじっと見る

（智美）　（なんて、大きいのかしら

ほんとのこと言うと、私　男の人のって触ったこともないのよね。

もちろん、経験もないし。バカにされたくないから、周りには思わせぶりだけしちゃって。松子は、もう　触ってるというのに。私も、触ってみたい）

▽智美、レジャーシートの上に置いてあるローションの瓶を取る

Copyright©2026 D³S

手のひらのローションを出そうとするが、わざと
松村の競パンの上で手を離し、瓶は松村の競パンの上に落ち
ローションが、松村の競パンに零れてしまう

智美　「あ、ごめんなさい」

▽智美、手で松村の競パンの上のローションを拭おうとするが、
白い競パンに直ぐに染みこまれてしまう

▽智美　何度も　競パンの固くなった部分を擦る

（智美）（あ、これが、男の人の感触なのね。確かに固いわ）

▽松村、顔の上のタオルをどけ、上半身を起こす

松村　「高谷さん、もう、大丈夫だよ」

智美　「ごめんなさい。汚しちゃって」

▽智美、松村の競パンから手をどける

松村　「海に入ればいいから　問題ないから」

Copyright@2026 D's

智美

「ごめんなさい」

Copyright@2026 D³S

□第二幕　最後の夜

○（夜）　松子の祖母の家の庭
　庭はかなり広い
　美優、松子、智美、小村、吉賀、松村の六人は庭に出て花火をしている
　縁側に祖母が座り、みんなを見ている

智美　「花火って久しぶりだわ」

美優　「そうよね。花火をする場所がないもの」

吉賀　「いつもは、特別席で見ているだけだから、自分でする花火って初めてだよ」

（美優）　（はいはい。お前ごと筒に入れて、打ち上げてやるよ）

▽松子の祖母、縁側に座り花火をみている

▽松子、新しい火の付いてない花火を持つ

▽松子、花火を持っている吉賀に近づく

松子　「吉賀君、火をくれる」

Copyright@2026 D³S

松子

祖母

▽松子、吉賀の花火に自分の花火をくっつけて、吉賀の花火から火をもらう
松子の花火に火が付いた

▽松子、吉賀が並んで、花火をしている

「おばあちゃん、花火きれいね」

▽松子、縁側で座っている祖母に声をかける

「うん、うん、きれいだね」

▽松子、吉賀と笑顔になって、花火をしている

▽祖母、松子と吉賀をじっと見ている

〇（次の日の朝）松子の祖母の家の玄関
美優、松子、智美、小村、吉賀、松村は、帰るため、荷物を持ち
靴を履いている

▽祖母　ラップで包んだおにぎりが入った、スーパーの手提げ袋を
松子に渡す。

Copyright@2026 D's

祖母
松子
袋を覗く
智美
美優
小村
祖母
吉賀

▽松子　袋の中を見る
　ラップで包まれた　おにぎりが沢山はいっている
「たくさん作ったから、お昼に食べなさい」
「わぁ、おにぎりだわ。ありがとう」
▽智美
「素敵なお昼ご飯ね。ありがとう　おばあちゃん」
「わ、美味しそう。」
○（同）祖母の家の前
「ありがとうございました」
「また、来年もいらっしゃい」
「はい。また来ます」

Copyright@2026 D³S

松村　「吉賀くんには聞いてないと思うけど」
祖母　「うんうん。おいで、おいで」
松子　「うん、絶対くるね。だから、待っててよ」
祖母　「はいはい、待ってるよ」
美優　「おばあちゃん、私も　来てもいい？」
祖母　「おいで　おいで　みんなで　おいで」
智美　「もう、美優ったら、遠慮しないんだから」
　　▽祖母、吉賀に近づく
　　▽祖母。吉賀の手を握る
祖母　「松子ちゃんのこと、頼むわね」
吉賀　「はい、大丈夫です。僕に任せておいてください」

Copyright@2026 D'S

松子　「おばぁちゃん、何言ってるの。吉賀君は、ただのクラスメイトよ」

（小村）　（吉賀、何言ってるんだろう）

祖母　「そうかい、そうかい。おばぁちゃんは、松子ちゃんのこと、なんでも知ってるよ」

松子　「もう、おばあちゃんたら」

＃迎えのタクシーが２台やって来る＃

＃タクシーが止まり、後ろのトランクが開く＃

▽小村、トランクに荷物を入れだす

「タクシーが来たら、行こうか」

小村　「じゃ、帰るね。絶対、来年　みんなでくるからね」

松子　「ありがとう、ございました」

（一同）　▽六人、タクシーに乗り込む

Copyright@2026 D's

“走り出すタクシー＃

▽松子、タクシーの窓を開け、ずっと祖母に向かって手を振る

▽祖母、タクシーが見えなくなるまで見送っている

〇帰りの電車の中

▽六人は、おばあちゃんの作ってくれた　おにぎりを食べていた

美優「おにぎり　おいしいわ」

吉賀「この素朴さがいいよね」

〇智美、美優、松子が座っている

智美「とてもいい　夏休みだったわね」

美優「本当、最高の夏休みだったわ」

▽知美、松子の顔を見る

Copyright@2026 D³S

松子、すこし元気がない

智美「どうしたの？　松子　元気ないけど」

▽松子、悲しげな表情

松子「実は、おばあちゃん、体調悪くて、あと半年位しか生きられないんだって」

美優「え？」

松子「夏休み前に、父と母が話しているのを聞いちゃったの」

智美「それで、急に行きたいって言ったのね」

松子「ごめんね。みんなを巻き込んで」

美優「何言ってるの。私たちだって、こんな素敵な夏休みを経験できたのよ」

松子「ありがとう。昔から、おばあちゃん、私の将来の　お婿さんを見たい見たいって口癖のように言ってたの」

智美「だから、吉賀君をさそったのね」

Copyright©2026 D³S

松子　「うん。ごめんね　吉賀君」

吉賀　「僕は、ぜんぜん構わないよ」

美優　「松子。大丈夫。来年もみんなで、会いに行けるって」

松子　「ありがとう美優」

智美　「そうね。その時は、私のパートナーも一緒よ」

松子　「もう、智美ったら」

▽知美、松村の方を見る

Copyright@2026 D³S

□第三幕　夏休みの部活の帰り道

〇（夏休み部活の帰り）道
　夕方だが　まだ明るい
　美優は、夏用制服と、リュックを背負っている

▽美優、家に向かって歩いている

▽小村、自転車で追いかけてくる

小村　「お～い。夢前！」

▽美優、小村の声に気づき　止まって振り向く

▽小村　、優に追いつき、自転車を止める

美優　「小村君も　今　帰り？」

小村　「おぅ、一緒に帰ろうぜ」

美優　「ええ」

Copyright@2026 D³S

▽小村、自転車を降りる

▽小村、美優　並んで歩き出す

○（同）通学路

美優、小村　並んで歩いている

小村「それにしても　暑いよな」

美優「ほんと、暑いわよね。なんとかならないかしら？」

小村「まだ、明るいし、かき氷でも食べて帰らないか？」

美優「太るわよ」

小村「美優は、スタイルいいんだから、ちょっとぐらい大丈夫だって」

美優「お世辞を言っても、割り勘よ」

小村「ばれたか。よし、決まり」

Copyright@2026 D³S

小村
店主
小村
美優
店主

○キッチンカーの前
　キッチンカーの中では店主が注文を待っている
▽美優　小村、キッチンカーの店主に注文する
「イチゴのかき氷２つ」
「はい。かき氷、二人前ですね」
▽小村、お金を払う
▽美優　小村、キッチンカーの横のベンチに座る
「ここ、夏になると、かき氷もやってるんだな」
「ほんと、クレープより、かき氷の気分だもの」
▽店主、大盛りかき氷を一つを持ってくる
　持ってきた　かき氷　スプーンが２つ刺してある
「はい、かき氷　おまちどおさま」

Copyright@2026 D's

美優　▽小村、かき氷を受けとる

小村　▽店主、キッチンカーの中に戻って行く

美優　「あれ？　これ」

小村　「どうりで二人前って言ったわけだ。どうする。別々に作り直してもらうかい」

美優　「わたしは、これでもいいわよ」

小村　「俺も　これでいいよ」

▽小村、かき氷をもったまま　食べはじめる

▽美優、小村の持っているかき氷を食べる

美優　「やっぱり夏は、かき氷ね」

小村　「なぁ夢前　覚えてるか」

美優　「何を」

Copyright@2026 D³S

小村　「一年前ここで、クレープ食べたの」

美優　「もちろんよ」

（美優）（この後、あなたの大事なところ、握ってしまうんだもの）

小村　「まさか、一年後も　こうして夢前といるなんて、思ってもなかったよ」

美優　「私、正直いうと成績は下の方だったの
でも、ここで小村君とクレープを食べて、小村君と一緒に帰るようになって、
小村君が工業高校に行きたい理由を聞いて、私も、小村君と同じ学校に
進学したいと思ったの。そして、必死で勉強して、小村君と同じ学校に入れて、
とてもよかった。
智美や松子に出会えてとてもよかった。
そういう意味では小村君に感謝しなきゃね」

（美優）（実は、小村君のいかせてみたいからが動機なんて、言えないよ）

小村　「美優の成績が下の下って知ってたよ。よく受かったよな」

美優　「レッドカード」

Copyright©2026 D³S

小村　「いや、夢前の頑張りにすごく驚いているんだよ。すごいよ」

美優　「そうよね。私、勉強できなかったから、小村君と同じ学校に行けるなんて夢また夢だったわ。我ながら頑張ったわ」

小村　「そうだよな。えらいよ」

美優　「ちょっと、上から目線はやめてよ」

小村　「悪い、悪い。なんか、夢前と同じ学校に行けたことがうれしくてさ」

美優　「私もよ」

小村　「海も楽しかったよな」

美優　「ええ、とっても楽しかったわ」

小村　「この学校を選んでよかったよ」

美優　「私も。智美、松子と出会えて最高よ。他の学校に行ってたら、智美や松子に会えなかったと思うと悲しくなっちゃう」

Copyright@2026 D³S

小村　「うんうん。俺、吉賀みたいなのはじめてだけど、本当にすごく良い奴だと思う」

美優　「わかる。吉賀君って、世界で唯一の人じゃないかって思うもの」

小村　「夢前もそう思うか」

美優　「思うわよ。あんな子　他にいないって」

（美優）（あんな、アイドル以上の顔とスタイルって早々いないって）

小村　「それだと松村だって、他にいなさそうだな」

美優　「うんうん」

（美優）（あの顔で、あの体格って、萌えキャラとしてはラスボス級ね）

美優　「あら、そういえば、最近　部活で吉賀君を見てないけど」

小村　「吉賀は、今　海外の両親の所に行ってるよ」

美優　「海外か～この年齢で気軽に海外行くのってすごいわ」

Copyright@2026 D³S

小村　「そうだよな。俺なんか、いつ海外旅行なんていけるのか　わかんないしな」

美優　「あ～私の初　海外旅行は新婚旅行までないわね」

小村　「それは、結婚できればね？ってことじゃない？」

美優　「言ったわね」

小村　「まあ、結構相手がいないなら俺が引き取ってやるよ」

美優　「小村君、今なんて？」

小村　「な、なんでもない・・」

▽小村　美優、かき氷を食べ終わる

小村　「じゃ、帰ろうか」

▽美優、かき氷の器とスプーンをキッチンカーにかえしに行く

美優　「ごちそうさま。冷たくておいしかったわ」

Copyright@2026 D's

店主　「ありがとうございます。彼氏かっこいいね」

美優　「まぁね」

▽美優、少しニヤける

▽小村、自転車のところで待っている

▽美優、小村のところに走っていく

▽小村、美優　歩き出す

美優　「あの日の小村君のとの出会いは偶然じゃなかったのかもしれないわ」

（美優）（我ながら、ロマンチックな言い訳だなぁ。
まさか、あんたのイク顔が見たくてとは言えないよな）

（しばらく歩いている）

○信号機の場所

Copyright@2026 D'S

小村　「そういえば、この信号機のところだったよな」

美優　「何が」

小村　「覚えてない？夢前が俺の大事な所を掴んで、驚いたよ」

美優　「そんなこと合ったかしら。私　全然　記憶にないんですけど」

（美優）（うそうそ、あのときの手の感触、未だに忘れられないんだよね）

小村　「俺、慌ててて、むちゃくちゃな言い訳してたけど、
初めて、親以外に触られて、ほんとに驚いたよ
でも、最初に触られたのが夢前でよかったかな」

美優　「もう、小村君たら、私　変態みたいじゃない」

（美優）（絶対、この手でいかせてあげるからね）

Copyright©2026 D³S

□第四幕　吉賀の帰省

〇吉賀の実家
　カリブ海に浮かぶ小国にある、邸宅

▽吉賀、広い廊下を歩いている

吉賀は両親に会うため、カリブ海に浮かぶ小さな島国に帰っていた。
小国ながら、金とダイヤを産出し、国民は、豊かな生活をしていた。
吉賀家は代々、この小さな島国の外交官として勤めている。

▽吉賀、大きな扉を開けて、リビングに入る

▽初老（吉賀の祖父）、ソファーに座ってくつろいでいる

吉賀「ただいま、御爺様」

祖父「おお、達郎か　帰ってきたのか」

吉賀「はい、たった今、日本から」

祖父「そうか。今回は、いつまで居れるのじゃ？」

Copyright@2026 D³S

吉賀　「一週間ほど　こちらに」

祖父　「そうか、ゆっくりしていけよ」
ところで、小村の孫には会えたのか？
どんな、オナゴじやった」

吉賀　「それが、素敵な　殿方様でした」

祖父　「なんと、男であったか」

吉賀　「はい。それはそれは素敵な殿方様で、お爺さまの
お願いでなくても、惚れしまいました」

祖父　「そうか　そうか　それは　よいことだ。
ならば達郎、女になるか？
それとも　2人とも、この国に来て契りをかわすか？
この国なら、同性婚も認めておるからな」

吉賀　「しかし、お爺様、小村様に惚れているのは、私の方だけかもしれません。
もうしばらく時間をいただけますか？」

Copyright@2026 D³S

祖父　「なぜじゃ？」

吉賀　「やはり、共に思いやるようにならなければ、真の夫婦にはなれません」

祖父　「そうか、達郎は文武両道、茶道も心得ておる。
男としても女としても器量をもっておる。
必ず、小村の孫も、お前を惚れるに間違いない」

吉賀　「はい」

▽吉賀（母）、部屋に入ってくる

母　「ちょっと、お義父さん止めてください」

吉賀　「ただいま　お母様」

母　「達郎　おかえり」

祖父　「遙（はるか）、何を言う」

母　「お義父さん、達郎は男ですよ。なんで、男と結婚するのですか？
美しい達郎は、美しい女性と結婚して、さらに美しい子供を

Copyright@2026 D's

祖父　つくるのです。」

母　「いかん、いかん。お互いの孫を結婚させようと、小村とワシの約束じゃ。この約束は絶対じゃ」

「そんな戦争中の約束なんか、無効よ。もう、いいから、達郎は久々なんだし友達と遊んできなさい」

吉賀　「はい」

母　「いい、お義父さん～」

▽吉賀、部屋を出て　長い廊下を歩いていく

祖父と母の言い合いが聞こえている

Copyright@2026 D³S

「私が工業高校に進学した理由　一学期」

おわり

Copyright@2026 D³S